

## 調査④介護支援専門員調査結果（速報版）

### ①調査の目的

介護支援専門員の業務状況や業務全般に対する考え、市への意見や要望等を把握することで、介護支援専門員の質の向上、医療介護連携の推進、サービス提供体制のあり方について検討する。

### ②調査対象

- ・市内の居宅介護支援事業所に在籍する全介護支援専門員（ケアマネジャー）：170人

### ③調査方法

- ・郵送配布・郵送回収（督促礼状1回送付）

### ④調査時期

- ・令和元年10月11日～10月28日

### ⑤回収率

区分	発送・配布数	回収数（率）		有効回収数（率）	
介護支援専門員	170	104	(61.2%)	104	(61.2%)

## ⑥調査項目

項目	設問No.	設問
<b>A 基本属性</b>		
	問 1	性別
	問 2	年齢
	問 3	ケアマネジャー以外の所有資格
	問 4	ケアマネジャー業務の経験年数
	問 5	主任ケアマネジャー資格の有無
	問 6	現在の居宅介護支援事業所での在職期間
<b>B ケアマネジャー業務の担当状況</b>		
	問 7	勤務形態
	問 7-1	兼務している業務
<b>C ケアプランの作成状況</b>		
	問 8	担当している利用者数
	問 8-1	介護予防プランの作成を受託していない理由
	問 8-2	介護予防プランの受託件数を増やすうえでの課題
<b>D 担当地域におけるサービスの状況</b>		
	問 9 (1)	量的に不足しているサービス
	問 9 (2)	ケアプランに組み入れにくいサービス
	問 9 (3)	必要性が高まるとされるサービス
	問 10	介護保険以外のサービスやサポートをケアプランに加えたことがあるか
	問 10-1	ケアプランに加えた高齢者保健福祉サービス
	問 10-2	ケアプランに加えたインフォーマルサポート
	問 11	今後一層の充実が必要だと感じる高齢者保健福祉サービス
	問 11-1	その理由 (自由回答)
<b>E サービス提供事業所等との関わり</b>		
	問 12	サービス提供事業所に関する情報収集や連絡,調整の方法
	問 13	ケアプラン作成時の医療機関等からの情報収集の状況
<b>F サービス担当者会議</b>		
	問 14	サービス担当者会議への参加状況
	問 15	サービス担当者会議の開催にあたって困難と感ずること
<b>G 地域包括支援センターの役割</b>		
	問 16	地域包括支援センターの役割に対する評価
<b>H サービス利用者の在宅療養の状況</b>		
	問 17	訪問看護、訪問歯科診療、訪問服薬管理指導が必要と思われる利用者の有無
	問 18	在宅療養高齢者の急変時の医療機関への移行
	問 19	在宅療養を進めていくうえで不足している機能
	問 20	医療的ケアが必要な人のショートステイ利用状況
	問 21	在宅療養を支えるうえで必要と思われる支援・サービス (自由回答)
	問 22	後方支援病床利用調整事業の利用状況
	問 22-1	利用に至らない理由 (自由回答)

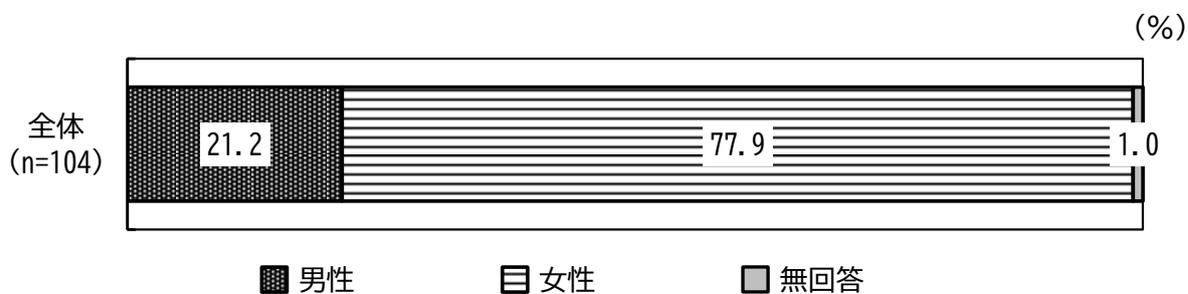
<b>I 認知症患者のサービス利用</b>	
問 23	認知症の利用者の状況で実際にあること
問 24	認知症患者の支援にあたってのかかりつけ医との連携
問 25	認知症患者の支援に必要なことになること
<b>J 医療と介護の連携の状況</b>	
問 26	医療機関やかかりつけ医との情報交換の方法
問 27	入院時の情報提供書の提出状況
問 28	退院前(時)カンファレンスへの出席状況
問 29	医療機関との間での問題やトラブルの有無
問 29-1	医療機関との間で発生した問題やトラブルの内容 (自由回答)
問 30	関係機関、職種との連携状況 (自由回答)
問 31	医療と介護の連携で苦労していること (自由回答)
問 32	在宅療養を支えるうえで、さらに連携が必要と考える医療職
<b>K ケアマネジャー業務全般</b>	
問 33	自立支援に向けたケアプランの作成状況
問 33-1	自立支援に向けたプランとして意識していること・工夫していること (自由回答)
問 33-2	不十分だと思う理由 (自由回答)
問 34	ケアマネジャー業務を行ううえでの課題
問 35	ケアマネジャー業務の中で負担と感ずること
問 36	ケアプランを作成するうえで困ったときの相談先
問 37	相談内容
問 38	ケアマネジャー業務のレベルアップのために行っている取組、今後行いたい取組
問 39	利用者への情報提供の際の課題
<b>L 意見・要望</b>	
問 40	ケアマネジャーとして市に望むこと
問 41	介護保険制度に関する要望等 (自由回答)

## ⑦調査結果の概要

### (1) 回答者について

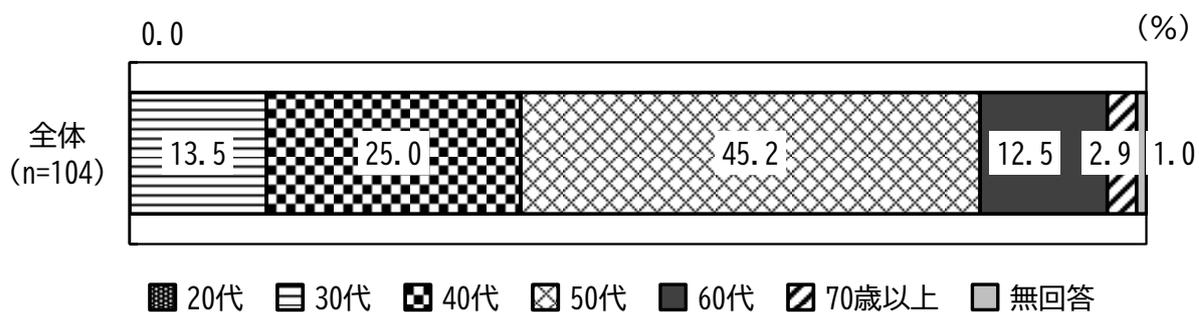
#### 問1 あなたの性別をお答えください。(1つに○)

- ・「男性」が21.2%、「女性」が77.9%となっている。



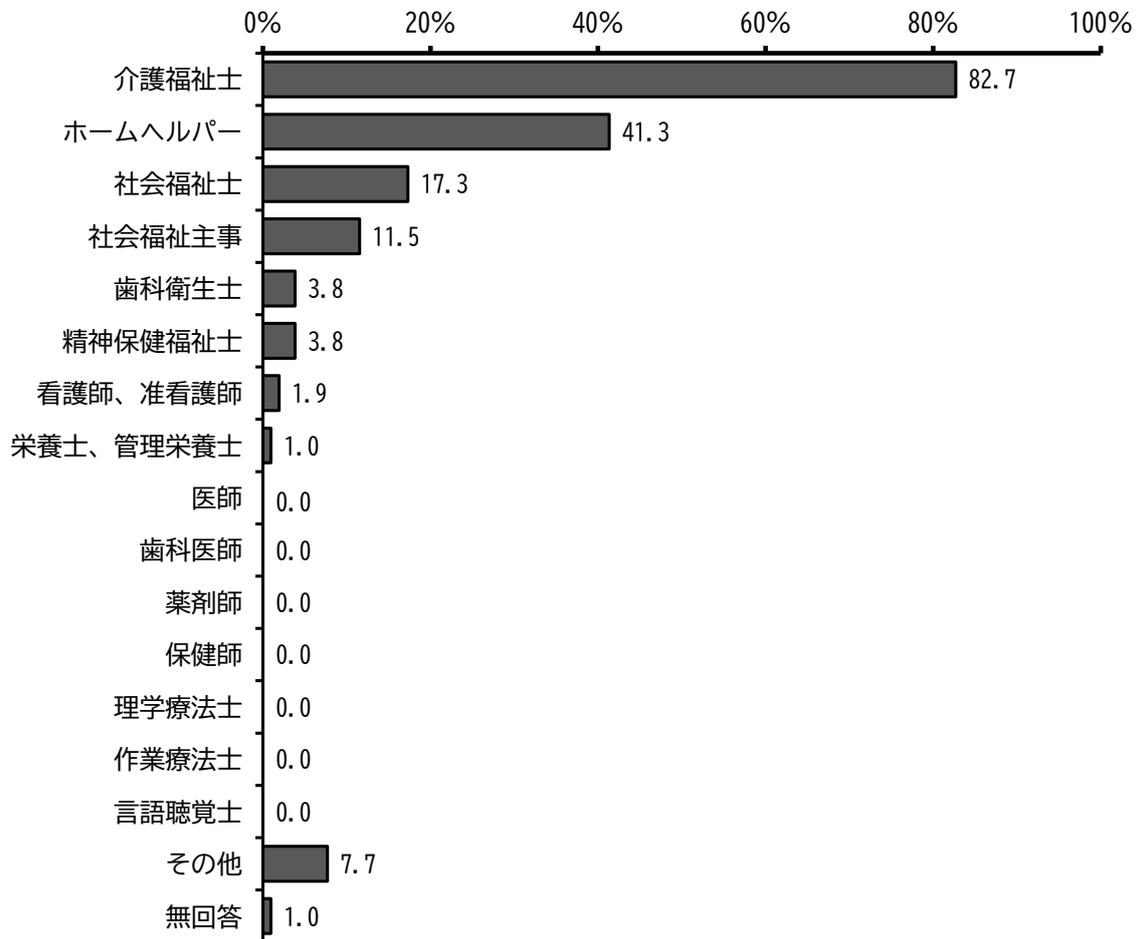
#### 問2 あなたの年齢をお答えください。(1つに○)

- ・「50代」(45.2%)が最も多く、次いで「40代」(25.0%)、「30代」(13.5%)、「60代」(12.5%)と続いている。



問3 あなたは、介護支援専門員（以下「ケアマネジャー」）以外にどのような保健医療福祉関係の資格をお持ちですか。（いくつでも○）

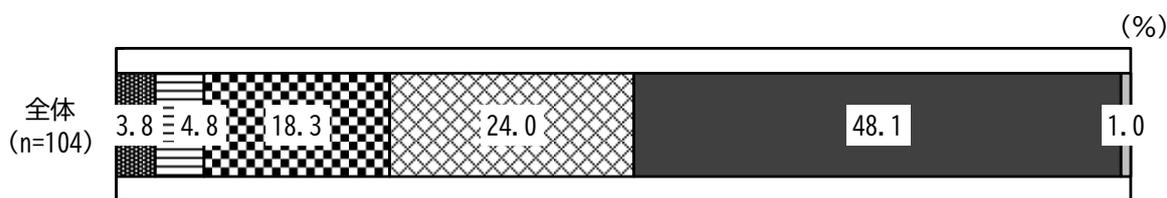
- ・「介護福祉士」(82.7%)が最も多く、次いで「ホームヘルパー（訪問介護員）」(41.3%)、「社会福祉士」(17.3%)、「社会福祉主事」(11.5%)と続いている。



全体 (n=104)

**問4 あなたは、ケアマネジャー業務に従事してどのくらいの経験がありますか。転職などをしている場合は、前職なども含めた合計期間で教えてください。（1つに○）（令和元年10月1日時点）**

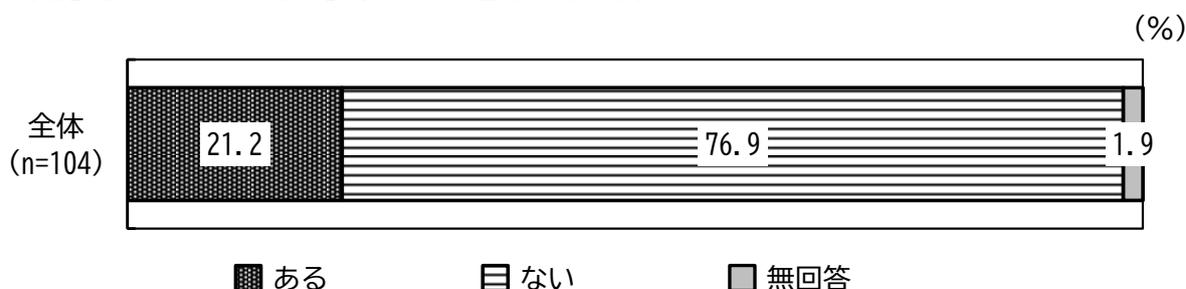
- ・「7年以上」(48.1%)が最も多く、次いで「5年以上7年未満」(24.0%)、「3年以上5年未満」(18.3%)と続いている。



■ 1年未満 ■ 1年以上3年未満 ■ 3年以上5年未満 ■ 5年以上7年未満 ■ 7年以上 ■ 無回答

**問5 あなたは、主任ケアマネジャー（主任介護支援専門員）の資格を有していますか。（1つに○）**

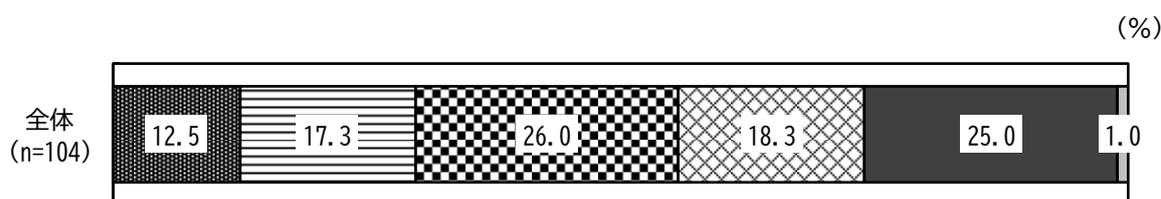
- ・「ある」が21.2%、「ない」が76.9%となっている。



■ ある ■ ない ■ 無回答

**問6 あなたは、現在の居宅介護支援事業所でケアマネジャーとして在籍している期間はどのくらいですか。（1つに○）**

- ・「3年以上5年未満」(26.0%)が最も多く、次いで「7年以上」(25.0%)、「5年以上7年未満」(18.3%)、「1年以上3年未満」(17.3%)と続いている。

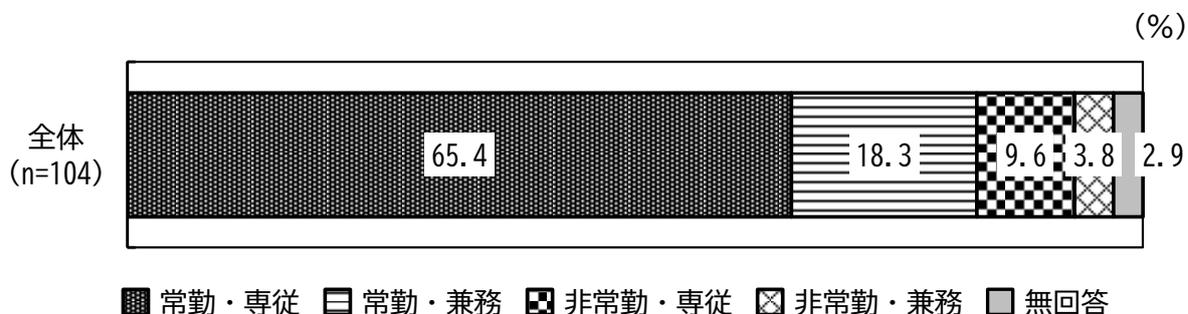


■ 1年未満 ■ 1年以上3年未満 ■ 3年以上5年未満 ■ 5年以上7年未満 ■ 7年以上 ■ 無回答

## (2) ケアマネジャー業務の担当状況について

### 問7 あなたの勤務形態をお答えください。(1つに○)

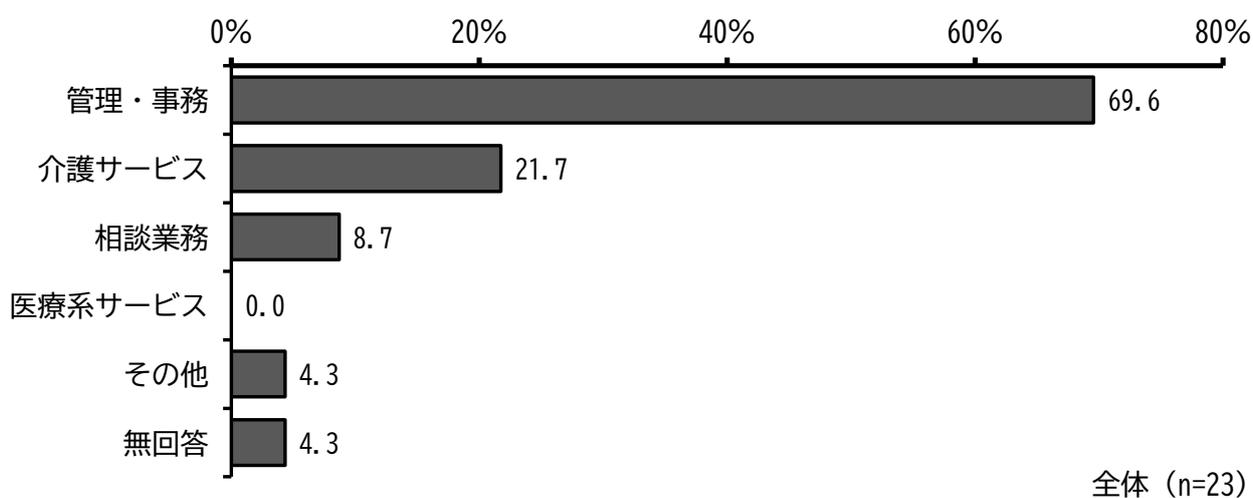
- ・「常勤・専従」(65.4%)が最も多く、次いで「常勤・兼務」(18.3%)、「非常勤・専従」(9.6%)となっている。



«問7で「2」又は「4」と答えた方におたずねします»

### 問7-1 どのような業務を兼務していますか。(いくつでも○)

- ・「管理・事務」(69.6%)が最も多く、次いで「介護サービス」(21.7%)、「相談業務」(8.7%)となっている。

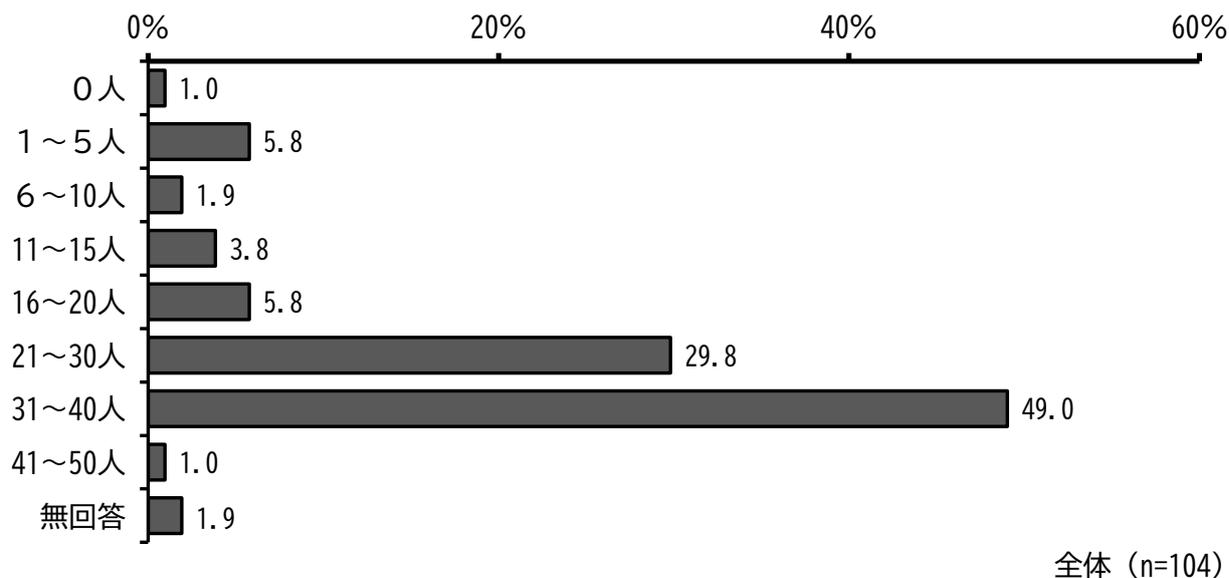


### (3) ケアプランの作成状況について

問8 令和元年9月末現在、あなたが担当している利用者数（一時的入院中などを含め、継続的に関わっている総利用者数）をご記入ください。担当している利用者や件数がない場合には「0」と記入してください。

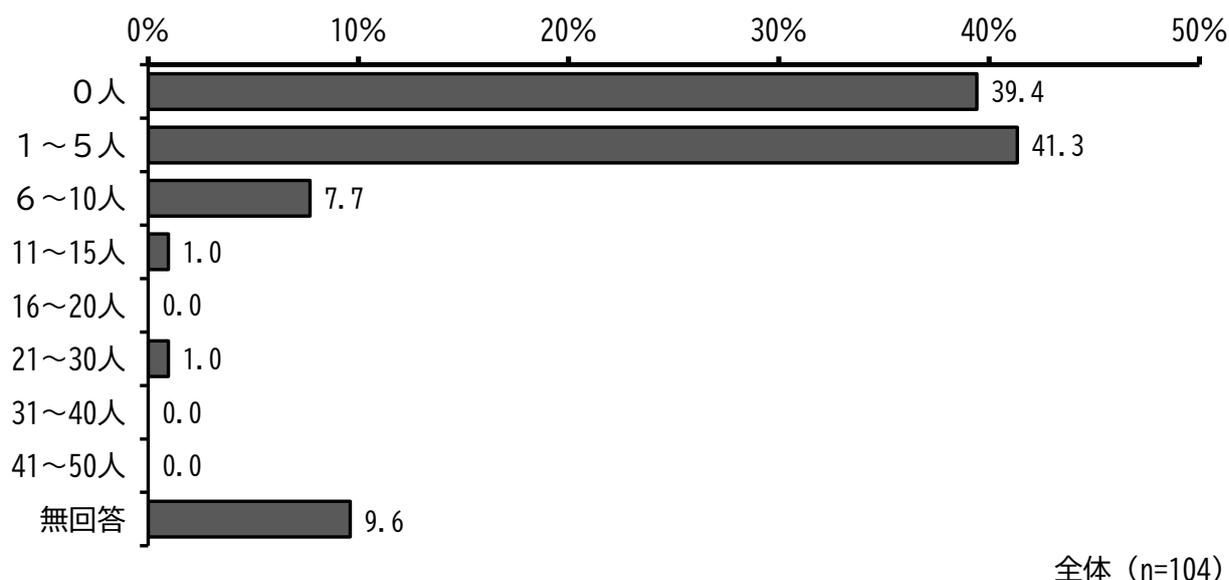
【要介護1～5】

- ・「31～40人」(49.0%)が最も多く、次いで「21～30人」(29.8%)、「1～5人」(5.8%)、「16～20人」(5.8%)、「11～15人」(3.8%)と続いている。



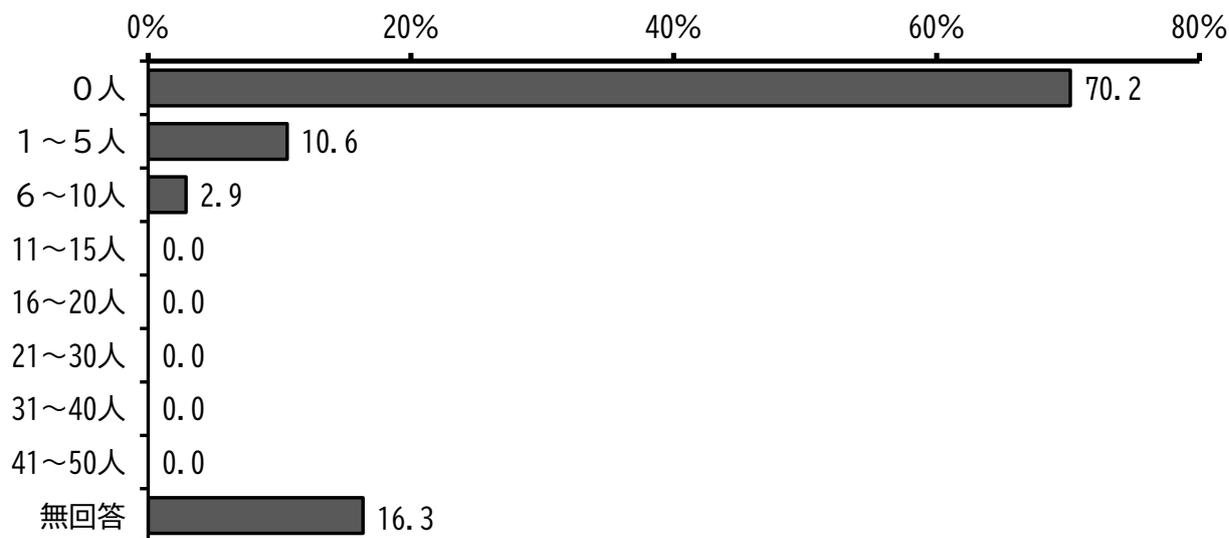
【介護予防プラン（要支援1・2）】

- ・「1～5人」(41.3%)が最も多く、次いで「0人（なし）」(39.4%)、「6～10人」(7.7%)、と続いている。



【介護予防・日常生活総合事業対象者】

・「0人（なし）」(70.2%)が最も多く、次いで「1～5人」(10.6%)、「6～10人」(2.9%)となっている。



全体 (n=104)

---

《居宅介護支援事業所の管理者（又は管理者に類する方）におたずねします》

問 8-1 介護予防プランの作成を受託していない場合、その理由を具体的にお書きください。

---

※集計中

---

《居宅介護支援事業所の管理者（又は管理者に類する方）におたずねします》

問 8-2 介護予防プランの受託件数を増やすうえで課題となることは何ですか。具体的にお書きください。

---

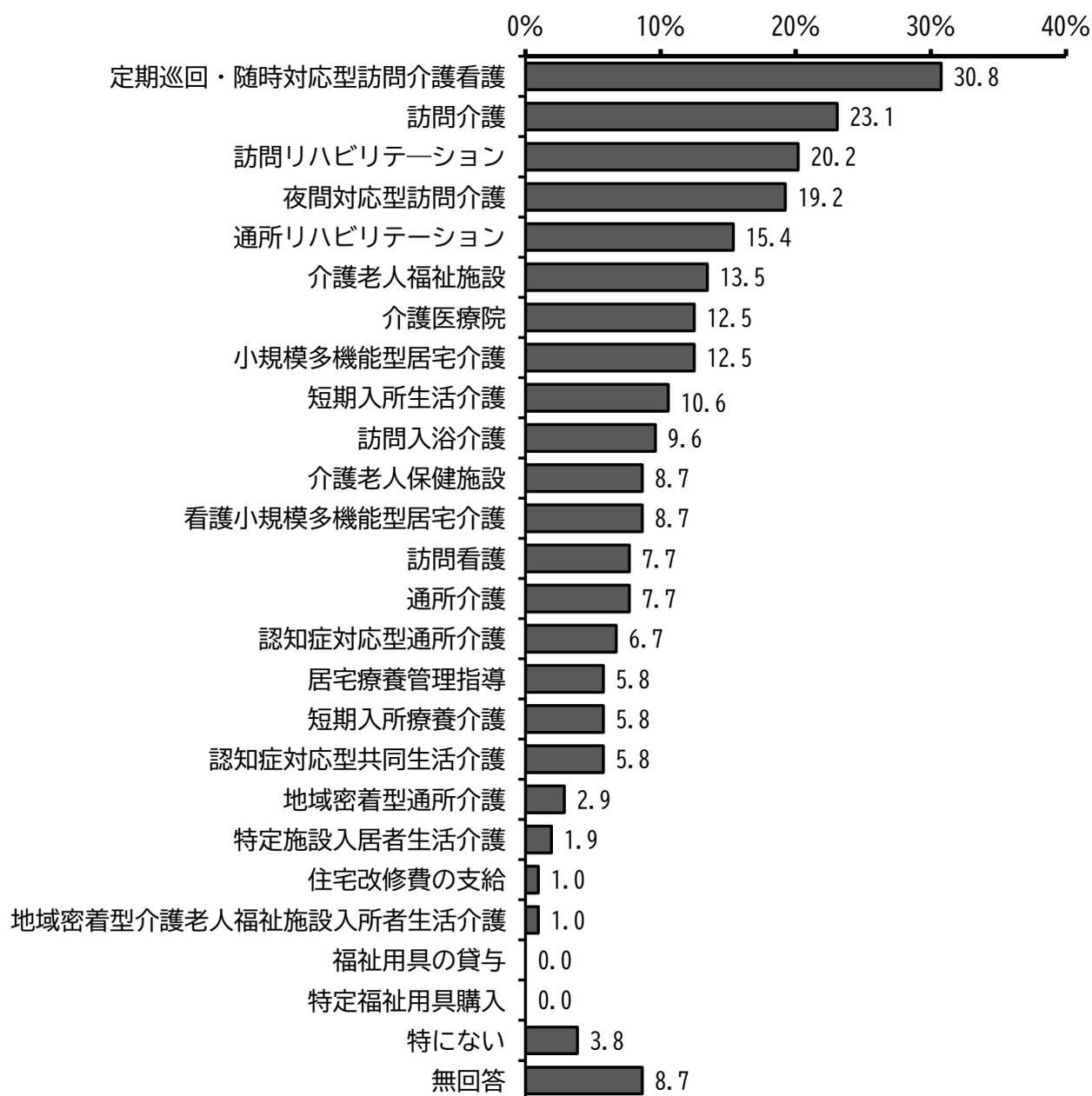
※集計中

#### (4) 担当地域におけるサービスの状況について

問9 担当している地域で、事業所数もしくは定員など、量的に不足していると感じるサービス、また、ケアプランに組み入れにくいサービス、今後必要性がより高まるとされるサービスはありますか。(それぞれ3つまで選んで番号を記入)

##### (1) 量的に不足しているサービス

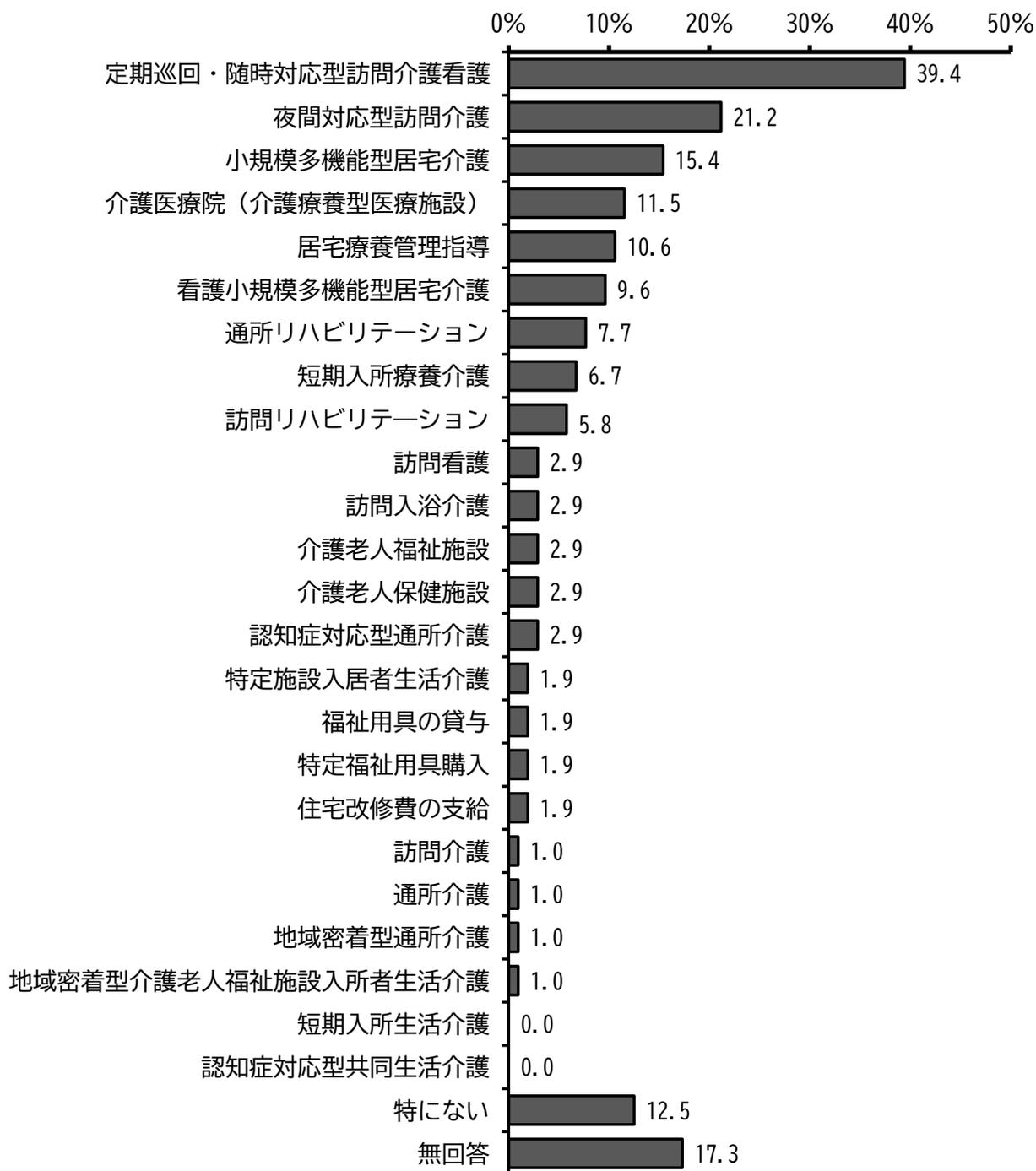
- ・「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」(30.8%)が最も多く、次いで「訪問介護」(23.1%)、「訪問リハビリテーション」(20.2%)、「夜間対応型訪問介護」(19.2%)と続いている。
- ・一方、「特にない」は3.8%となっている。



全体 (n=104)

## (2) ケアプランに組み入れにくいサービス

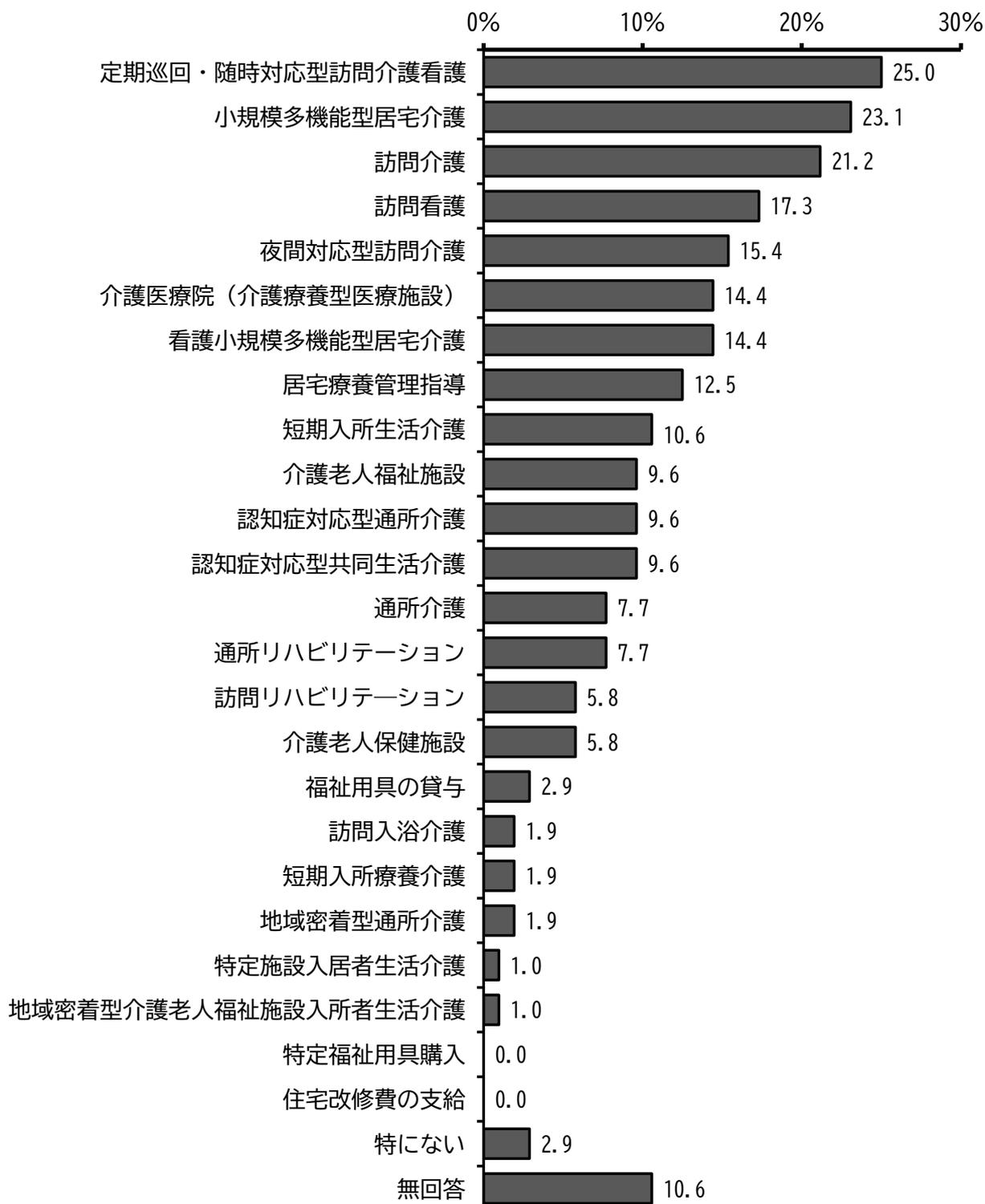
- ・「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」(39.4%)が最も多く、次いで「夜間対応型訪問介護」(21.2%)、「小規模多機能型居宅介護」(15.4%)、「介護医療院（介護療養型医療施設）」(11.5%)、「居宅療養管理指導」(10.6%)と続いている。
- ・一方、「特にない」は12.5%となっている。



全体 (n=104)

### (3) 今後必要性がより高まるとされるサービス

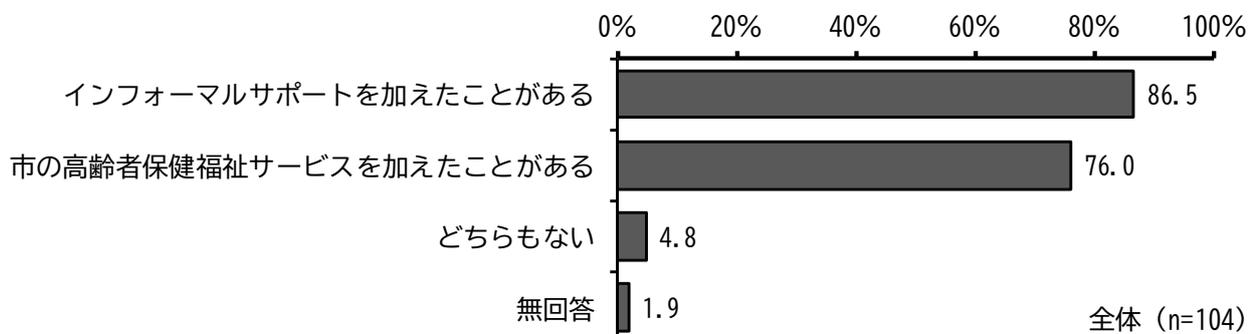
- ・「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」(25.0%)が最も多く、次いで「小規模多機能型居宅介護」(23.1%)、「訪問介護」(21.2%)、「訪問看護」(17.3%)、「夜間対応型訪問介護」(15.4%)と続いている。
- ・一方、「特にない」は2.9%となっている。



全体 (n=104)

**問 10 あなたは、介護保険サービス以外のサービスやサポートをケアプランに加えたことがありますか。  
(いくつでも○)**

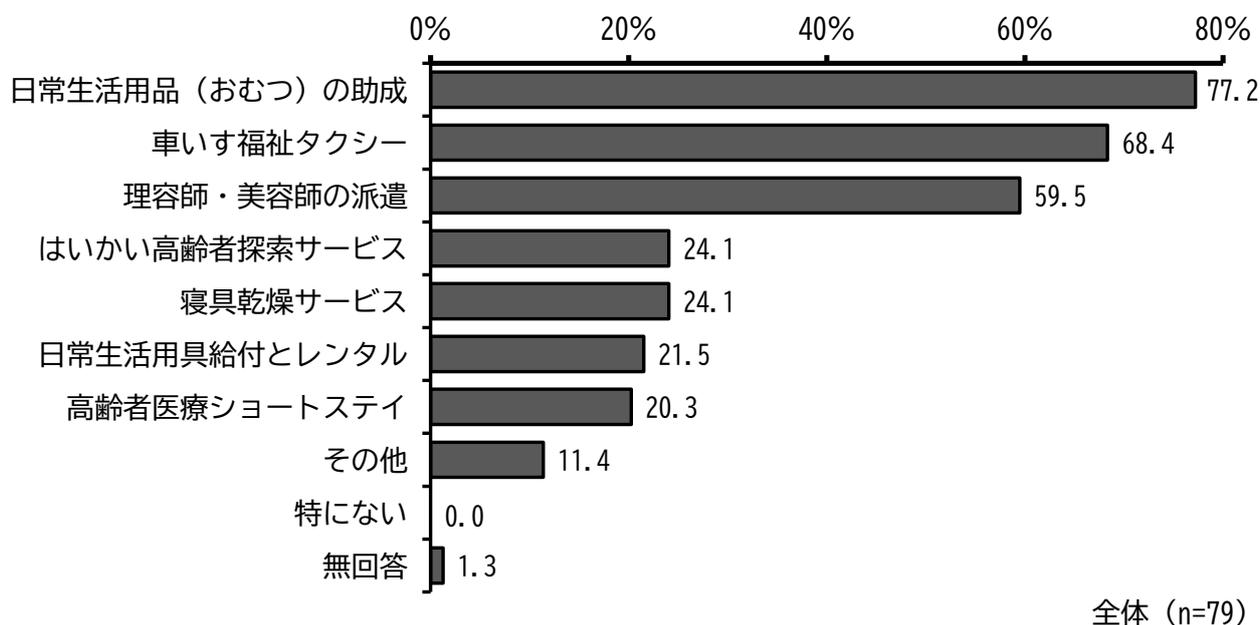
- ・「市の高齢者保健福祉サービスを加えたことがある」が76.0%、「インフォーマルサポートを加えたことがある」が86.5%、「どちらもない」が4.8%となっている。



**«問 10 で「1」とお答えの方におたずねします»**

**問 10-1 ケアプランに加えた高齢者保健福祉サービスはどれですか。(いくつでも○)**

- ・「日常生活用品（おむつ）の助成」(77.2%)が最も多く、次いで「車いす福祉タクシー」(68.4%)、「理容師・美容師の派遣」(59.5%)と続いている。
- ・一方、「特にない」は0.0%となっている。

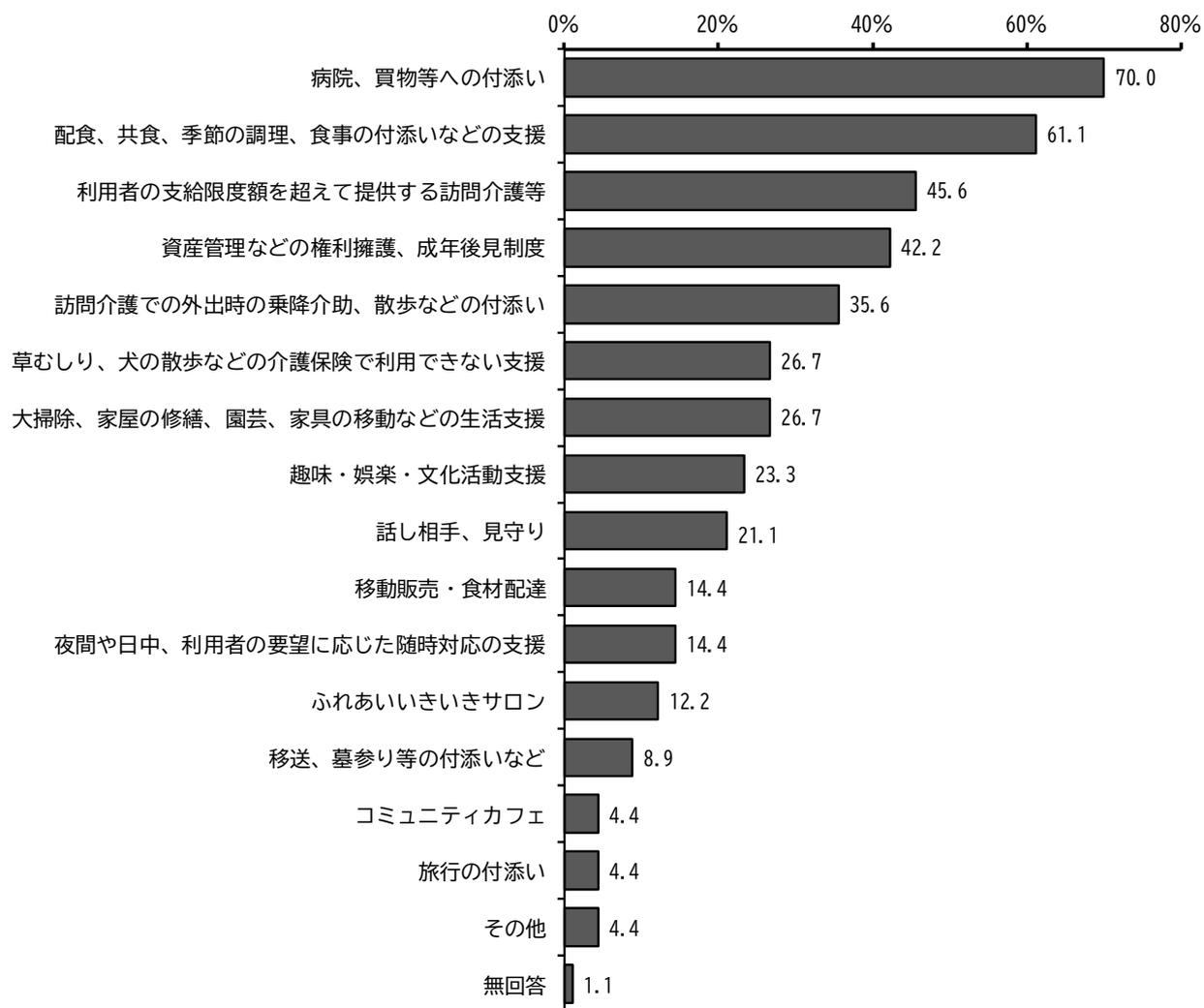


「問 10 で「2」とお答えの方におたずねします」

問 10-2 ケアプランに加えたインフォーマルサポートはどのような内容のものですか。

(いくつでも○)

- ・「病院、買物等への付添い」(70.0%)が最も多く、次いで「配食、共食、季節の調理、食事の付添いなどの支援」(61.1%)、「利用者の支給限度額を超えて提供する訪問介護等」(45.6%)、「資産管理などの権利擁護、成年後見制度」(42.2%)、「訪問介護での外出時の乗降介助、散歩などの付添い」(35.6%)と続いている。



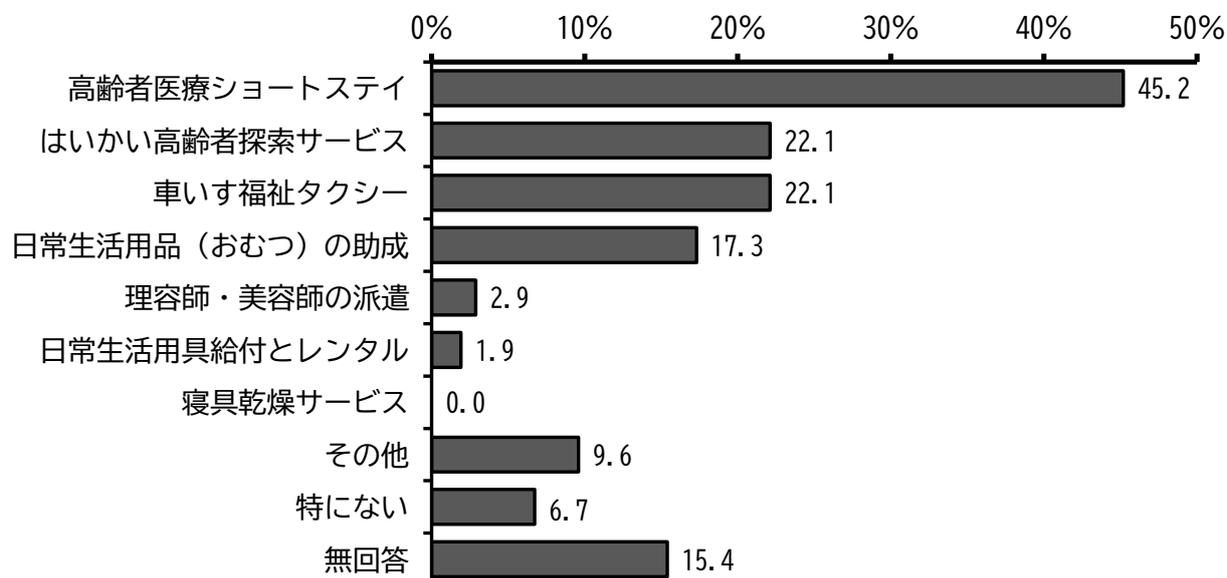
全体 (n=90)

---

**問 11 今後一層の充実が必要と感じる高齢者保健福祉サービスは次のどれですか。（2つまでに○）**

---

- ・「高齢者医療ショートステイ」(45.2%)が最も多く、次いで「はいかい高齢者探索サービス」「車いす福祉タクシー」(ともに22.1%)、「日常生活用品（おむつ）の助成」(17.3%)と続いている。
- ・一方、「特にない」は6.7%となっている。



全体 (n=104)

---

《問 11 で「1」～「8」とお答えの方におたずねします》

問 11-1 その理由を具体的にお書きください。

---

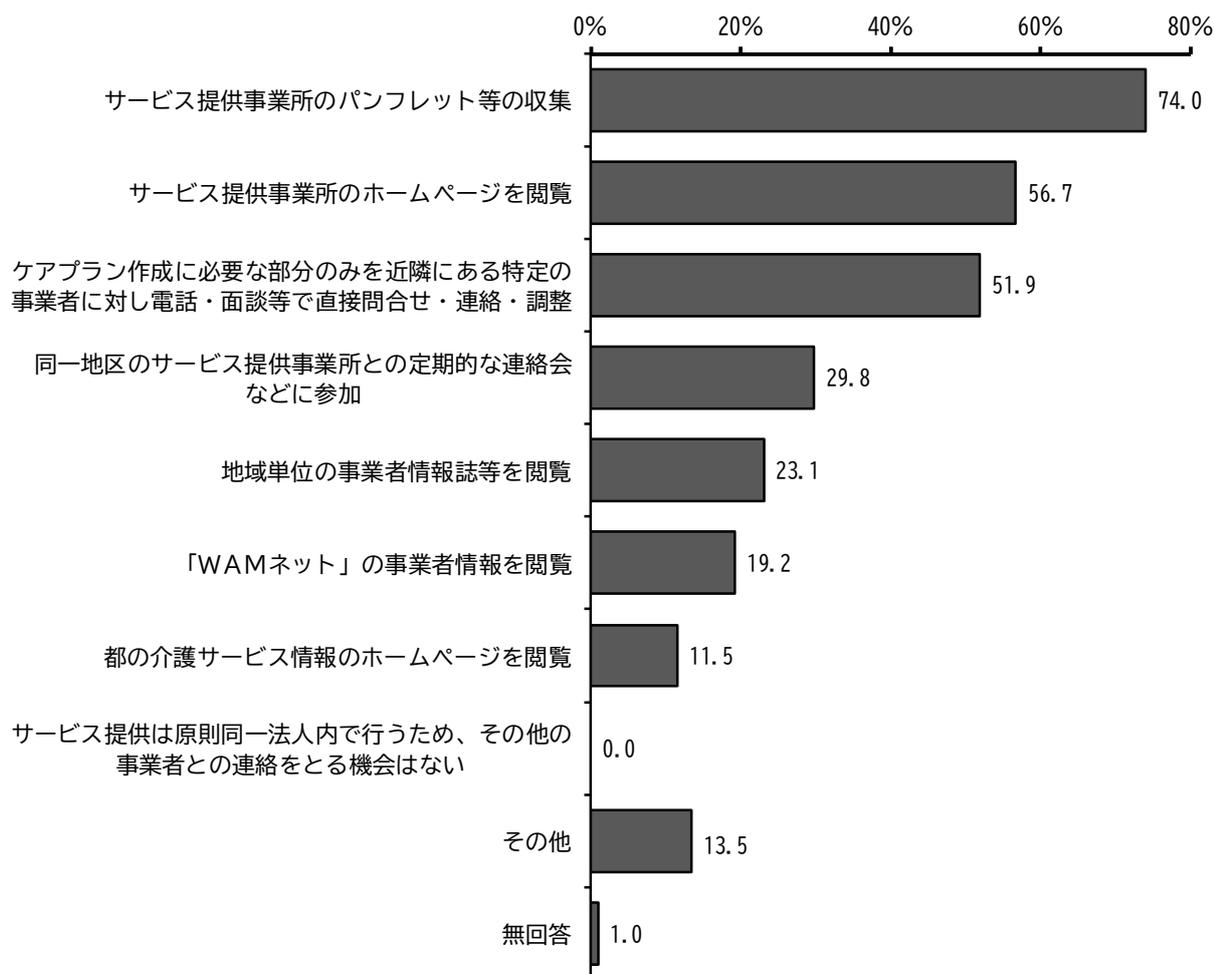
※集計中

## (5) サービス提供事業所等との関わりについて

問 12 サービス提供事業所に関する情報収集や連絡・調整はどのようにしていますか。

(いくつでも○)

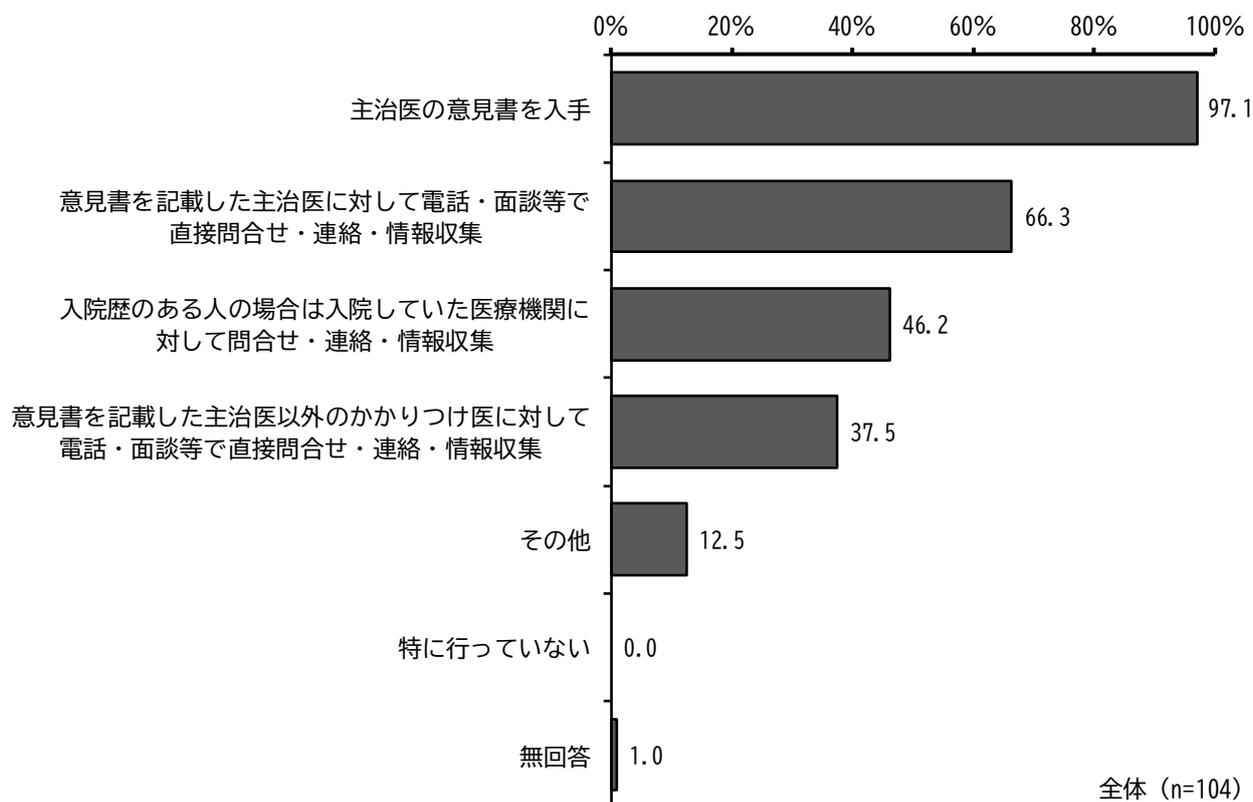
- ・「サービス提供事業所のパンフレット等の収集」(74.0%)が最も多く、次いで「サービス提供事業所のホームページを閲覧」(56.7%)、「ケアプラン作成に必要な部分のみを近隣にある特定の事業者に対し電話・面談等で直接問合せ・連絡・調整」(51.9%)と続いている。



全体 (n=104)

### 問 13 ケアプラン作成にあたり、医療機関等からの情報収集を行っていますか。(いくつでも○)

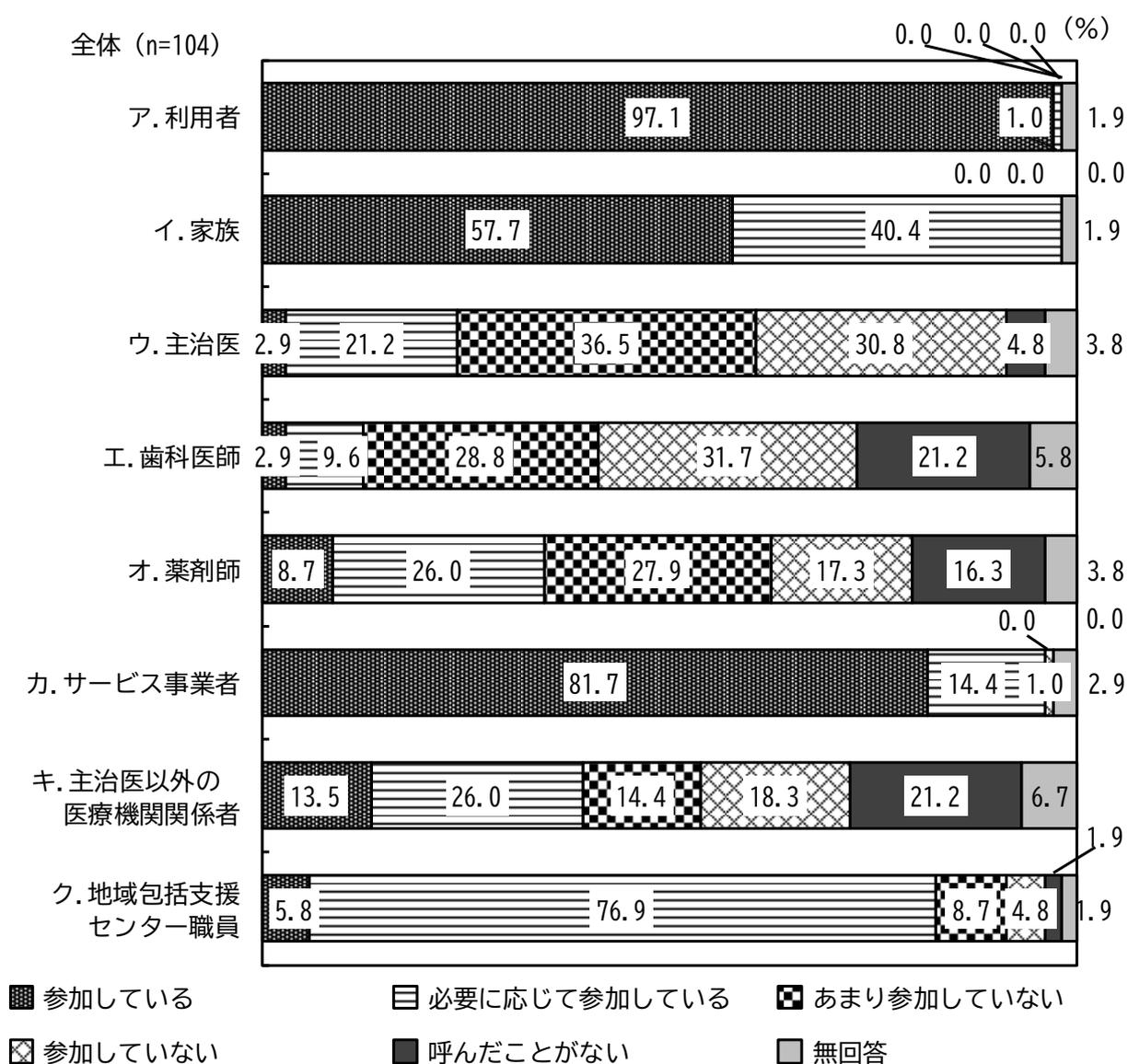
- ・「主治医の意見書を入手」(97.1%)が最も多く、次いで「意見書を記載した主治医に対して電話・面談等で直接問合せ・連絡・情報収集」(66.3%)、「入院歴のある人の場合は入院していた医療機関に対して問合せ・連絡・情報収集」(46.2%)、「意見書を記載した主治医以外のかかりつけ医に対して電話・面談等で直接問合せ・連絡・情報収集」(37.5%)と続いている。
- ・一方、「特に行っていない」は0.0%となっている。



## (6) サービス担当者会議について

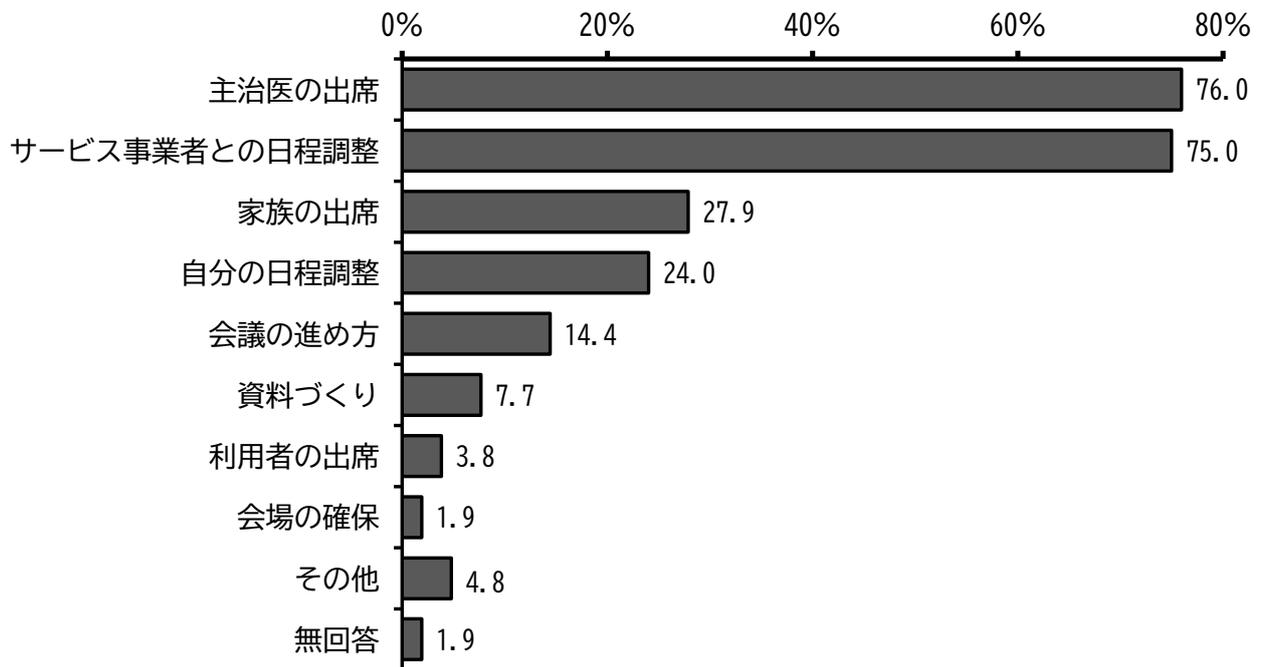
問 14 サービス担当者会議への参加状況（電話、FAX、メールを含む）についてお答えください。  
（平成30年10月1日～令和元年9月30日）（それぞれ1つに○）

- ・「参加している」と「必要に応じて参加している」を合わせた割合は、『ア. 利用者』と『イ. 家族』（ともに98.1%）が最も多く、次いで『カ. サービス事業者』（96.1%）、『ク. 地域包括支援センター職員』（82.7%）、『キ. 主治医以外の医療機関関係者』（39.5%）と続いている。
- ・一方、「あまり参加していない」と「参加していない」を合わせた割合は、『ウ. 主治医』（67.3%）が最も多く、次いで『工. 歯科医師』（60.5%）、『オ. 薬剤師』（45.2%）、『キ. 主治医以外の医療機関関係者』（32.7%）、『ク. 地域包括支援センター職員』（13.5%）と続いている。
- ・また、「呼んだことがない」は『工. 歯科医師』と『キ. 主治医以外の医療機関関係者』（21.2%）が最も高く、次いで『オ. 薬剤師』（16.3%）、『ウ. 主治医』（4.8%）と続いている。



問 15 サービス担当者会議の開催にあたって、困難と感ずることは何ですか。(いくつでも○)

- ・「主治医の出席」(76.0%)が最も多く、次いで「サービス事業者との日程調整」(75.0%)、「家族の出席」(27.9%)、「自分の日程調整」(24.0%)と続いている。



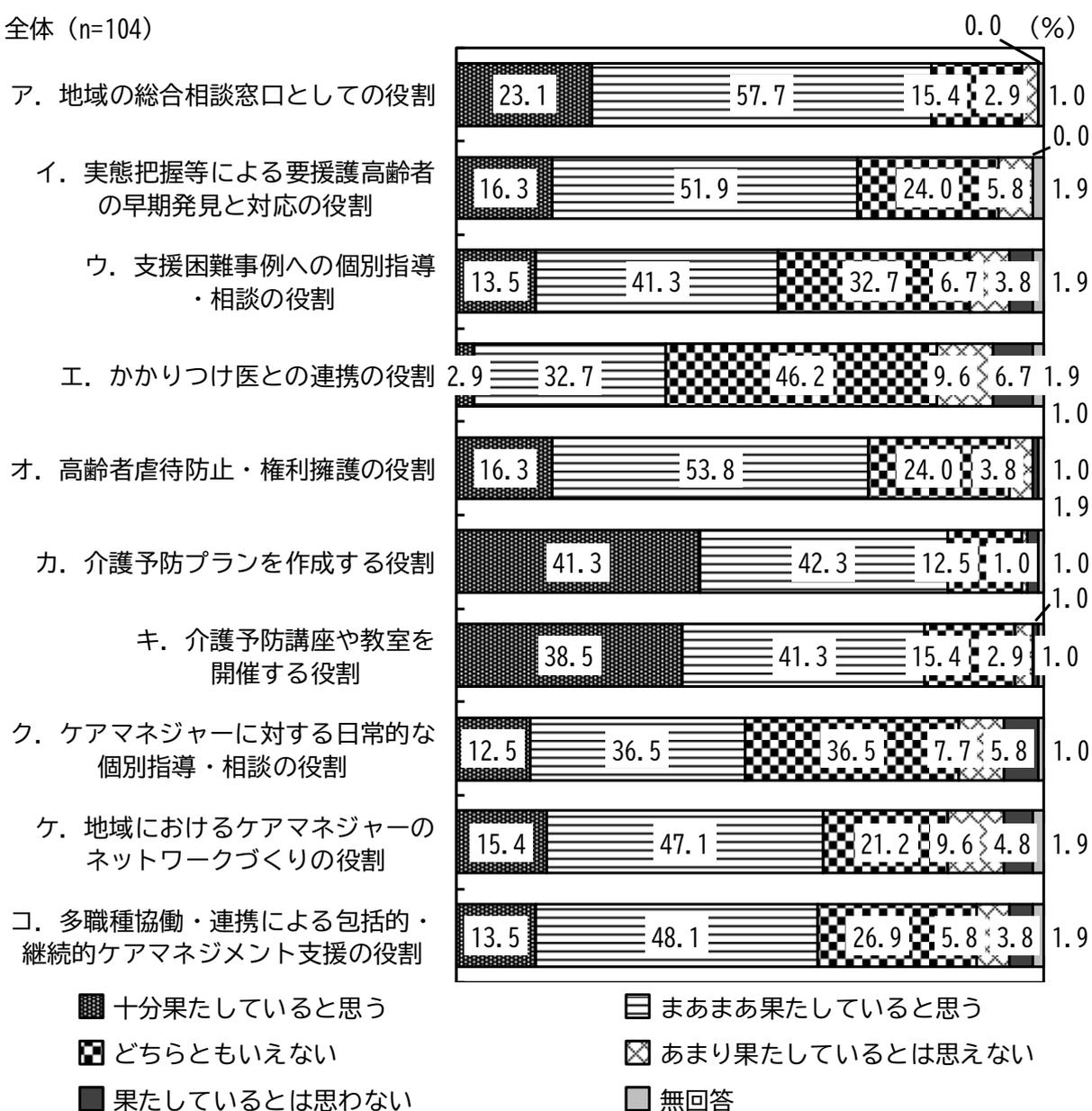
全体 (n=104)

## (7) 地域包括支援センターの役割について

問 16 市内の地域包括支援センターは、その役割を果たしていると思いますか。次の各項目についてお答えください。(ア～コそれぞれ1つに○)

- ・「十分果たしていると思う」と「まあまあ果たしていると思う」を合わせた割合は、『カ. 介護予防プランを作成する役割』(83.6%)が最も多く、次いで『ア. 地域の総合相談窓口としての役割』(80.8%)、『キ. 介護予防講座や教室を開催する役割』(79.8%)、『オ. 高齢者虐待防止・権利擁護の役割』(70.1%)、『イ. 実態把握等による要援護高齢者の早期発見と対応の役割』(68.2%)と続いている。
- ・一方、「あまり果たしているとは思えない」と「果たしているとは思わない」を合わせた割合は、『エ. かかりつけ医との連携の役割』(16.3%)が最も多く、次いで『ケ. 地域におけるケアマネジャーのネットワークづくりの役割』(14.4%)、『ク. ケアマネジャーに対する日常的な個別指導・相談の役割』(13.5%)、『ウ. 支援困難事例への個別指導・相談の役割』(10.5%)と続いている。

全体 (n=104)



## (8) サービス利用者の在宅医療の状況について

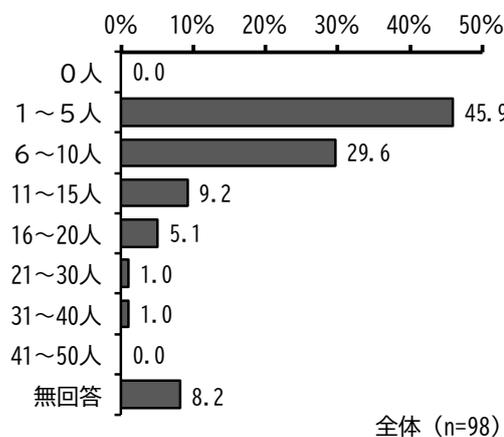
問 17 あなたが担当している利用者の中に、訪問診療、訪問看護や訪問歯科診療、訪問服薬管理指導が必要と思われる方はいますか。(それぞれ1つに○)

### 【ア. 訪問診療】

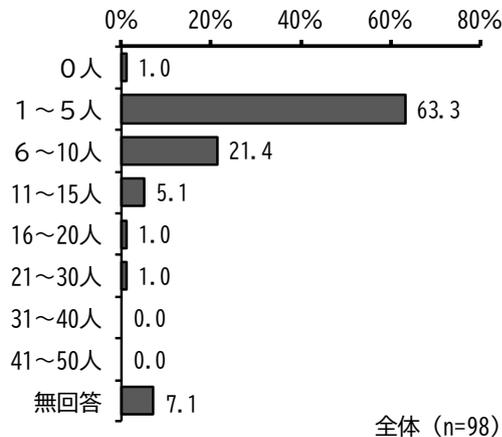
- ・「いる」が94.2%、「必要と思われる方はいない」が1.0%となっている。



#### ■ア. 訪問診療：必要者数



#### ■ア. 訪問診療：現利用者数

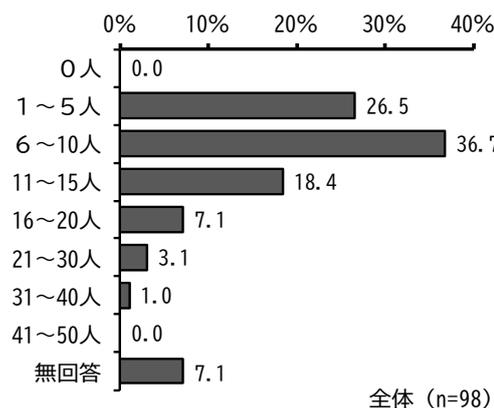


### 【イ. 訪問看護】

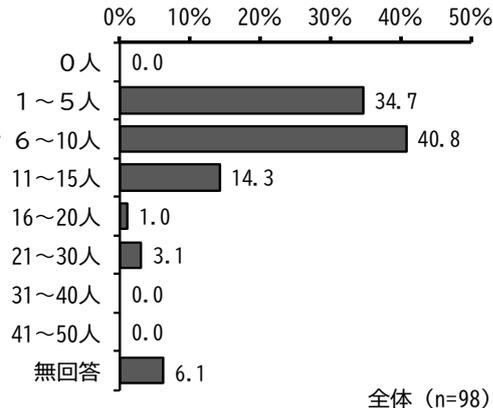
- ・「いる」が94.2%、「必要と思われる方はいない」が1.0%となっている。



#### ■イ. 訪問看護：必要者数



#### ■イ. 訪問看護：現利用者数

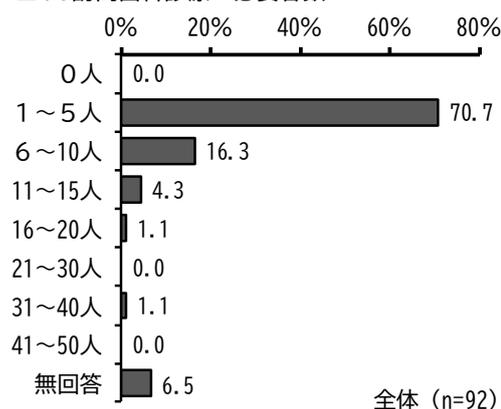


## 【ウ. 訪問歯科診療】

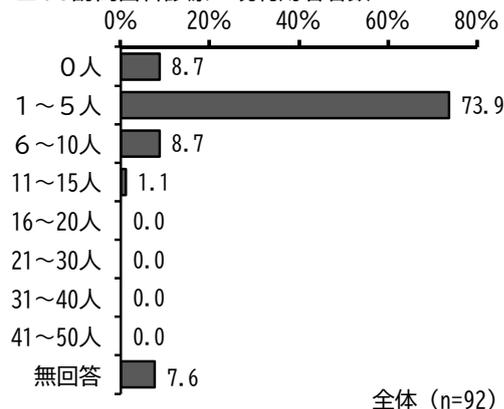
- ・「いる」が88.5%、「必要と思われる方はいない」が6.7%となっている。



■ウ. 訪問歯科診療：必要者数

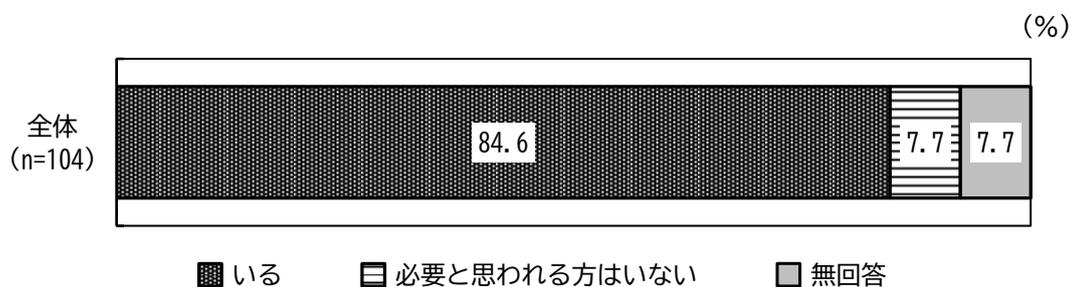


■ウ. 訪問歯科診療：現利用者者数

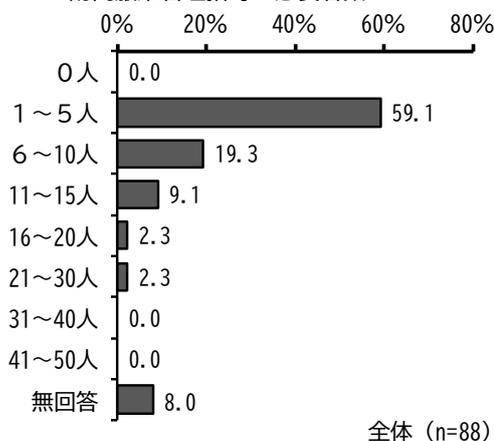


## 【エ. 訪問服薬管理指導】

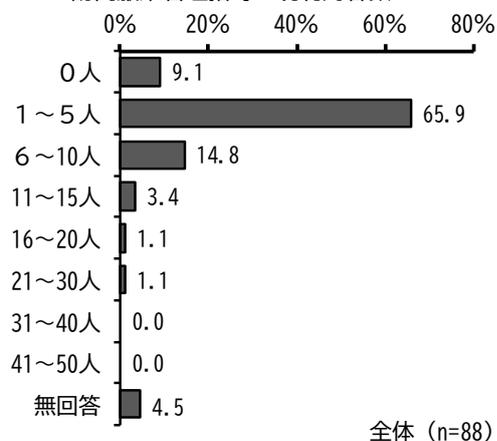
- ・「いる」が84.6%、「必要と思われる方はいない」が7.7%となっている。



■エ. 訪問服薬管理指導：必要者数

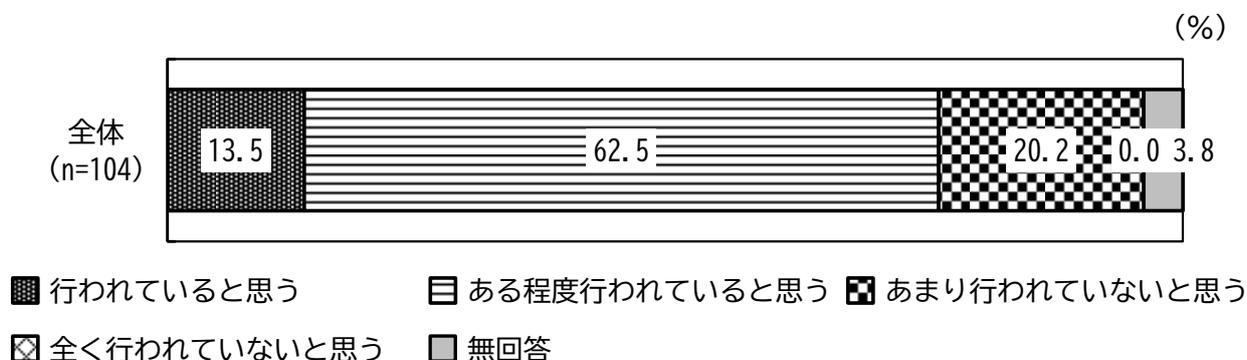


■エ. 訪問服薬管理指導：現利用者者数



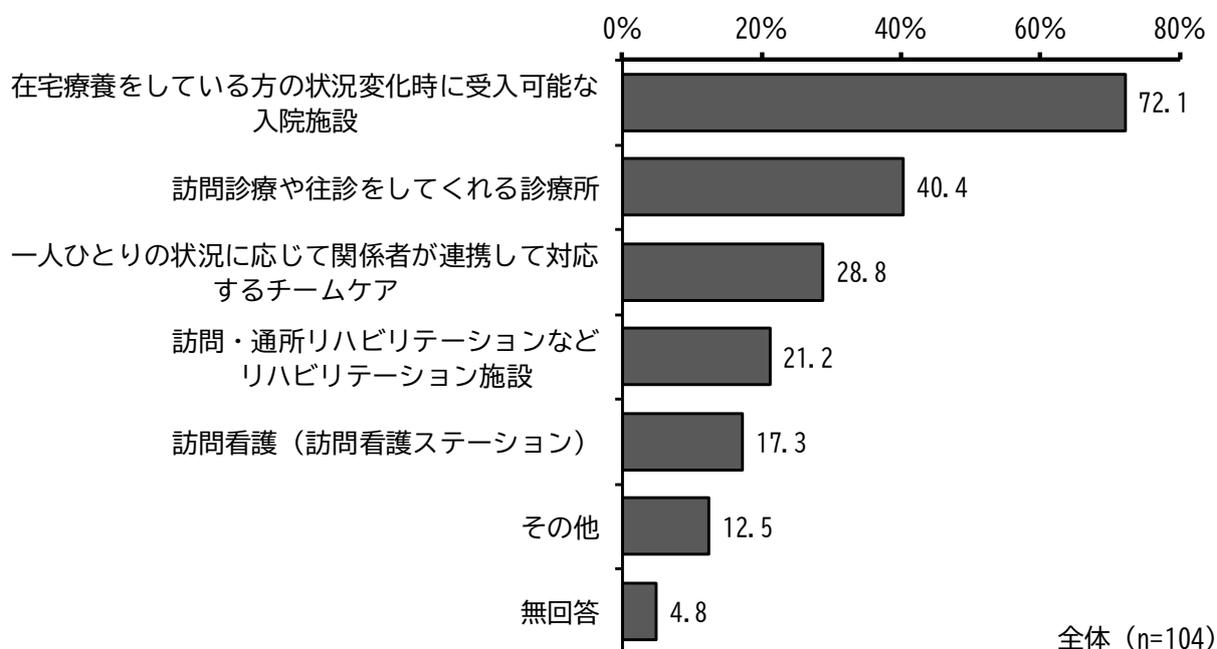
**問 18 あなたは、専門職の立場からみて、市内で在宅療養している高齢者の急変時に医療機関へのスムーズな移行が行われていると思いますか。（1つに○）**

- ・「行われていると思う」（13.5%）、「ある程度行われていると思う」（62.5%）を合わせた割合は76%となっている。一方、「あまり行われていないと思う」（20.2%）、「全く行われていないと思う」（0.0%）を合わせた割合は20.2%となっている。



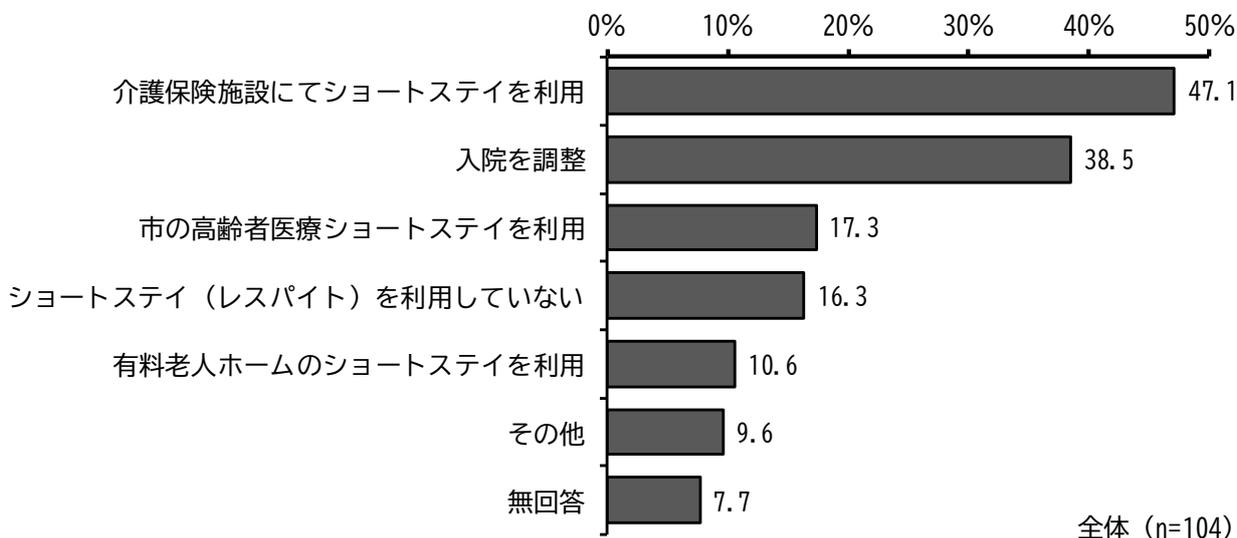
**問 19 あなたは、専門職の立場からみて、高齢者の在宅療養を進めていくうえで不足している機能は何だと考えますか。（いくつでも○）**

- ・「在宅療養をしている方の状況変化時に受入可能な入院施設」（72.1%）が最も多く、次いで「訪問診療や往診をしてくれる診療所」（40.4%）、「一人ひとりの状況に応じて関係者が連携して対応するチームケア」（28.8%）、「訪問・通所リハビリテーションなどリハビリテーション施設」（21.2%）と続いている。



**問 20 医療的ケア（胃ろう、吸引、インスリン、人工肛門など）が必要な利用者のショートステイ（レスパイト）に関して、どのように対応されていますか。（いくつでも○）**

- ・「介護保険施設にてショートステイを利用」(47.1%)が最も多く、次いで「入院を調整」(38.5%)、「市の高齢者医療ショートステイを利用」(17.3%)、「ショートステイ（レスパイト）を利用していない」(16.3%)と続いている。

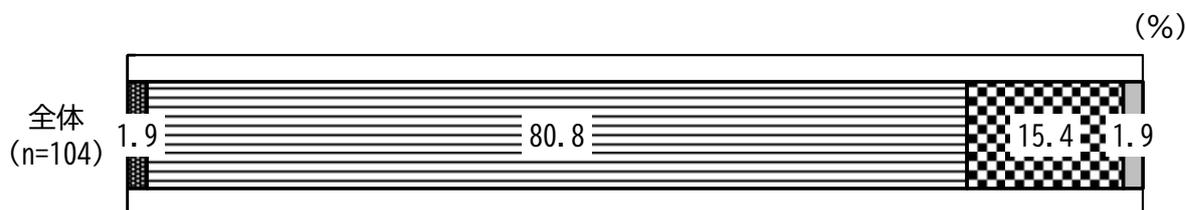


**問 21 今後、医療的ケアが必要な在宅療養者が増加することが考えられます。このとき、在宅療養を継続するうえで必要と思われる支援・サービスを具体的にお書きください。**

※集計中

**問 22 後方支援病床利用調整事業について利用したことがありますか。（1つに○）**

- ・「利用したことがある」が 1.9%、「利用したことが無い」が 80.8%、「本事業を知らなかった」が 15.4%となっている。



■ 利用したことがある ■ 利用したことが無い ■ 本事業を知らなかった ■ 無回答

《問 22 で「2」、「3」とお答えの方におたずねします》

**問 22-1 その理由を具体的にお書きください。**

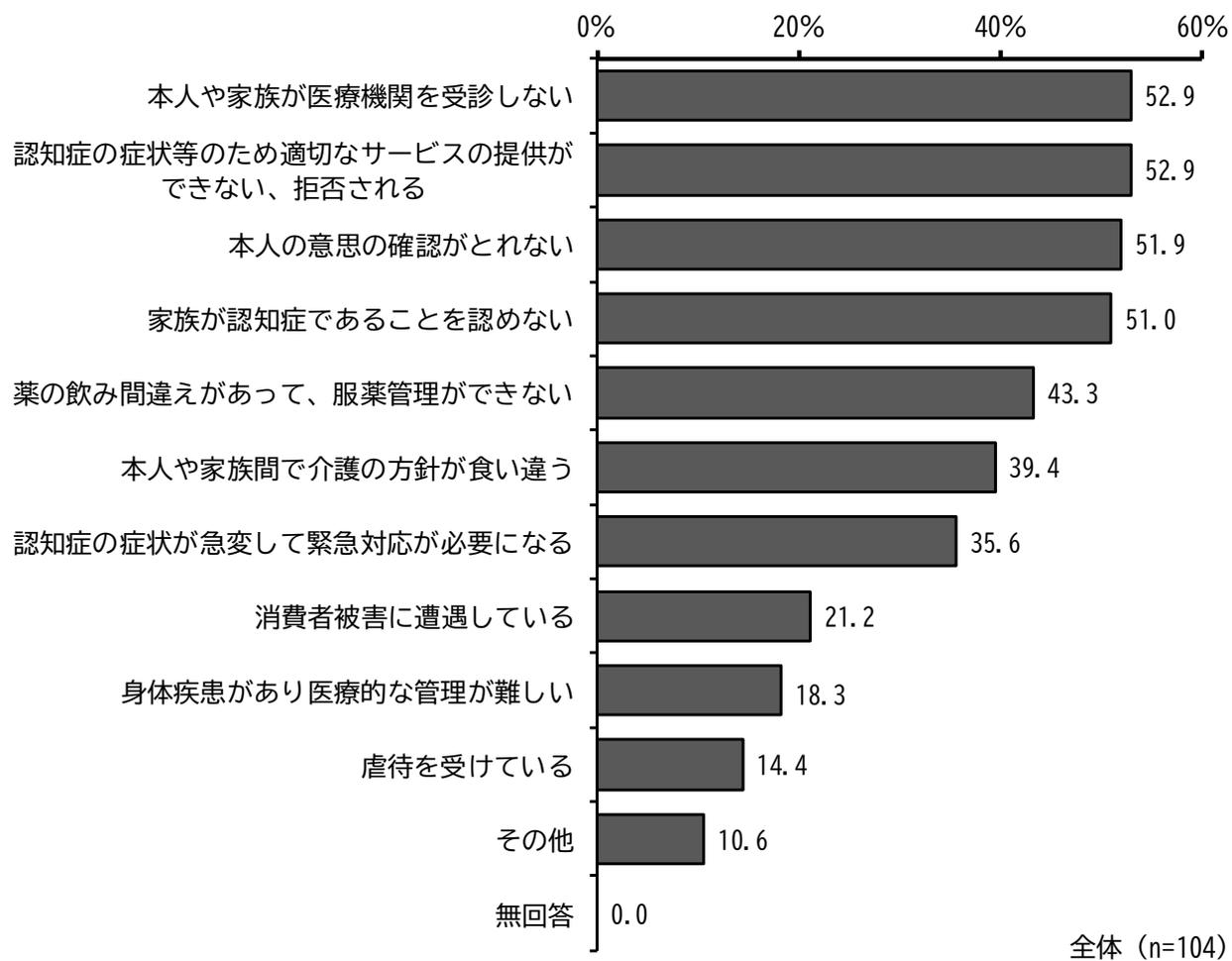
※集計中

## (9) 認知症患者のサービス利用について

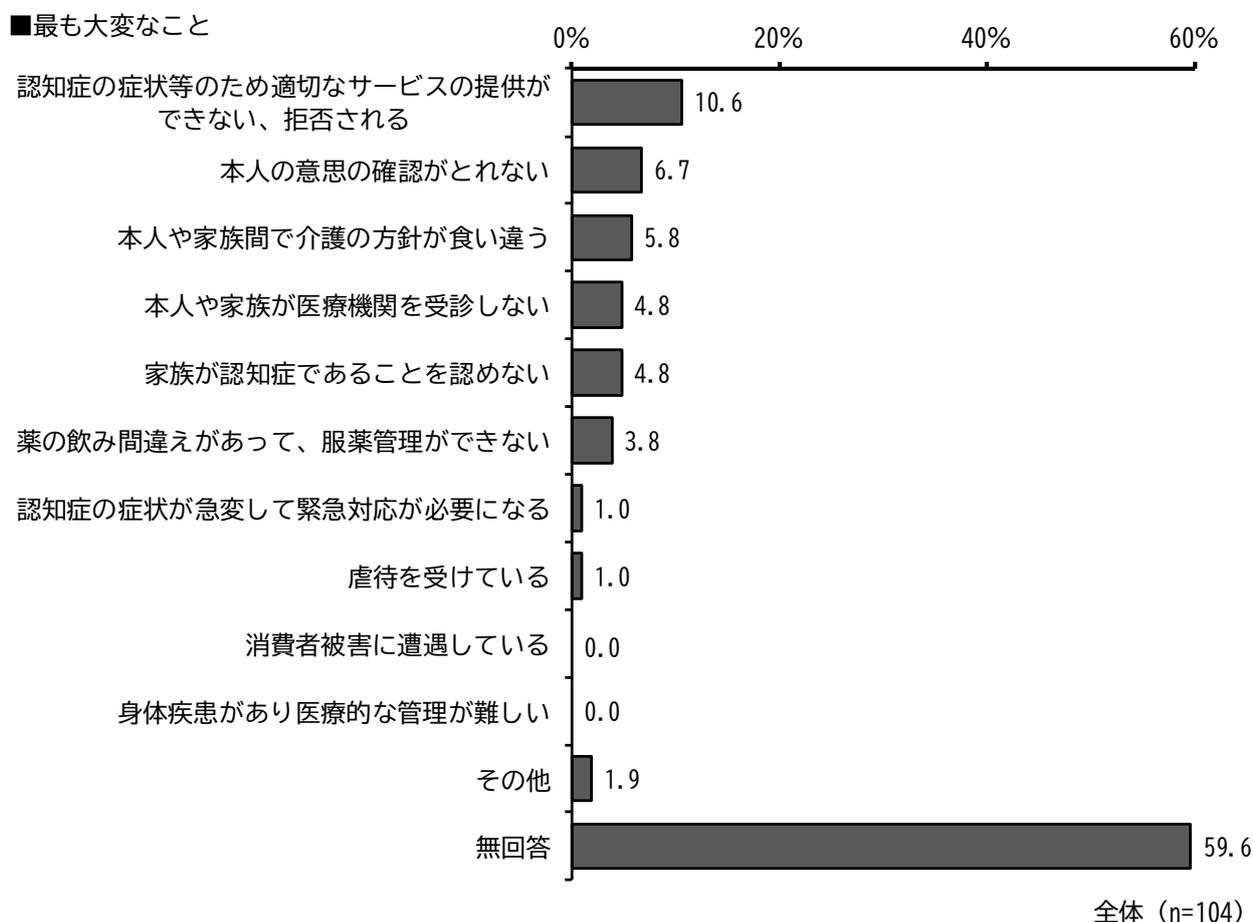
問 23 あなたが担当している認知症の利用者の状況で、実際にあることは次のどれですか。またそのうち、最も大変なことはどれですか。(いくつでも○、最も大変なことに◎)

- ・実際にあることは、「本人や家族が医療機関を受診しない」と「認知症の症状等のため適切なサービスの提供ができない、拒否される」(ともに 52.9%)が最も多く、次いで「本人の意思の確認がとれない」(51.9%)、「家族が認知症であることを認めない」(51.0%)と続いている。

### ■実際にあること



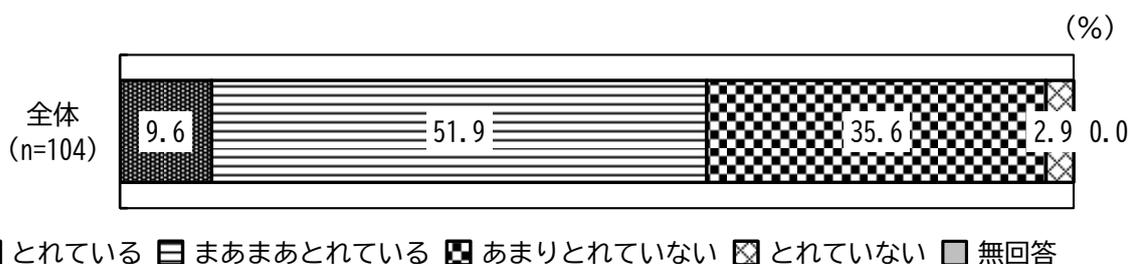
- ・最も大変なことは、「認知症の症状等のため適切なサービスの提供ができない、拒否される」(10.6%)が最も多く、次いで「本人の意思の確認がとれない」(6.7%)、「本人や家族間で介護の方針が食い違う」(5.8%)、「本人や家族が医療機関を受診しない」「家族が認知症であることを認めない」(ともに4.8%)と続いている。



問 24 あなたは認知症患者の支援にあたって、かかりつけ医との連携はとれていると思いますか。

(1つに○)

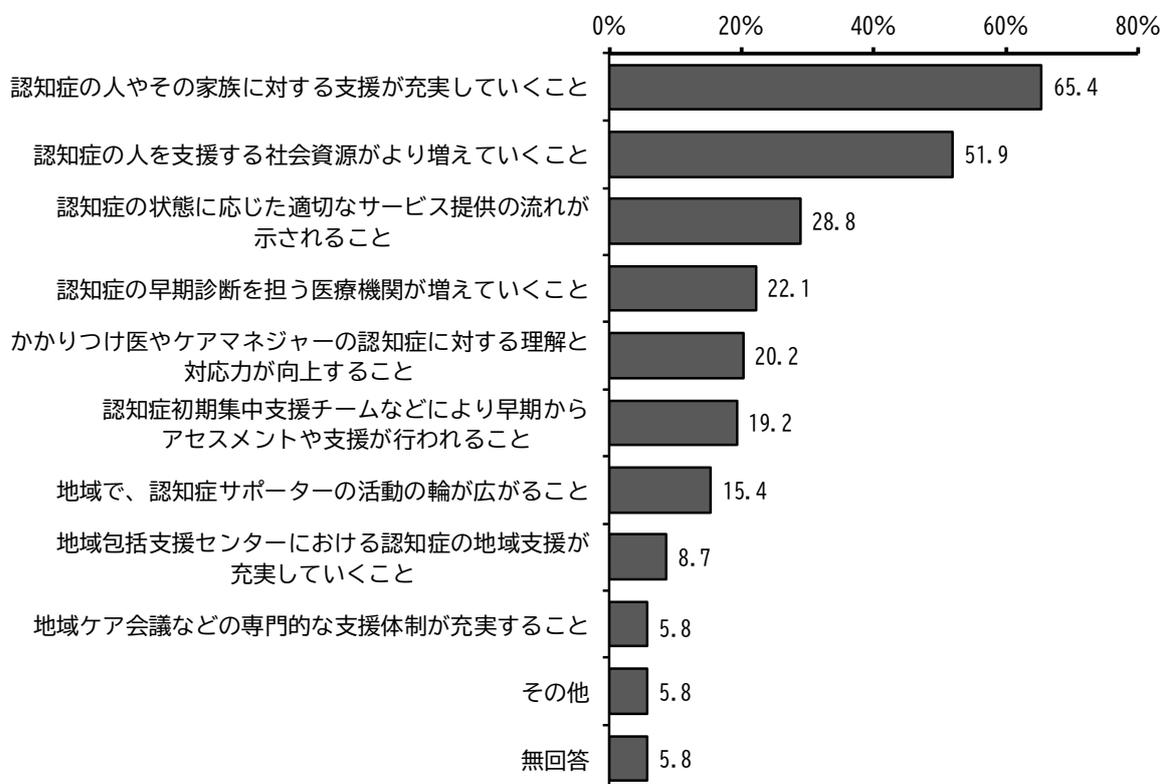
- ・「とれている」(9.6%)、「まあまあとれている」(51.9%)を合わせた割合は61.5%となっている。一方、「あまりとれていない」(35.6%)、「とれていない」(2.9%)を合わせた割合は38.5%となっている。



問 25 これから認知症患者の支援にあたり必要になると思うことは、次のどれですか。

(3つまでに○)

- ・「認知症の人やその家族に対する支援が充実していくこと」(65.4%)が最も多く、次いで「認知症の人を支援する社会資源（施設、サービス）がより増えていくこと」(51.9%)、「認知症の状態に応じた適切なサービス提供の流れが示されること」(28.8%)と続いている。

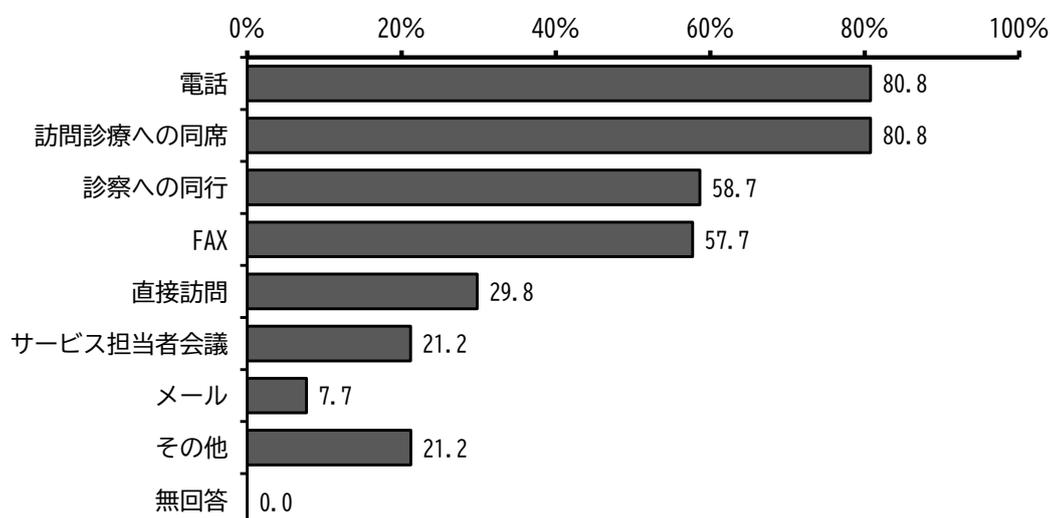


全体 (n=104)

(10) 医療と介護の連携の状況について

問 26 医療機関やかかりつけ医と通常どのような方法で情報を交換していますか。(いくつでも○)

- ・「電話」と「訪問診療への同席」(ともに 80.8%)が最も多く、次いで「診察への同行」(58.7%)、「FAX」(57.7%)、「直接訪問」(29.8%)と続いている。



全体 (n=104)

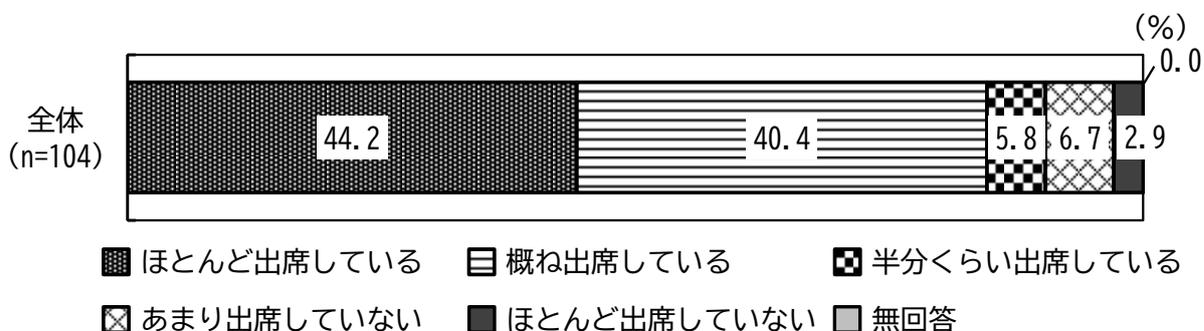
問 27 あなたは、利用者が入院する際に、どれくらいの頻度で情報提供書を作成し、入院先へ提供していますか。(1つに○)

- ・「ほとんど提出している」(18.3%)、「概ね提出している」(29.8%)を合わせた割合は48.1%となっている。一方、「あまり提出していない」(28.8%)、「ほとんど提出していない」(13.5%)を合わせた割合は42.3%となっている。



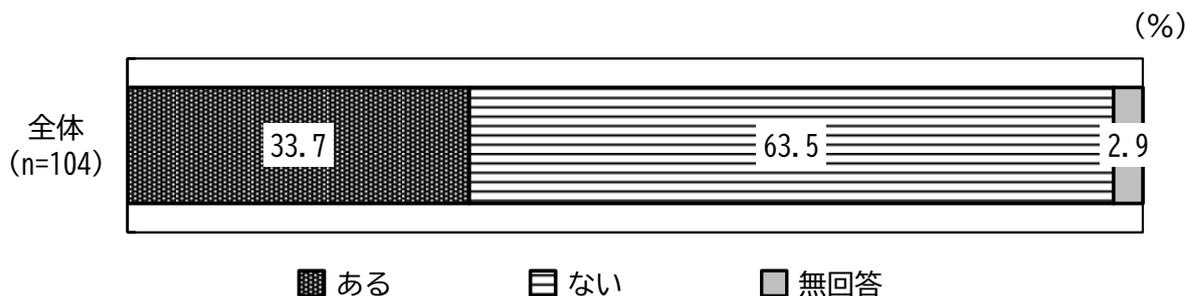
問 28 あなたは、退院前(時)カンファレンスにどれくらいの頻度で出席していますか。(1つに○)

- ・「ほとんど出席している」(44.2%)、「概ね出席している」(40.4%)を合わせた割合は84.6%となっている。一方、「あまり出席していない」(6.7%)、「ほとんど出席していない」(2.9%)を合わせた割合は9.6%となっている。



問 29 あなたは、医療機関(病院・診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護ステーション、病院の地域連携室等)との間で問題やトラブルが発生したことがありますか。(1つに○)

- ・「ある」が33.7%、「ない」が63.5%となっている。



《問 29 で「1」とお答えの方におたずねします》

問 29-1 どのような問題やトラブルが発生しましたか。具体的にお書きください。

※集計中

問 30 あなたは、医療関係機関（病院（地域連携室）、診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護ステーション）にどのようなことを期待しますか。それぞれ具体的にお書きください。

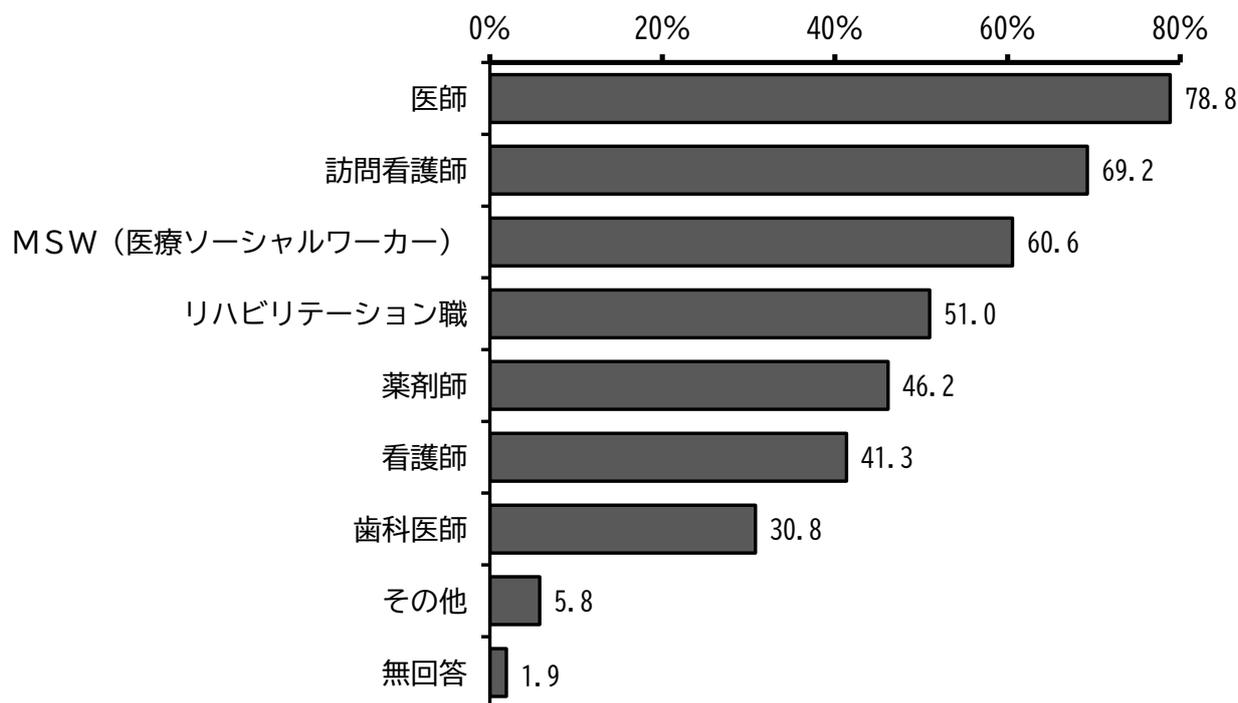
※集計中

問 31 あなたは、医療と介護の連携で、どんなことに苦労していますか。具体的にお書きください。

※集計中

問 32 在宅療養を支えるうえで、さらに連携が必要と考える医療職は何ですか。（いくつでも○）

- ・「医師」（78.8%）が最も多く、次いで「訪問看護師」（69.2%）、「MSW（医療ソーシャルワーカー）」（60.6%）、「リハビリテーション職」（51.0%）と続いている。



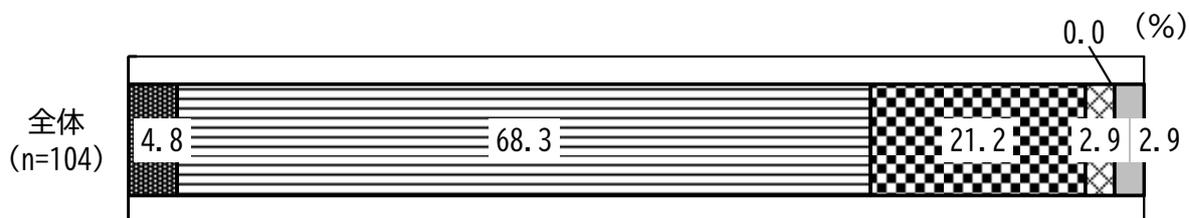
全体（n=104）

## (11) ケアマネジャー業務全般について

問 33 あなたは、利用者の自立支援に向けたケアプランの作成が十分にできていると思いますか。

(1つに○)

- ・「思う」(4.8%)、「少しは思う」(68.3%)を合わせた割合は73.1%となっている。一方、「あまり思わない」(21.2%)、「思わない」(2.9%)を合わせた割合は24.1%となっている。



■ 思う ■ 少しは思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ 考えたことはない ■ 無回答

《問 33 で「1」、「2」とお答えの方におたずねします》

問 33-1 自立支援に向けたケアプランとなるように意識していることや、自立支援につなげるために工夫していることについて具体的にご記入ください。

※集計中

《問 33 で「3」、「4」、「5」とお答えの方におたずねします》

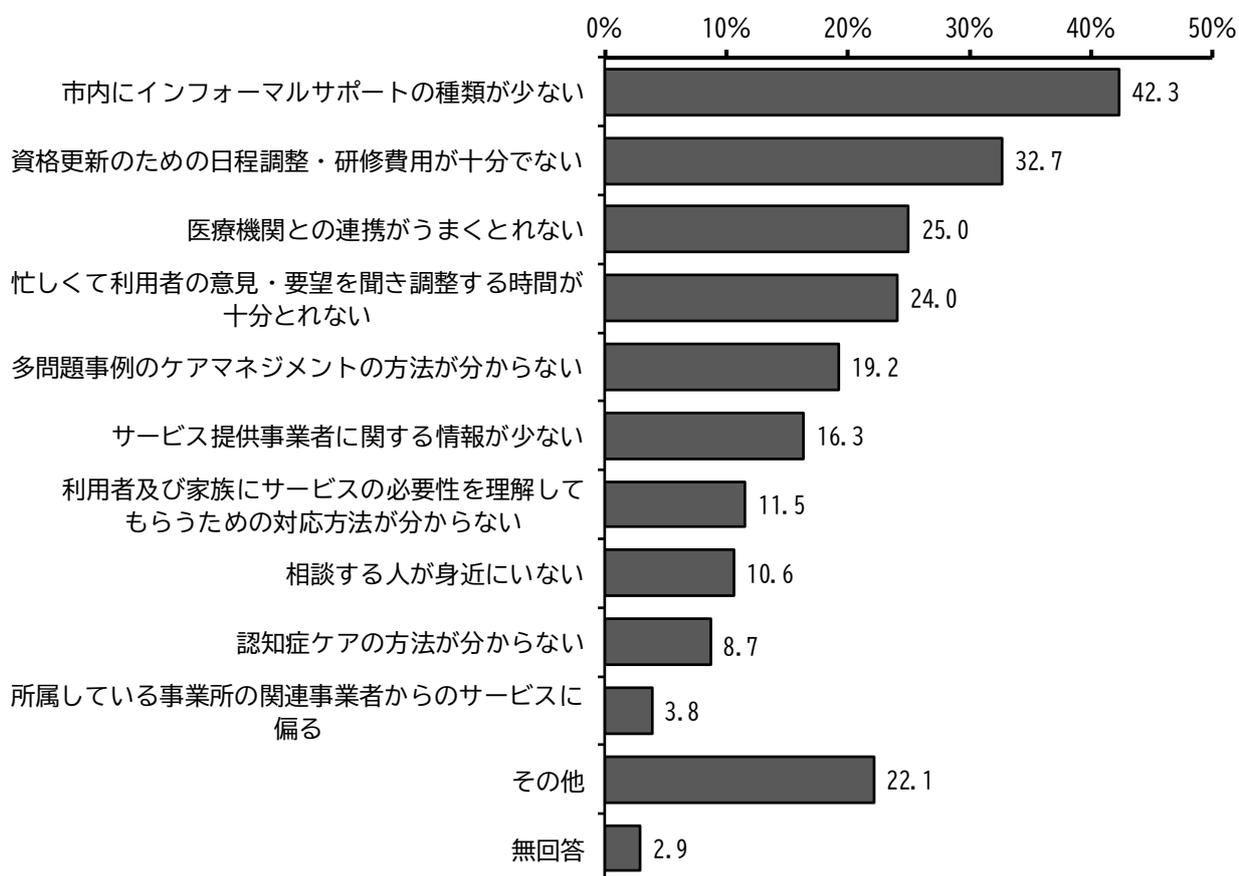
問 33-2 そのように思う理由について具体的にご記入ください。

※集計中

問 34 ケアマネジャー業務を行ううえで、課題としてお考えのことはどのようなことですか。

(いくつでも○)

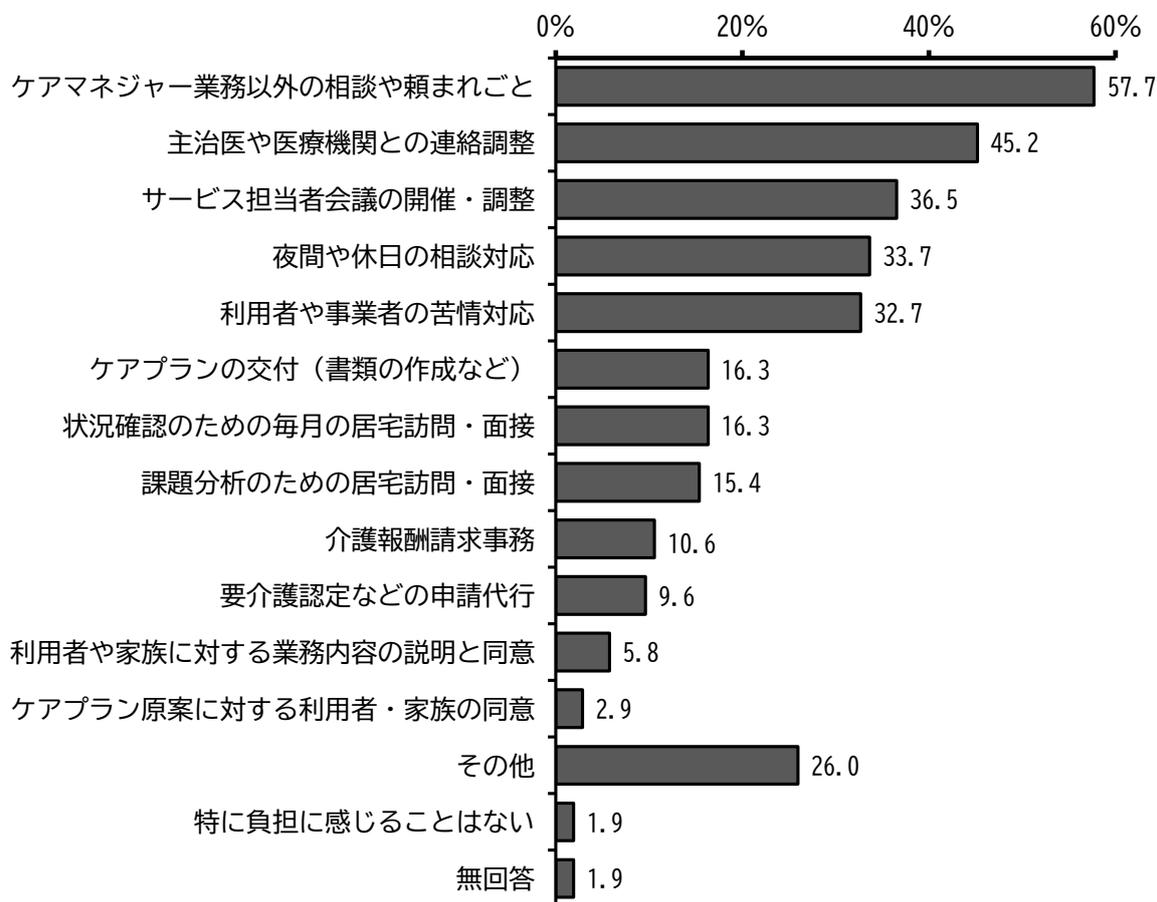
- ・「市内にインフォーマルサポートの種類が少ない」(42.3%)が最も多く、次いで「資格更新のための日程調整・研修費用が十分でない」(32.7%)、「医療機関との連携がうまくとれない」(25.0%)、「忙しくて利用者の意見・要望を聞き調整する時間が十分とれない」(24.0%)と続いている。



全体 (n=104)

問35 ケアマネジャー業務の中で、どのようなことに負担を感じていますか。(いくつでも○)

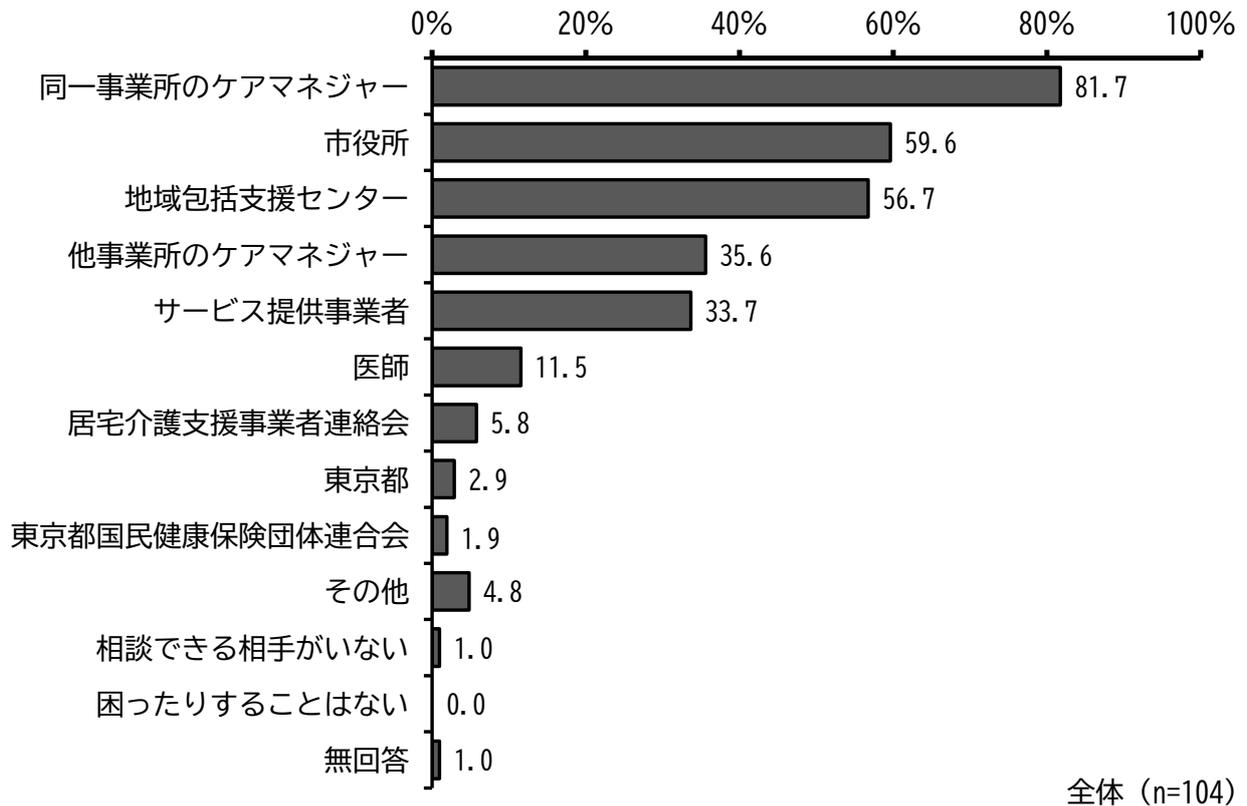
- ・「ケアマネジャー業務以外の相談や頼まれごと」(57.7%)が最も多く、次いで「主治医や医療機関との連絡調整」(45.2%)、「サービス担当者会議の開催・調整」(36.5%)、「夜間や休日の相談対応」(33.7%)、「利用者や事業者の苦情対応」(32.7%)と続いている。
- ・一方、「特に負担に感じることはない」は1.9%となっている。



全体 (n=104)

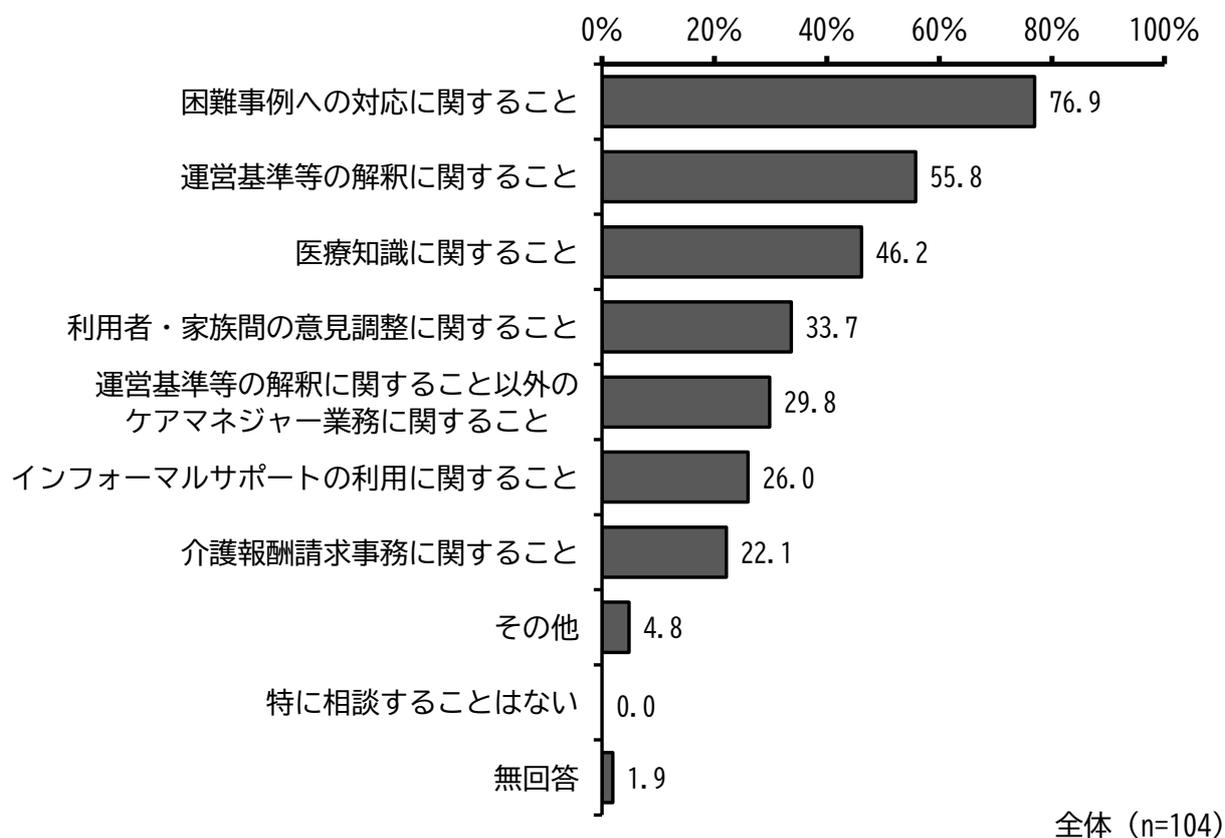
問 36 ケアプランを作成するうえで、分からないことや困ったことがあったとき、誰に相談しますか。(いくつでも○)

- ・「同一事業所のケアマネジャー」(81.7%)が最も多く、次いで「市役所」(59.6%)、「地域包括支援センター」(56.7%)、「他事業所のケアマネジャー」(35.6%)、「サービス提供事業者」(33.7%)と続いている。
- ・一方、「相談できる相手がない」は1.0%、「困ったりすることはない」は0.0%となっている。



### 問37 どのようなことを相談していますか。(いくつでも○)

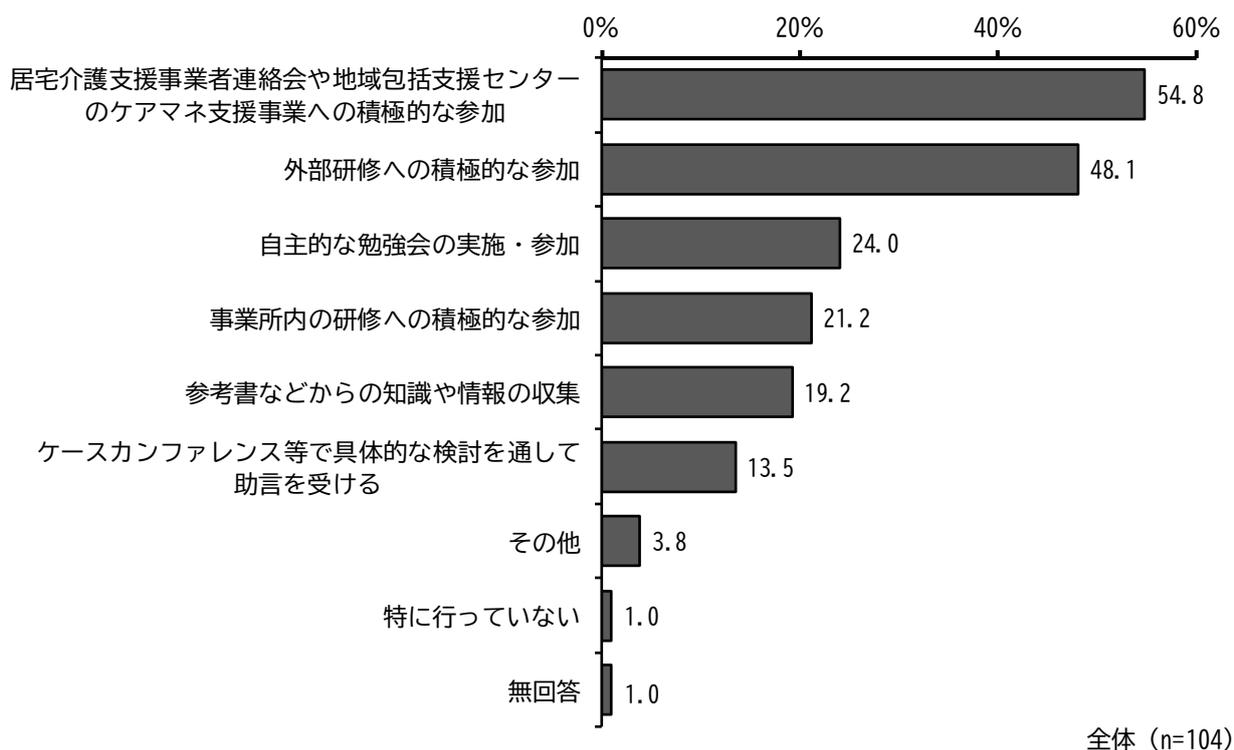
- ・「困難事例への対応に関すること」(76.9%)が最も多く、次いで「運営基準等の解釈に関すること(居宅サービスの適否判断を含む)」(55.8%)、「医療知識に関すること」(46.2%)、「利用者・家族間の意見調整に関すること」(33.7%)と続いている。
- ・一方、「特に相談することはない」は0.0%となっている。



問 38 ご自身のケアマネジャー業務のレベルアップのために（１）現在行っている、（２）今後行いたい取組をそれぞれ2つまで選び、ご記入ください。

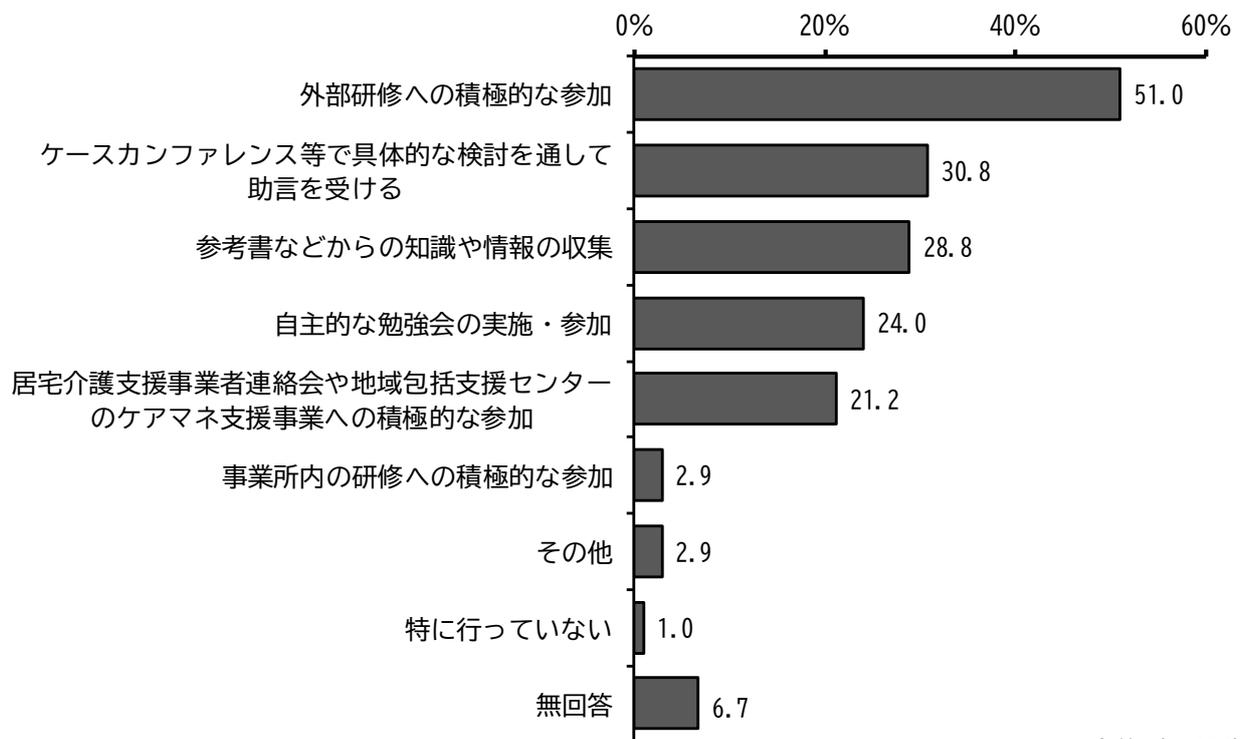
（１）現在行っている取組

- ・「居宅介護支援事業者連絡会や地域包括支援センターのケアマネ支援事業への積極的な参加」(54.8%)が最も多く、次いで「外部研修への積極的な参加」(48.1%)、「自主的な勉強会の実施・参加」(24.0%)、「事業所内の研修への積極的な参加」(21.2%)、「参考書などからの知識や情報の収集」(19.2%)と続いている。
- ・一方、「特に行っていない」は1.0%となっている。



## (2) 今後行いたい取組

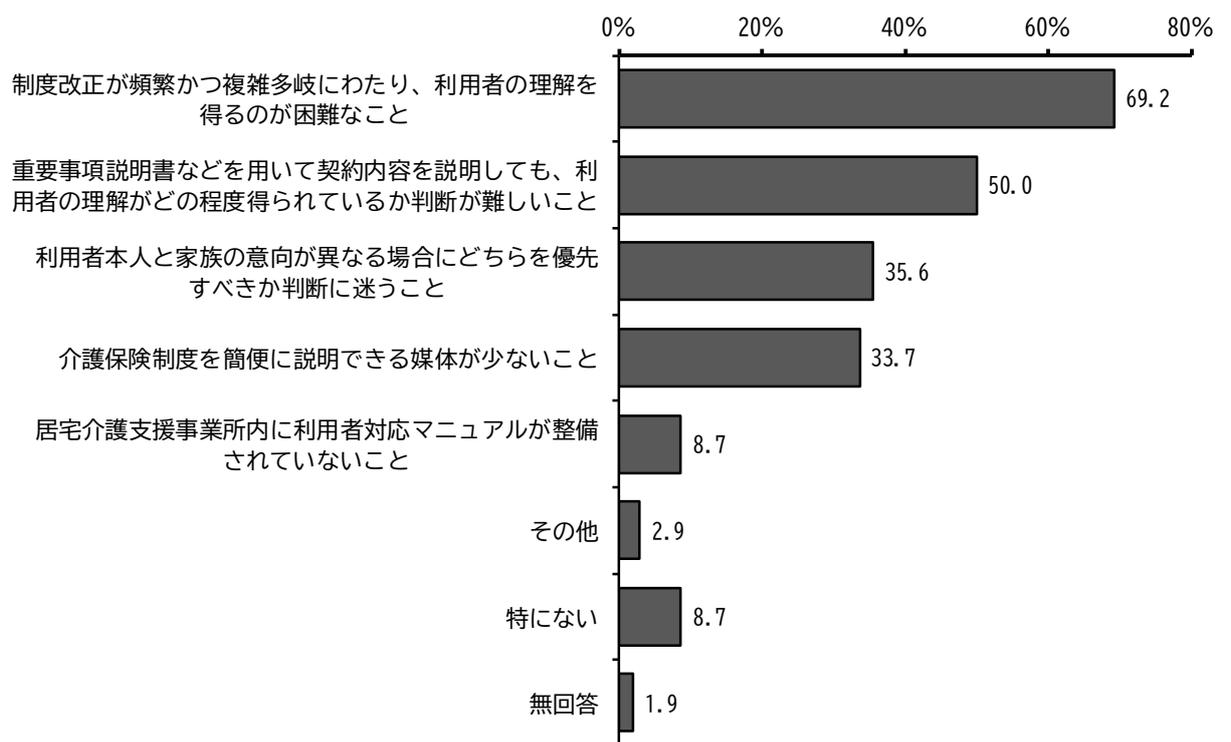
- ・「外部研修への積極的な参加」(51.0%)が最も多く、次いで「ケースカンファレンス等で具体的な検討を通して助言を受ける」(30.8%)、「参考書などからの知識や情報の収集」(28.8%)、「自主的な勉強会の実施・参加」(24.0%)、「居宅介護支援事業者連絡会や地域包括支援センターのケアマネ支援事業への積極的な参加」(21.2%)と続いている。
- ・一方、「特に行っていない」は1.0%となっている。



全体 (n=104)

### 問 39 利用者への情報提供の際に、課題と感じていることはありますか。(いくつでも○)

- ・「制度改正が頻繁かつ複雑多岐にわたり、利用者の理解を得るのが困難なこと」(69.2%)が最も多く、次いで「重要事項説明書などを用いて契約内容を説明しても、利用者の理解がどの程度得られているか判断が難しいこと(特に認知症高齢者の場合)」(50.0%)、「利用者本人と家族の意向が異なる場合にどちらを優先すべきか判断に迷うこと」(35.6%)、「介護保険制度を簡便に説明できる媒体が少ないこと」(33.7%)と続いている。
- ・一方、「特にない」は8.7%となっている。



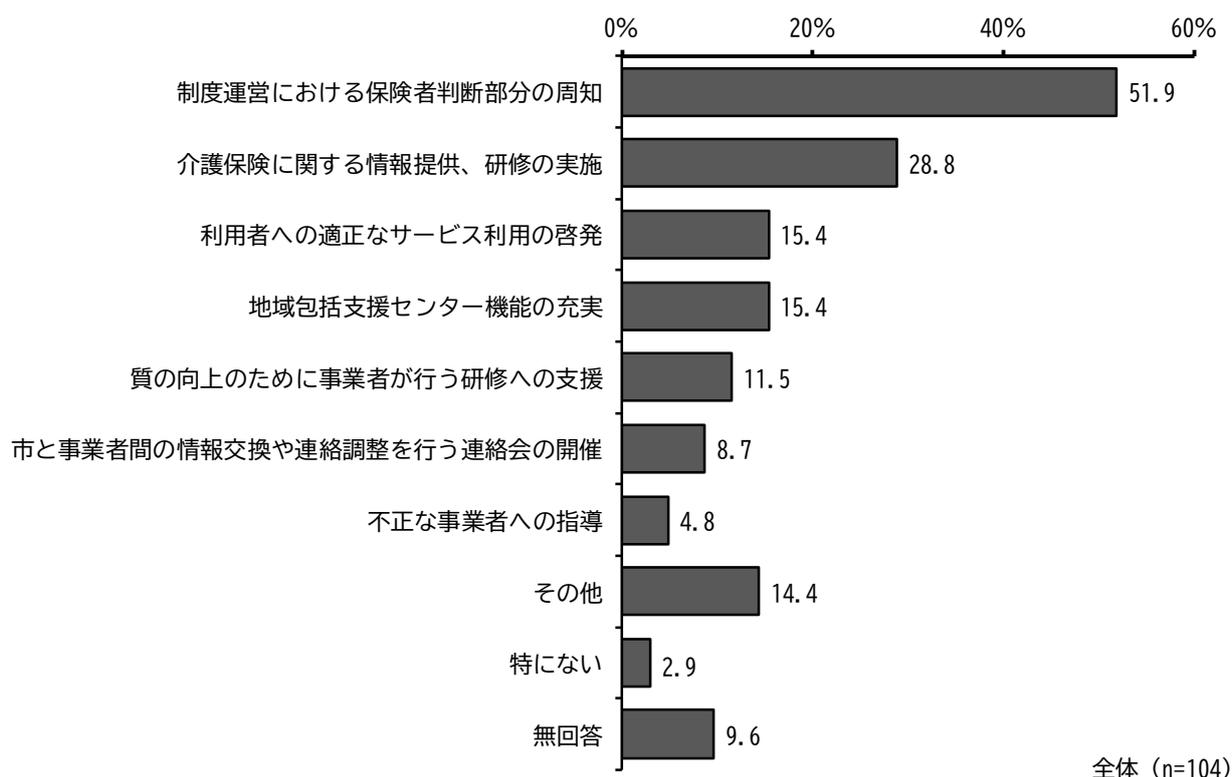
全体 (n=104)

## (12) 府中市への意向について

問 40 今後、保険者としての府中市に対し、ケアマネジャーとして望むことは何ですか。

(2つまでに○)

- ・「制度運営における保険者判断部分の周知」(51.9%)が最も多く、次いで「介護保険に関する情報提供、研修の実施」(28.8%)、「利用者への適正なサービス利用の啓発」と「地域包括支援センター機能の充実」(ともに 15.4%)、「質の向上のために事業者が行う研修への支援」(11.5%)と続いている。
- ・一方、「特にない」は2.9%となっている。



問 41 最後に、介護保険制度をよりよい制度としていくためのご意見や医療と介護の連携についてのご意見等がございましたら、ご自由にお書きください。

※集計中

## 調査⑤医療機関調査結果（速報版）

### ①調査の目的

医療関係者の在宅療養への取組状況、市への意見や要望等を把握することで、医療介護連携の更なる推進について検討する。

### ②調査対象

- ・市内の病院・診療所・病院、歯科診療所、薬局、訪問看護ステーション：467 機関

### ③調査方法

- ・郵送配布・郵送回収（督促礼状1回送付）

### ④調査時期

- ・令和元年10月11日～10月28日

### ⑤回収率

区分	発送・配布数	回収数（率）		有効回収数（率）	
医療機関	467	287	(61.5%)	285	(61.0%)

## ⑥調査項目

項目	設問No.	設問
<b>A 基本属性</b>		
	問 1	所属している医療機関
	問 2	職種
<b>B 医療と介護の連携の状況</b>		
	問 3	在宅療養者への医療と介護の連携の状況
	問 3-1	連携していないと思う理由
	問 4	退院前(時)カンファレンスやサービス担当者会議への出席の有無
	問 5	介護サービス事業者とのトラブル
	問 5-1	介護サービス事業者との間で発生した問題やトラブルの内容（自由回答）
	問 6	関係機関、職種との連携状況
	問 7	介護保険制度、介護保険サービスの理解
	問 8	在宅医療についての考え
	問 8-1	どのように関わりたいか（自由回答）
	問 9	医療職と介護職が連携するために充実するとよいこと
	問 10	在宅療養を支えるうえで、さらに連携が必要と考える介護職
	問 11	認知症や認知症の介護に関する研修受講の意向
<b>C 医師の取組状況</b>		
	問 12	行っている在宅医療
	問 12-1	訪問診療や居宅療養管理指導の依頼元
	問 13	他の医療機関との連携
	問 14	介護関係者との情報交換の機会
	問 15	ケアプランの送付と受け取りの必要性
	問 16	担当患者のうち認知症の症状がある人の割合
	問 17	認知症の症状がある人を治療するときに困ること
	問 18	認知症サポート医への相談の有無
	問 19	認知症専門医への紹介の有無
	問 19-1	認知症専門医への紹介の目的
	問 19-2	認知症専門医の種類
	問 19-3	認知症専門医に紹介するときに問題になること
<b>D 歯科医師の取組状況</b>		
	問 20	訪問歯科診療や居宅療養管理指導の実施
	問 20-1	訪問時の口腔衛生指導の実施
	問 20-2	歯科衛生士による訪問歯科衛生指導及び居宅療養管理指導の実施
	問 20-3	訪問歯科診療や居宅療養管理指導で対応可能な治療
	問 20-4	訪問歯科診療や居宅療養管理指導の依頼元
	問 21	今後の訪問歯科診療や居宅療養管理指導の実施の可能性
	問 22	在宅療養者のかかりつけ医との連携
	問 22-1	在宅療養者のかかりつけ医と連携していない理由

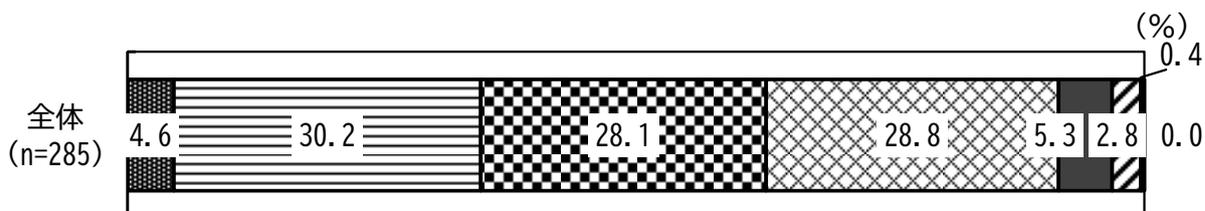
<b>E 薬剤師の取組状況</b>	
問 23	在宅患者訪問薬剤管理指導の利用者の有無
問 23-1	居宅療養管理指導の依頼元
問 23-2	医師との連携状況
問 23-3	処方箋以外の連携の手段
問 23-4	在宅患者訪問薬剤管理指導の利用者がいない理由
問 24	在宅療養支援診療所の処方箋の取り扱い状況の有無
<b>F 訪問看護師の取組状況</b>	
問 25	在宅医療の活動状況
問 26	在宅医療を実施している医療機関との連携
問 26-1	連携が取れていない理由（自由回答）
問 27	医師との連携の方法
問 27-1	医師との連絡の手段
<b>G 病院の退院支援担当者（看護師、医療ソーシャルワーカー）の取組状況</b>	
問 28	在宅医療の活動状況
問 29	地域連携活動の内容
問 30	介護保険施設との連携
<b>H 地域包括ケアシステム構築に向けた医療と介護の連携</b>	
問 31	医療と在宅介護の連携で苦労している点（自由回答）
問 32	介護従事者等に期待すること（自由回答）
問 33 (1)	医療と介護の連携が進むために必要なこと（連携の仕組みづくり）
問 33 (2)	医療と介護の連携が進むために必要なこと（地域の人材育成）
問 33 (3)	医療と介護の連携が進むために必要なこと（サービス・基盤整備）
問 33 (4)	医療と介護の連携が進むために必要なこと（情報提供・相談支援の充実）
問 34	医療と介護の連携についての意見・要望（自由回答）

## ⑦調査結果の概要

### (1) 回答者(医療機関)について

#### 問1 あなたが所属されている医療機関を教えてください。(1つに○)

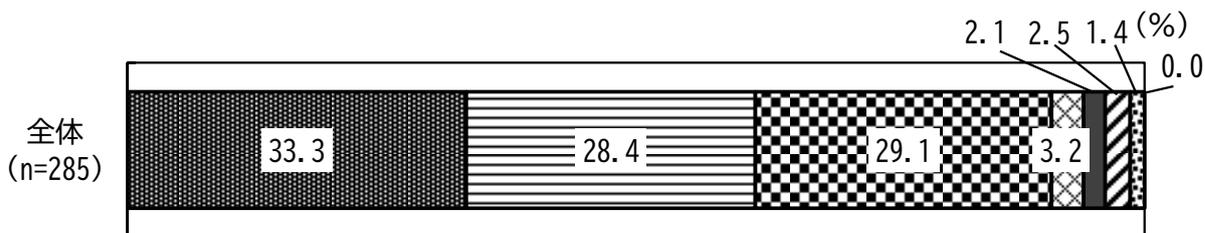
- ・「一般診療所(在宅療養支援診療所としての届出無)」(30.2%)が最も多く、次いで「薬局」(28.8%)、「歯科診療所」(28.1%)となっている。



- 一般診療所(在宅療養支援診療所としての届出有)
- 一般診療所(在宅療養支援診療所としての届出無)
- 歯科診療所
- 薬局
- 訪問看護ステーション
- 病院の退院支援担当者(病院の地域連携室、看護師等)
- その他
- 無回答

#### 問2 あなたの職種は次のどれですか。(1つに○)

- ・「医師」(33.3%)が最も多く、次いで「薬剤師」(29.1%)、「歯科医師」(28.4%)となっている。

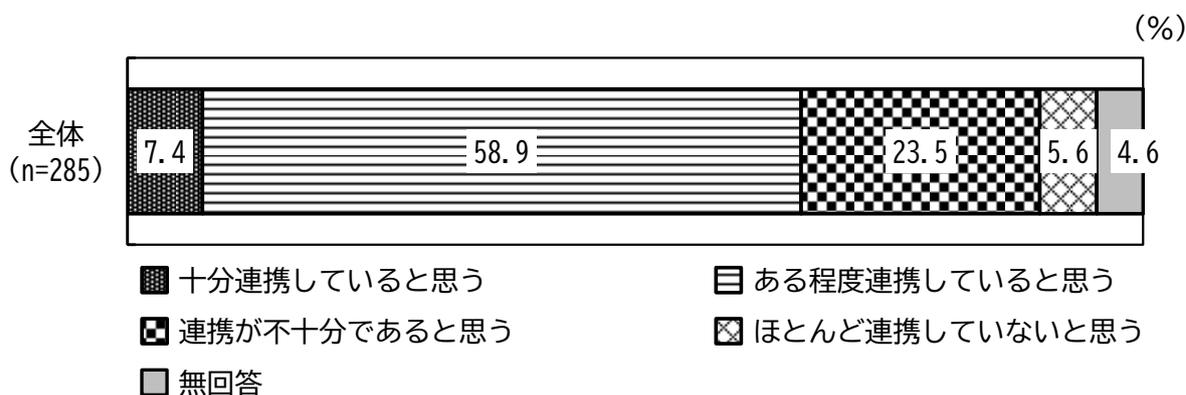


- 医師
- 歯科医師
- 薬剤師
- 看護師
- 訪問看護師
- 医療ソーシャルワーカー
- その他
- 無回答

## (2) 医療と介護の連携について

問3 あなたは、府中市民の在宅療養者を支える医療と介護の連携の状況についてどのように思いますか。  
(1つに○)

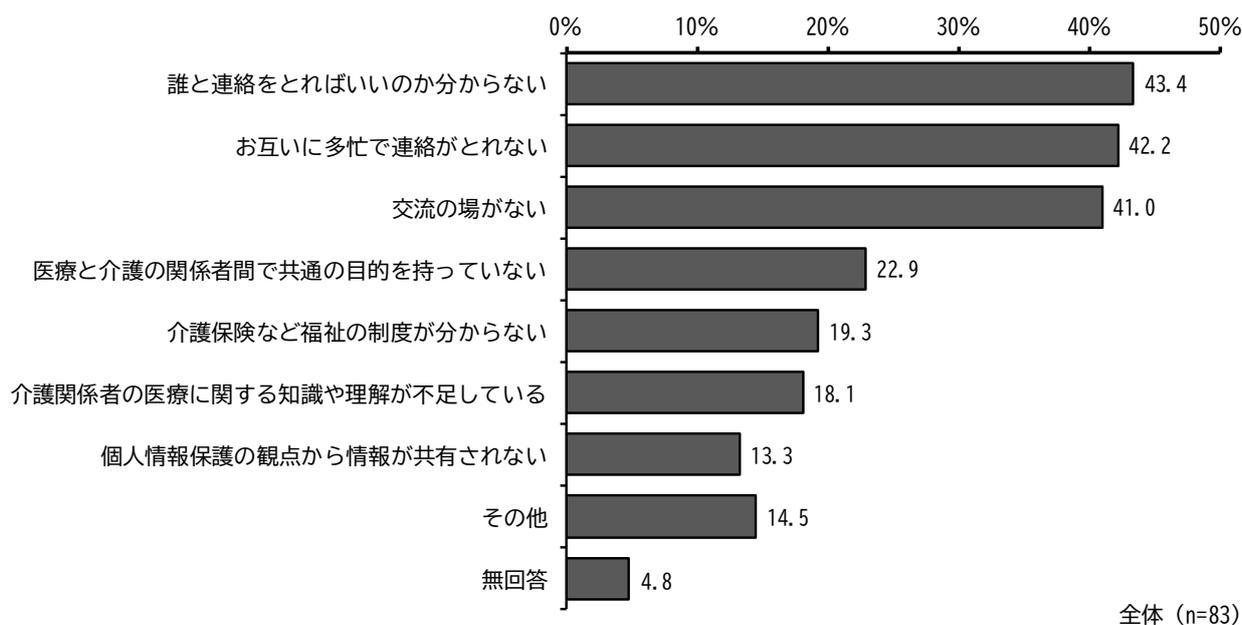
- ・「十分連携していると思う」(7.4%)、「ある程度連携していると思う」(58.9%)を合わせた割合は 66.3% となっている。一方、「連携が不十分であると思う」(23.5%)、「ほとんど連携していないと思う」(5.6%)を合わせた割合は 29.1%となっている。



«問3で「3」又は「4」とお答えの方におたずねします»

問3-1 あなたがそのように考える理由は何ですか。(3つまでに○)

- ・「誰と連絡をとればいいのか分からない」(43.4%)が最も多く、次いで「お互いに多忙で連絡がとれない」(42.2%)、「交流の場がない」(41.0%)、「医療と介護の関係者間で共通の目的を持っていない」(22.9%)、「介護保険など福祉の制度が分からない」(19.3%)と続いている。

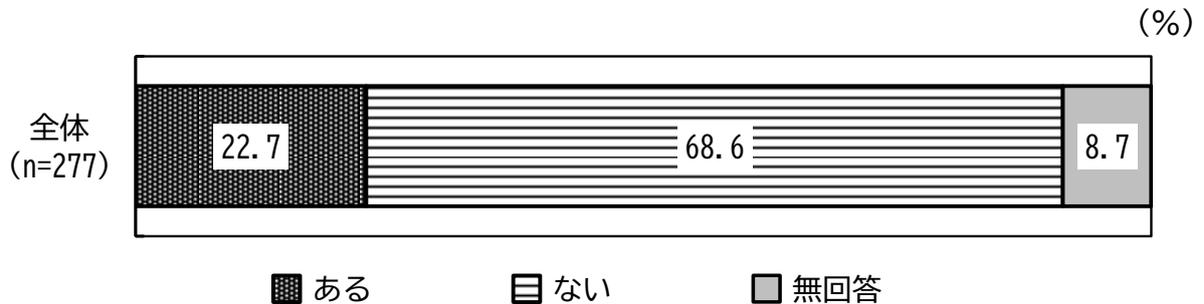


「<<病院の退院支援担当者以外の方におたずねします>>

問4 あなたは、退院前（時）カンファレンスやサービス担当者会議に出席したことがありますか。

（1つに○）

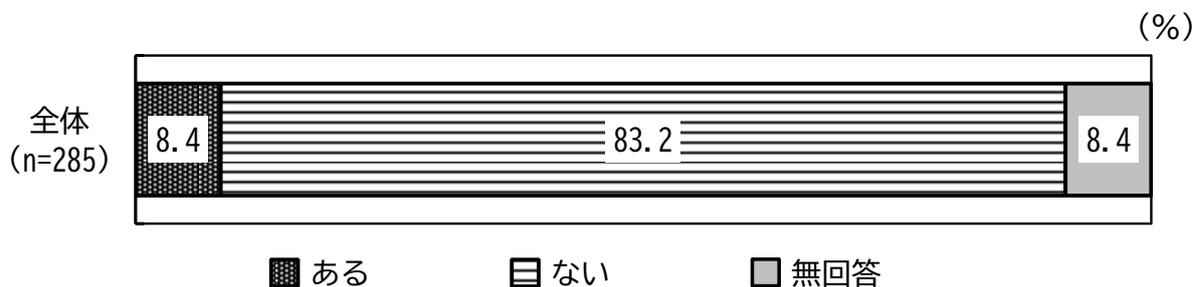
・「ある」が22.7%、「ない」が68.6%となっている。



問5 あなたは、介護サービス事業者との間で問題やトラブルの発生を経験したことがありますか。

（1つに○）

・「ある」が8.4%、「ない」が83.2%となっている。



「<<問5で「1」とお答えの方におたずねします>>

問5-1 どのような問題やトラブルの発生を経験しましたか。具体的にお書きください。

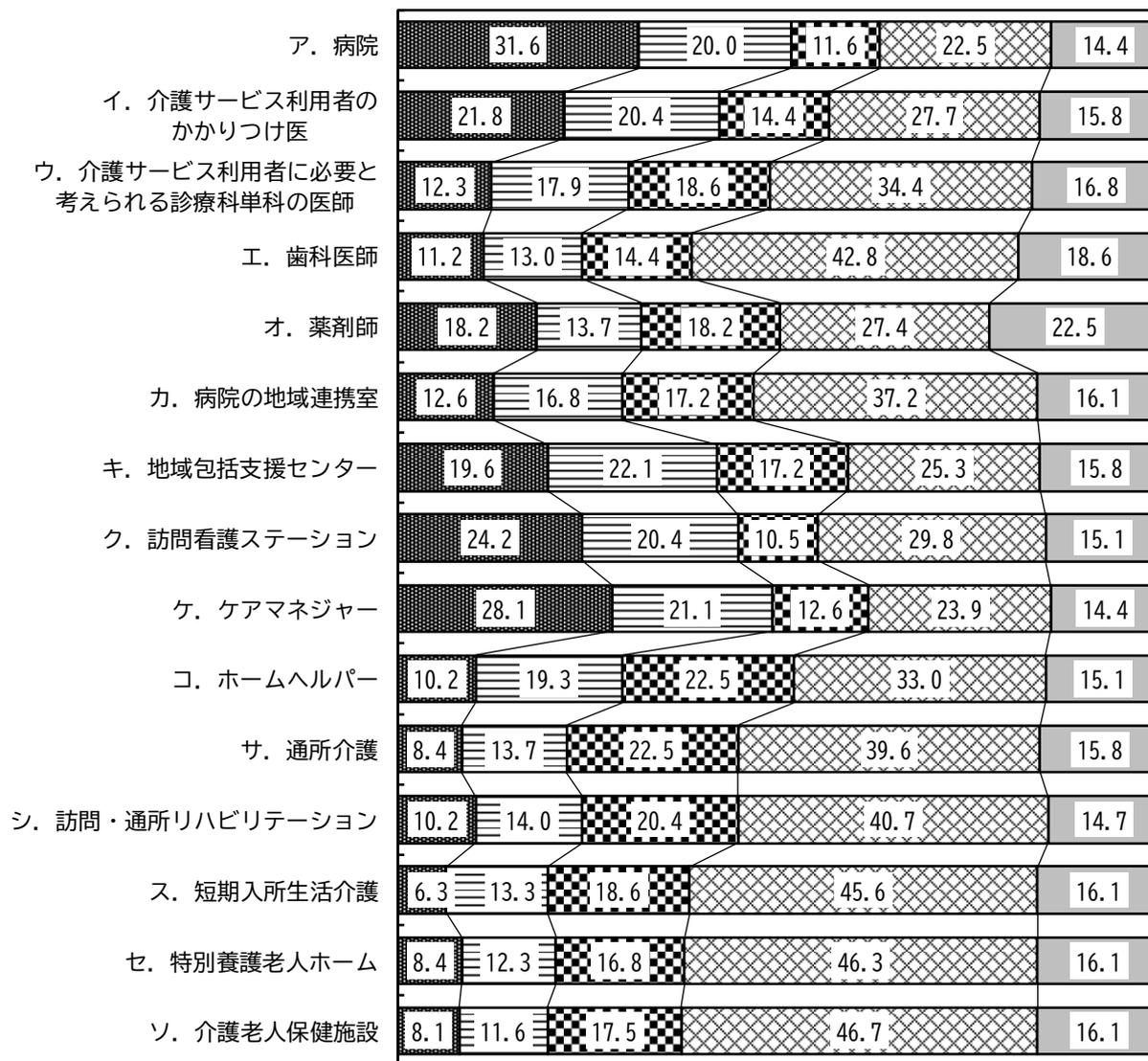
※集計中

問6 あなたが関わる介護サービス利用者について、次の関係機関、職種との連携状況をお答えください。  
(ア～ソそれぞれ1つに○)

- ・「連携している」と「少しは連携している」を合わせた割合は、『ア. 病院』(51.6%)が最も多く、次いで『ケ. ケアマネジャー』(49.2%)、『ク. 訪問看護ステーション』(44.6%)、『イ. 介護サービス利用者のかかりつけ医』(42.2%)、『キ. 地域包括支援センター』(41.7%)と続いている。
- ・一方、「あまり連携していない」と「連携していない」を合わせた割合は、『ス. 短期入所生活介護』と『ソ. 介護老人保健施設』(ともに64.2%)が最も多く、次いで『セ. 特別養護老人ホーム』(63.1%)、『サ. 通所介護』(62.1%)、『シ. 訪問・通所リハビリテーション』(61.1%)と続いている。

全体 (n=285)

(%)

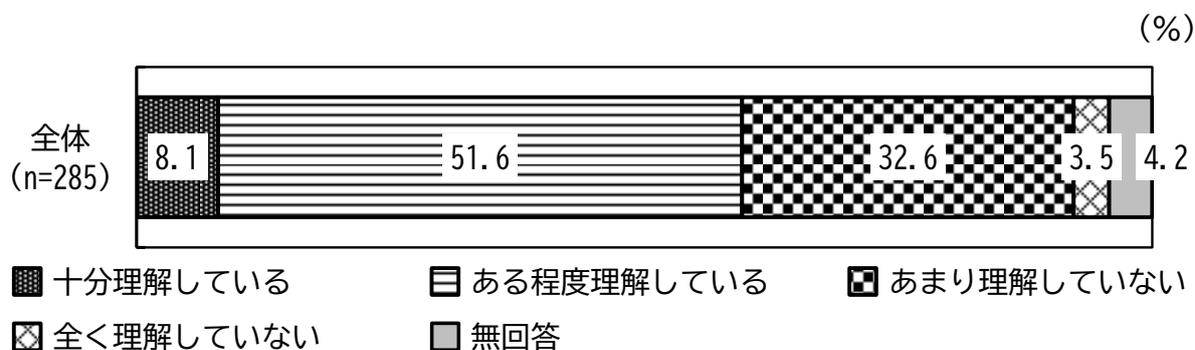


■ 連携している ■ 少しは連携している ■ あまり連携していない ■ 連携していない ■ 無回答

問7 あなたは、介護保険制度及び介護保険サービスの内容についてどの程度理解していますか。

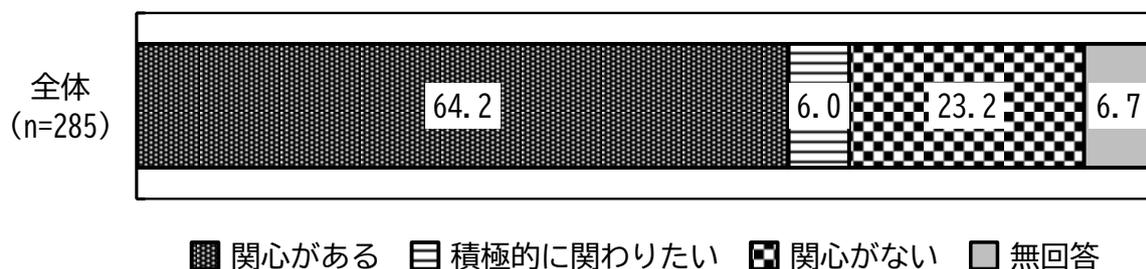
(1つに○)

- ・「十分理解している」(8.1%)、「ある程度理解している」(51.6%)を合わせた割合は59.7%となっている。
- ・一方、「あまり理解していない」(32.6%)、「全く理解していない」(3.5%)を合わせた割合は36.1%となっている。



問8 あなたは、在宅医療に関してどのようにお考えですか。(1つに○)

- ・「関心がある」が64.2%、「積極的に関わりたい」が6.0%、「関心がない」が23.2%となっている。



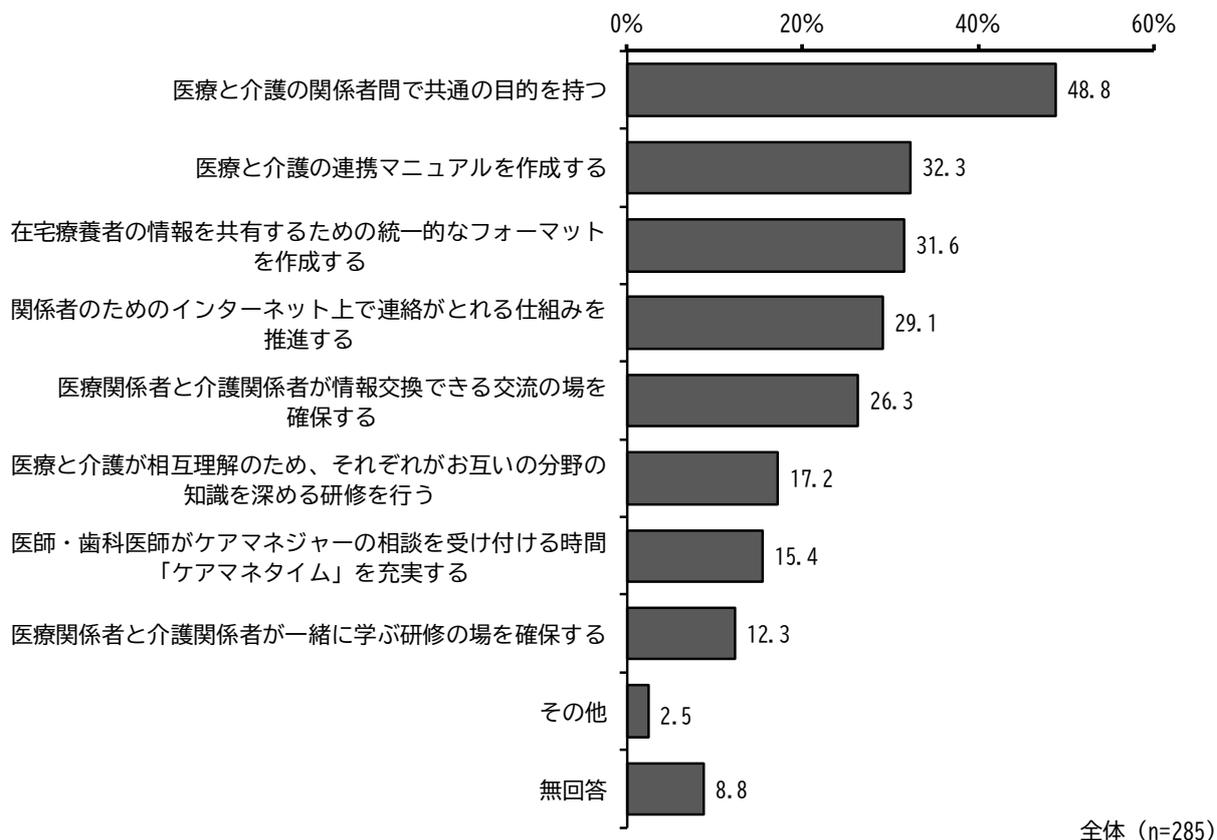
「問8で「2. 積極的に関わりたい」とお答えの方におたずねします」

問8-1 あなたは、どのように関わりたいとお考えですか。具体的にお書きください。

※集計中

問9 あなたは、医療職と介護職が連携するために、どのようなことが充実するとよいと思いますか。(3つまでに○)

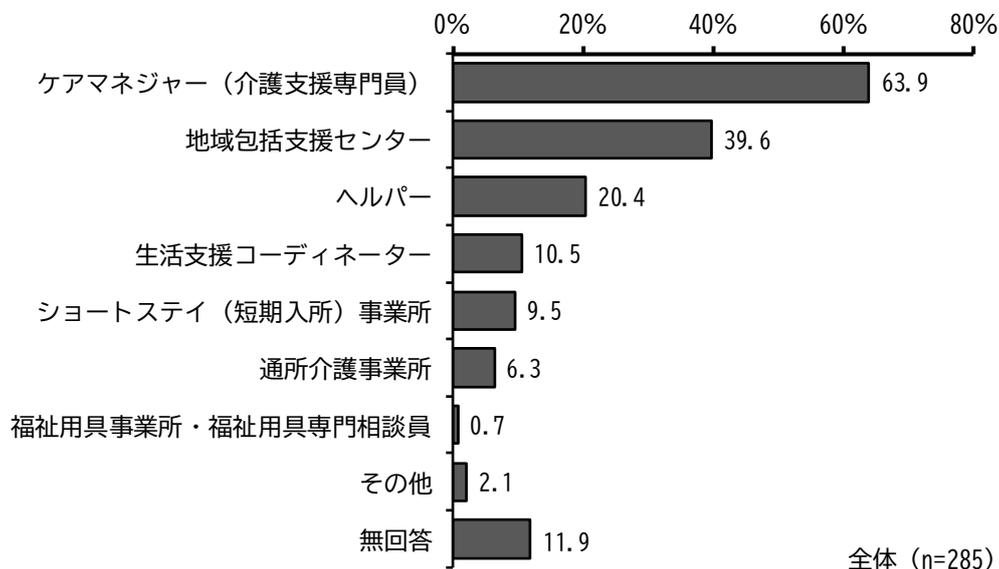
- ・「医療と介護の関係者間で共通の目的を持つ」(48.8%)が最も多く、次いで「医療と介護の連携マニュアルを作成する」(32.3%)、「在宅療養者の情報を共有するための統一的なフォーマットを作成する」(31.6%)、「関係者のためのインターネット上で連絡がとれる仕組みを推進する」(29.1%)、「医療関係者と介護関係者が情報交換できる交流の場を確保する」(26.3%)と続いている。



問 10 在宅療養を支えるうえで、さらに連携が必要と考える事業所や介護職は何ですか。

(2つまでに○)

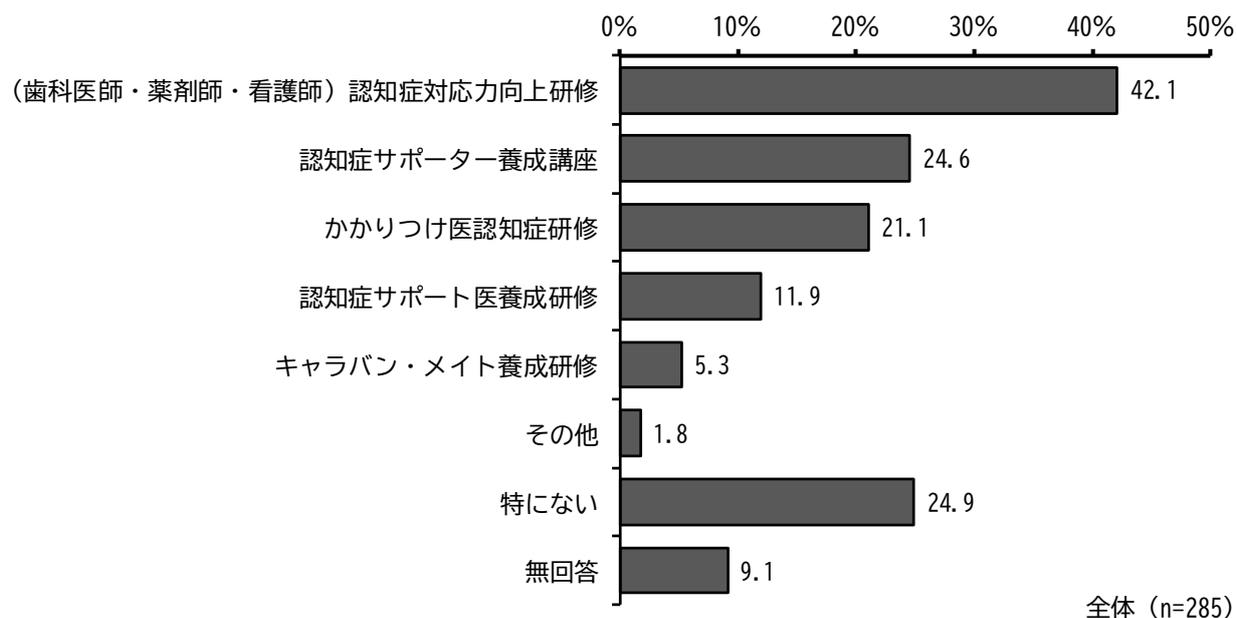
- ・「ケアマネジャー（介護支援専門員）」(63.9%)が最も多く、次いで「地域包括支援センター」(39.6%)、「ヘルパー」(20.4%)と続いている。



問 11 あなたは今後、次のような認知症や認知症の介護に関する研修があれば受けてみたいですか。

(いくつでも○)

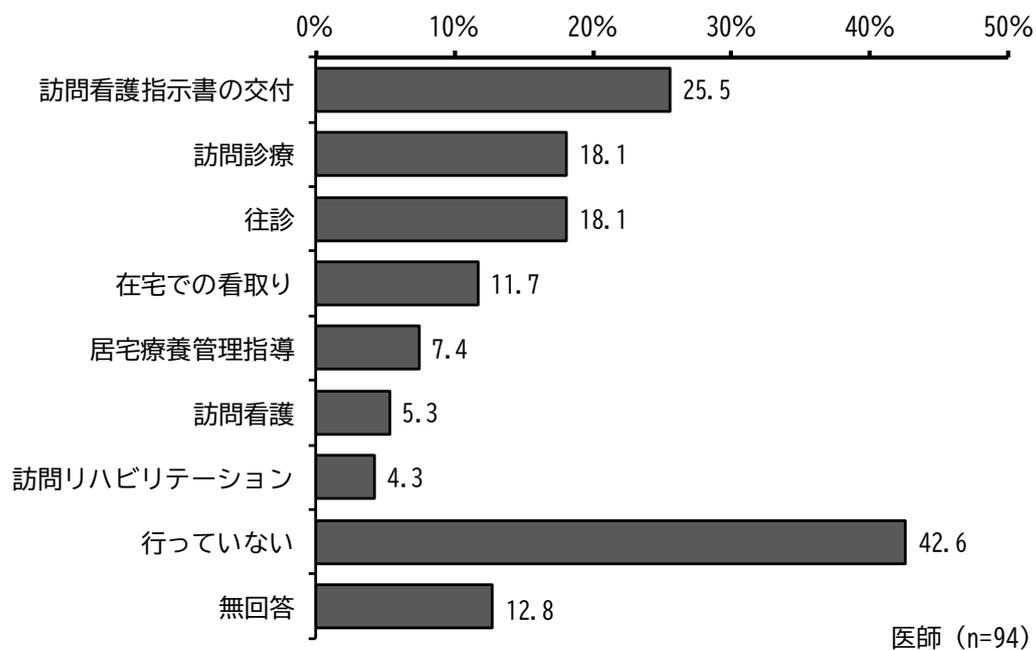
- ・「(歯科医師・薬剤師・看護師) 認知症対応力向上研修」(42.1%)が最も多く、次いで「認知症サポーター養成講座」(24.6%)、「かかりつけ医認知症研修」(21.1%)と続いている。
- ・一方、「特にない」は24.9%となっている。



### (3) 診療所（医師の方）について

#### 問 12 現在、あなたの診療所が行っている在宅医療はどれですか。（いくつでも○）

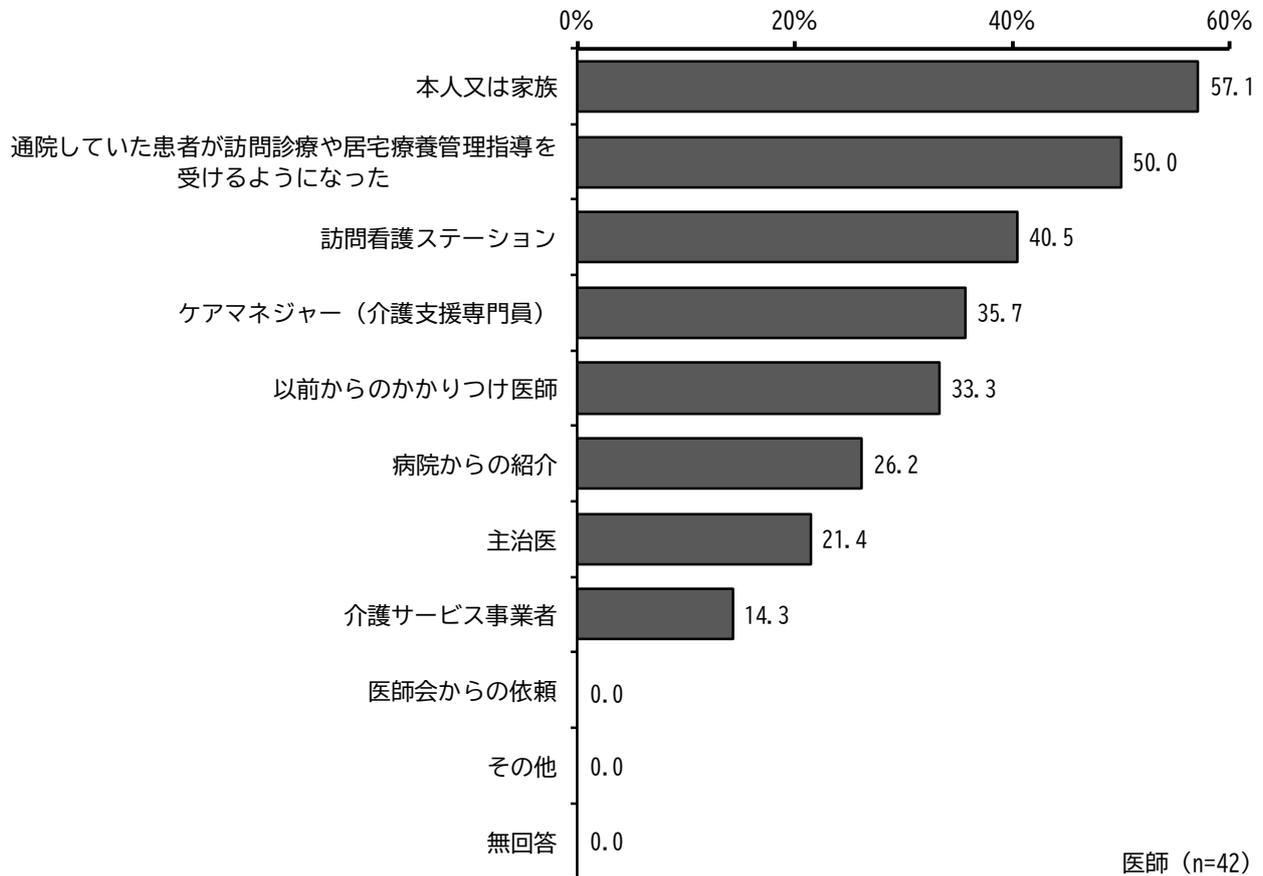
- ・「訪問看護指示書の交付」(25.5%)が最も多く、次いで「訪問診療」「往診」(ともに 18.1%)、「在宅での看取り」(11.7%)、「居宅療養管理指導」(7.4%)と続いている。
- ・一方、「行っていない」は42.6%となっている。



「問 12 で「1」～「7」とお答えの方におたずねします」

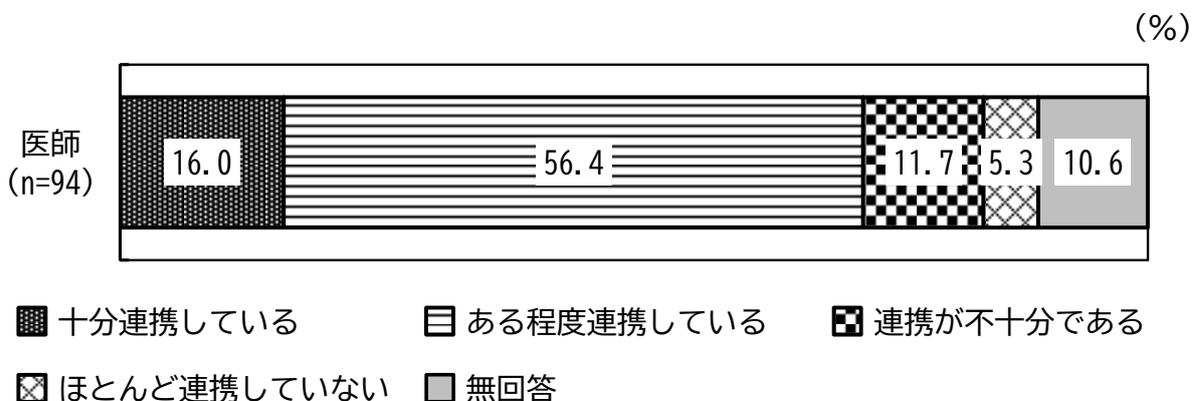
問 12-1 訪問診療や居宅療養管理指導の依頼元はどこですか。(いくつでも○)

- ・「本人又は家族」(57.1%)が最も多く、次いで「通院していた患者が訪問診療や居宅療養管理指導を受けるようになった」(50.0%)、「訪問看護ステーション」(40.5%)、「ケアマネジャー(介護支援専門員)」(35.7%)、「以前からのかかりつけ医師」(33.3%)と続いている。



**問 13 あなたの診療所と、他の医療機関との連携はとれていますか。(1つに○)**

・「十分連携している」(16.0%)、「ある程度連携している」(56.4%)を合わせた割合は72.4%となっている。一方、「連携が不十分である」(11.7%)、「ほとんど連携していない」(5.3%)を合わせた割合は17.0%となっている。



**問 14 あなたの診療所では、介護関係者との情報交換の機会を確保していますか。(1つに○)**

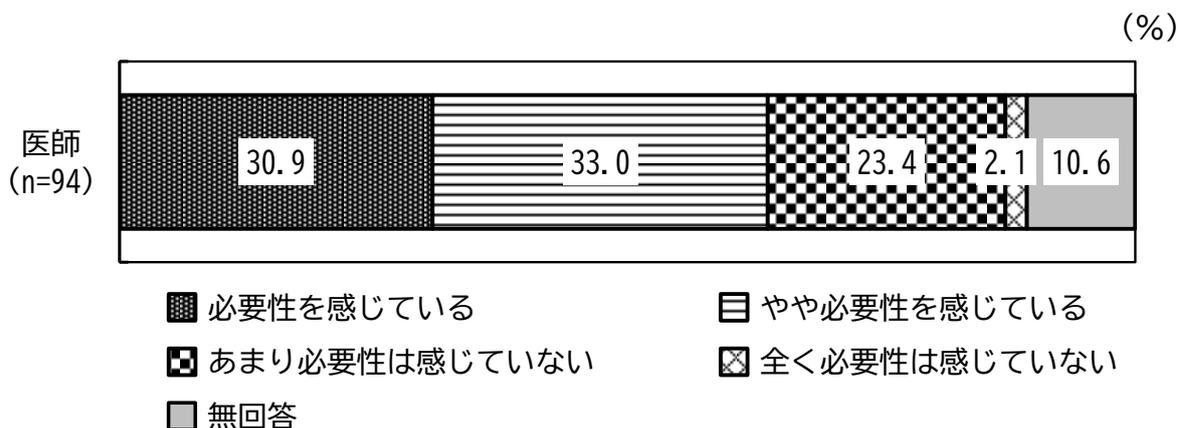
・「確保している」が30.9%、「確保していない」が60.6%となっている。



**問 15 あなたは、ケアプランの送付と受け取りの必要性についてどのようにお考えですか。**

(1つに○)

・「必要性を感じている」(30.9%)、「やや必要性を感じている」(33.0%)を合わせた割合は63.9%となっている。一方、「あまり必要性は感じていない」(23.4%)、「全く必要性は感じていない」(2.1%)を合わせた割合は25.5%となっている。



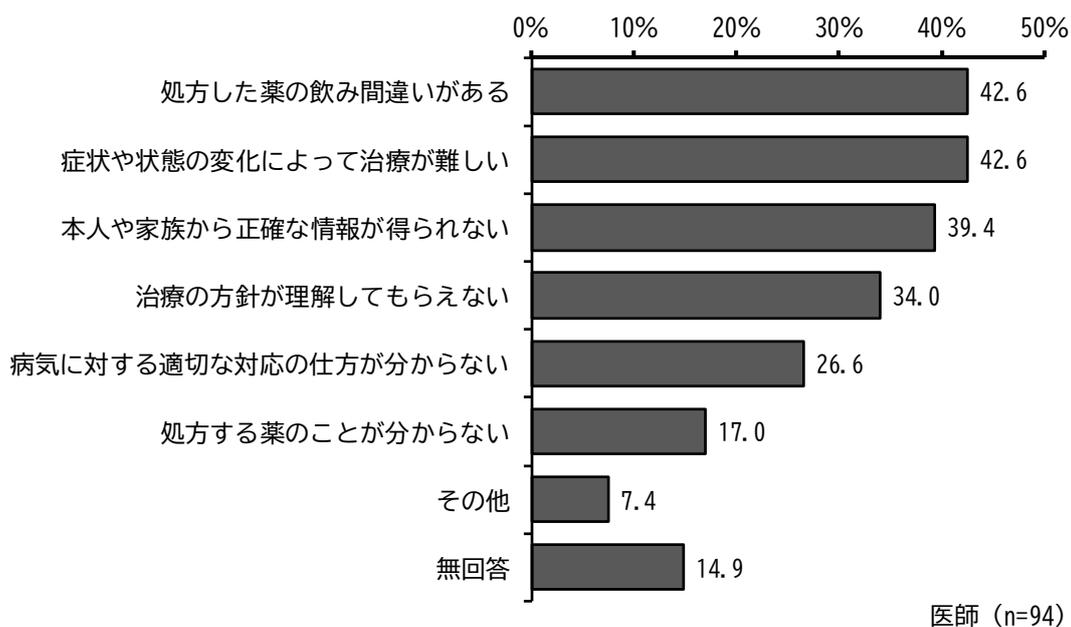
**問 16 あなたが担当している患者のうち、認知症の症状がある人はどの程度いますか。(1つに○)**

- ・「ほとんどである」(2.1%)、「概ねいる」(13.8%)を合わせた割合は 15.9%となっている。一方、「あまりいない」(47.9%)、「ほとんどいない」(17.0%)を合わせた割合は 64.9%となっている。



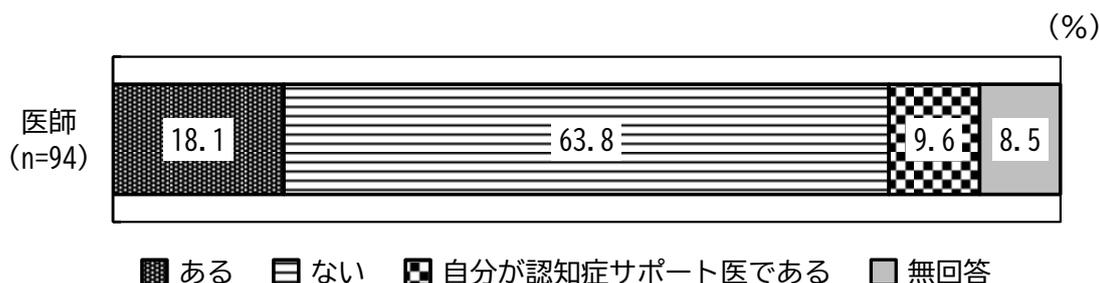
**問 17 あなたが、認知症の方を治療するときに困ることは何ですか。(いくつでも○)**

- ・「処方した薬の飲み間違いがある」と「症状や状態の変化によって治療が難しい」(ともに 42.6%)が最も多く、次いで「本人や家族から正確な情報が得られない」(39.4%)、「治療の方針が理解してもらえない」(34.0%)、「病気に対する適切な対応の仕方が分からない」(26.6%)と続いている。



**問 18 あなたは、認知症サポート医に相談をしたことがありますか。(1つに○)**

- ・「ある」が 18.1%、「ない」が 63.8%、「自分が認知症サポート医である」が 9.6%となっている。



**問 19 あなたは、認知症の方の治療を専門医に紹介することはありますか。（1つに○）**

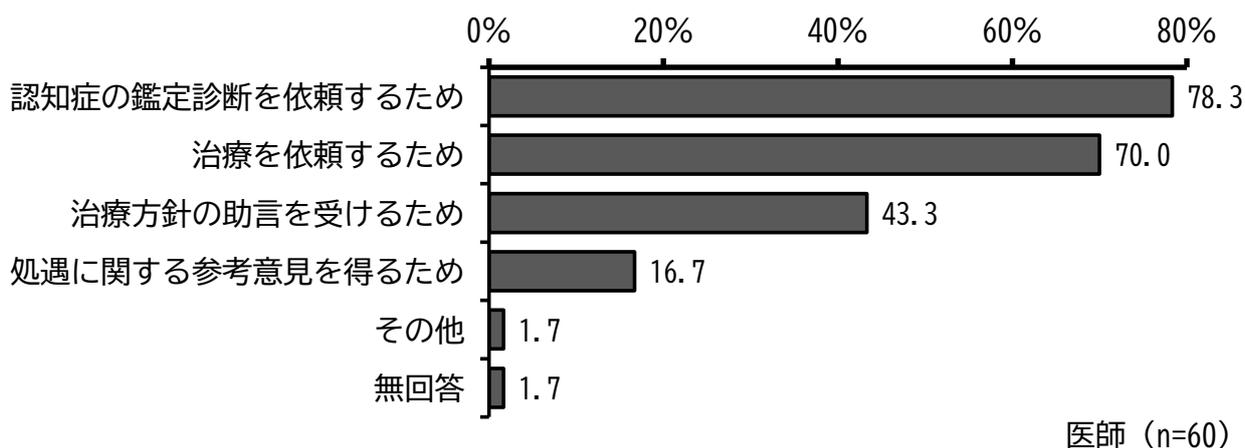
・「ある」が63.8%、「ない」が27.7%となっている。



«問 19 で「1. ある」と回答した方におたずねします»

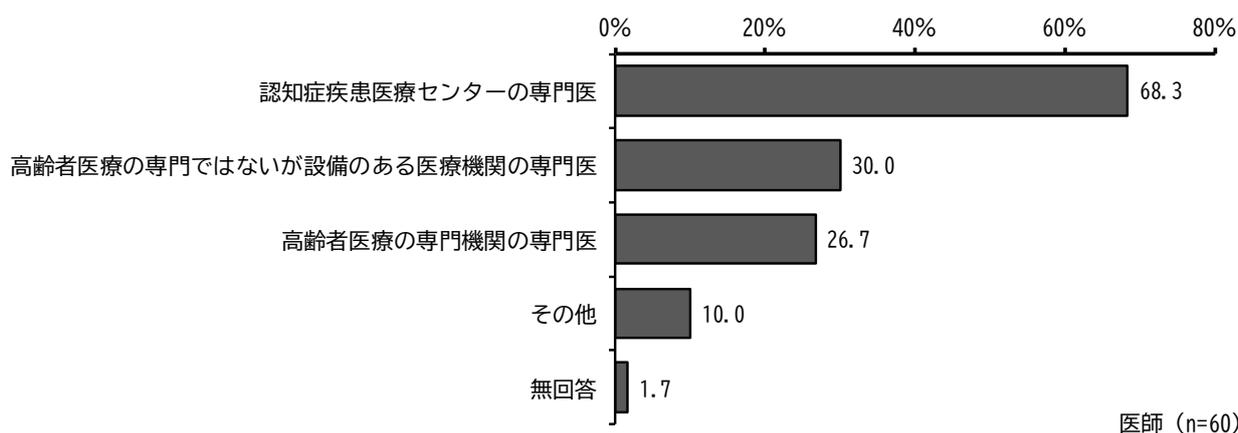
**問 19-1 どのような目的で紹介をしますか。（いくつでも○）**

・「認知症の鑑定診断を依頼するため」(78.3%)が最も多く、次いで「治療を依頼するため」(70.0%)、「治療方針の助言を受けるため」(43.3%)と続いている。



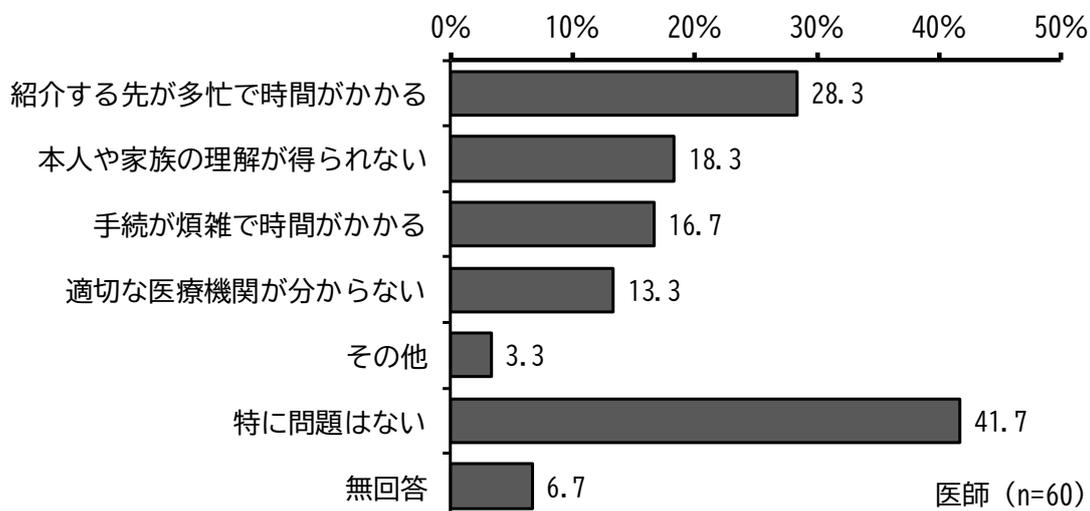
**問 19-2 どのような機関の専門医ですか。（いくつでも○）**

・「認知症疾患医療センターの専門医」(68.3%)が最も多く、次いで「高齢者医療の専門ではないが設備のある医療機関の専門医」(30.0%)、「高齢者医療の専門機関の専門医」(26.7%)となっている。



**問 19-3 そのときどのようなことが問題になりますか。(いくつでも○)**

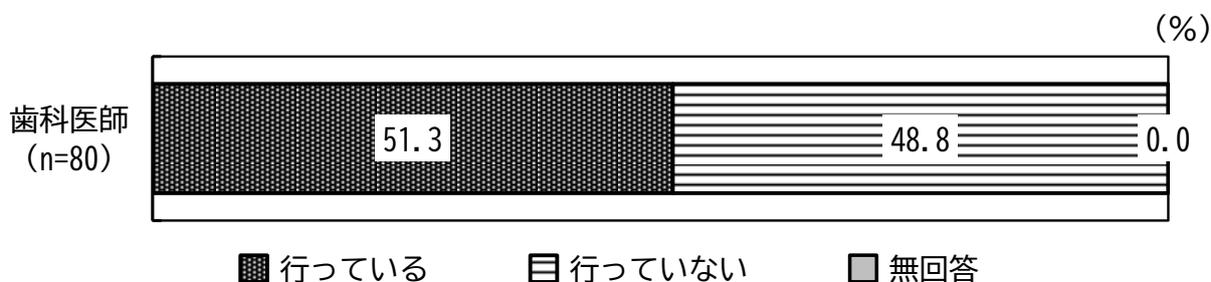
- ・「紹介する先が多忙で時間がかかる」(28.3%)が最も多く、次いで「本人や家族の理解が得られない」(18.3%)、「手続きが煩雑で時間がかかる」(16.7%)、「適切な医療機関が分からない」(13.3%)と続いている。
- ・一方、「特に問題はない」は41.7%となっている。



**(4) 歯科診療所 (歯科医師の方) について**

**問 20 あなたの歯科診療所では、訪問歯科診療や居宅療養管理指導を行っていますか。(1つに○)**

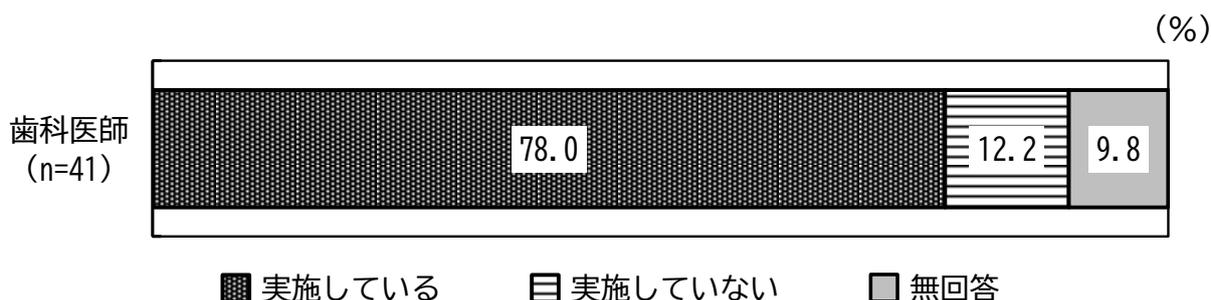
- ・「行っている」が51.3%、「行っていない」が48.8%となっている。



«問 20 で「1」とお答えの方におたずねします»

**問 20-1 あなたの歯科診療所では、訪問時に口腔衛生指導等を実施していますか。(1つに○)**

- ・「実施している」が78.0%、「実施していない」が12.2%となっている。



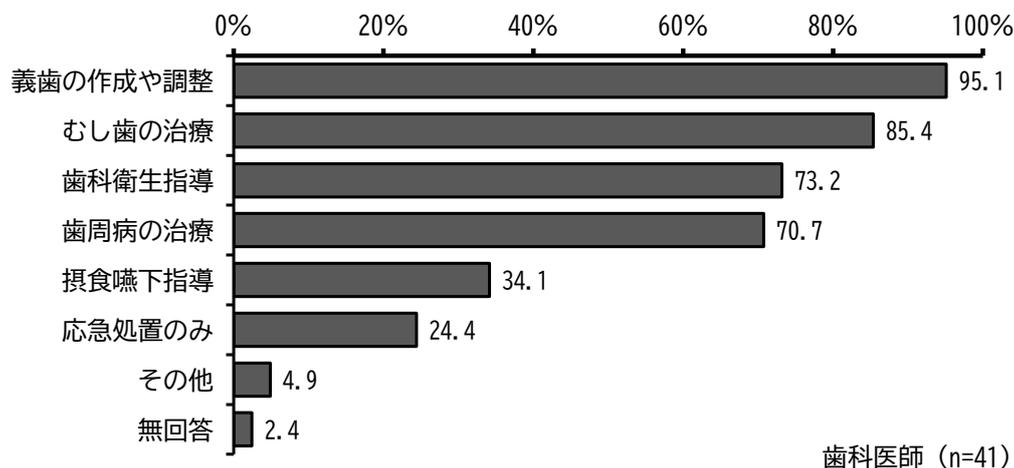
問 20-2 あなたの歯科診療所では、歯科衛生士による訪問歯科衛生指導及び居宅療養管理指導を実施していますか。(1つに○)

・「実施している」が73.2%、「実施していない」が24.4%となっている。



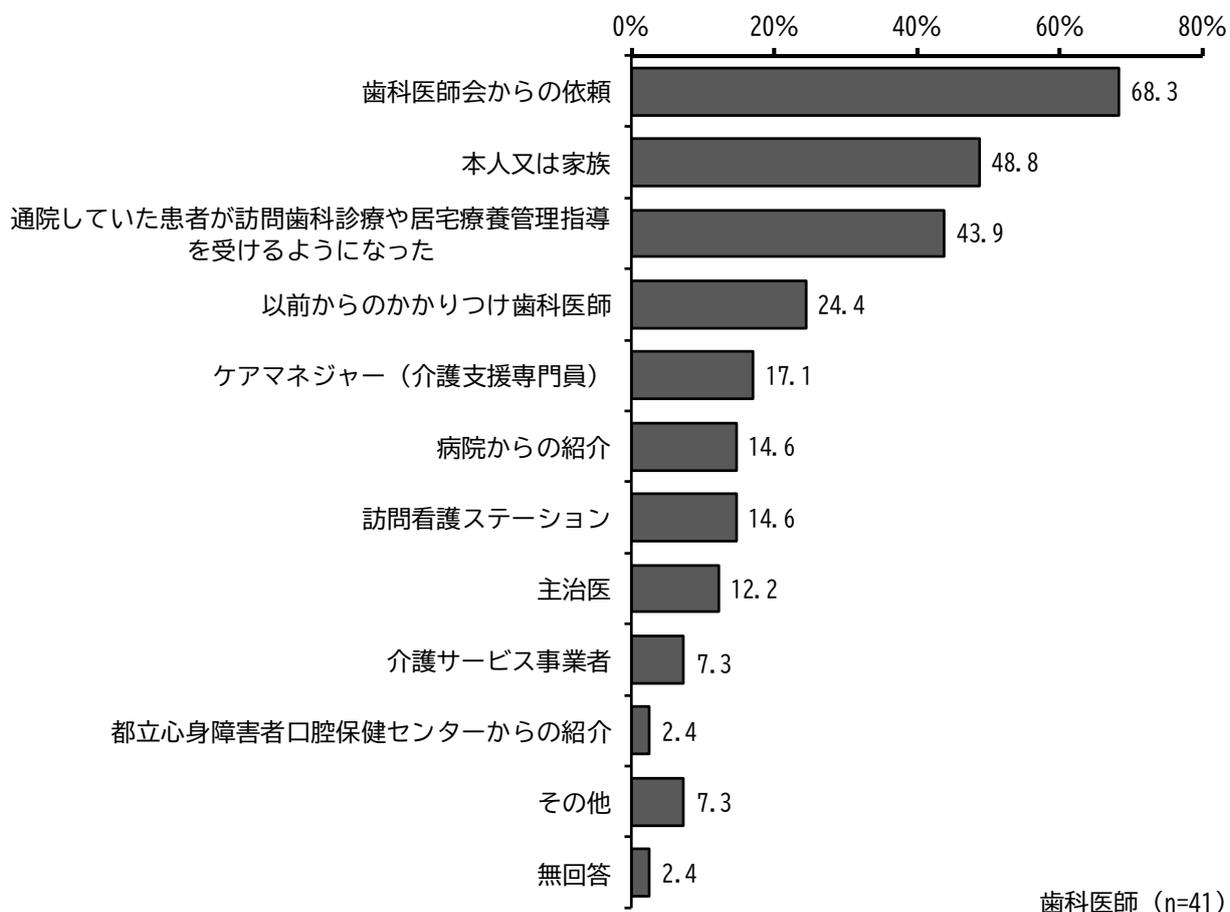
問 20-3 訪問歯科診療や居宅療養管理指導で対応可能な治療は何ですか。(いくつでも○)

・「義歯の作成や調整」(95.1%)が最も多く、次いで「むし歯の治療」(85.4%)、「歯科衛生指導」(73.2%)、「歯周病の治療」(70.7%)と続いている。



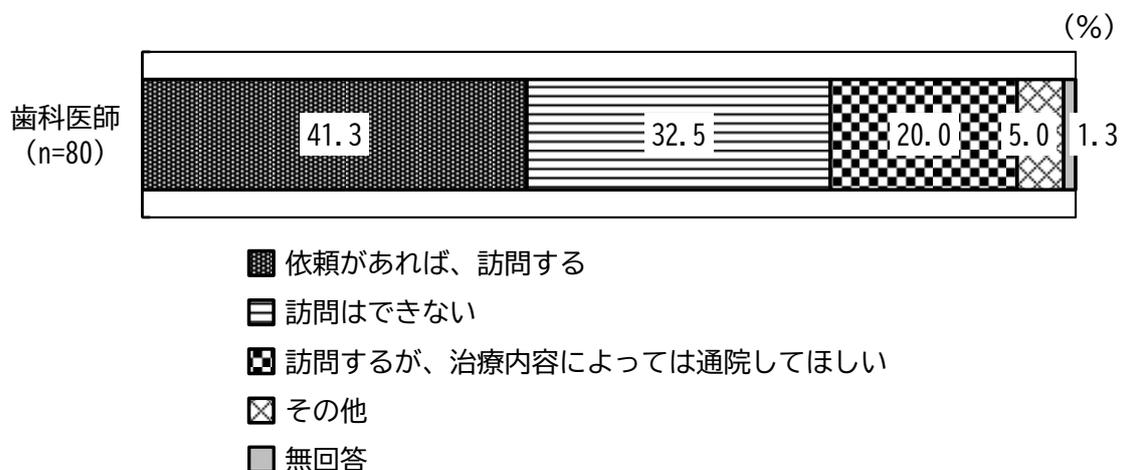
**問 20-4 訪問歯科診療や居宅療養管理指導の依頼元はどこですか。(いくつでも○)**

- ・「歯科医師会からの依頼」(68.3%)が最も多く、次いで「本人又は家族」(48.8%)、「通院していた患者が訪問歯科診療や居宅療養管理指導を受けるようになった」(43.9%)と続いている。



**問 21 今後、依頼があった場合に訪問歯科診療や居宅療養管理指導の実施は可能ですか。(1つに○)**

- ・「依頼があれば、訪問する」(41.3%)、「訪問するが、治療内容によっては通院してほしい」(20.0%)、「訪問はできない」(32.5%)となっている。



**問 22 あなたの歯科診療所では、在宅で療養生活を送っている府中市民の方の主治医（かかりつけ医）と連携していますか。（1つに○）**

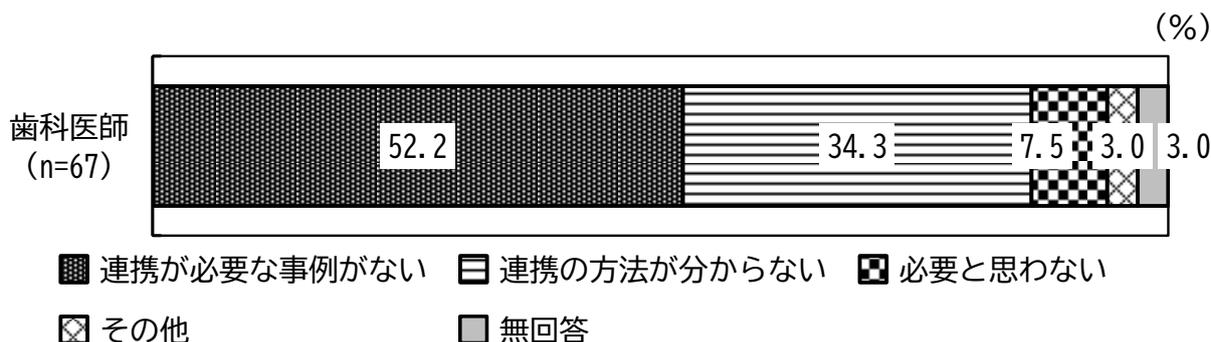
・「連携している」が13.8%、「あまり連携していない」が35.0%、「連携していない」が48.8%となっている。



«問 22で「2」又は「3」とお答えの方におたずねします»

**問 22-1 その理由は何ですか。（1つに○）**

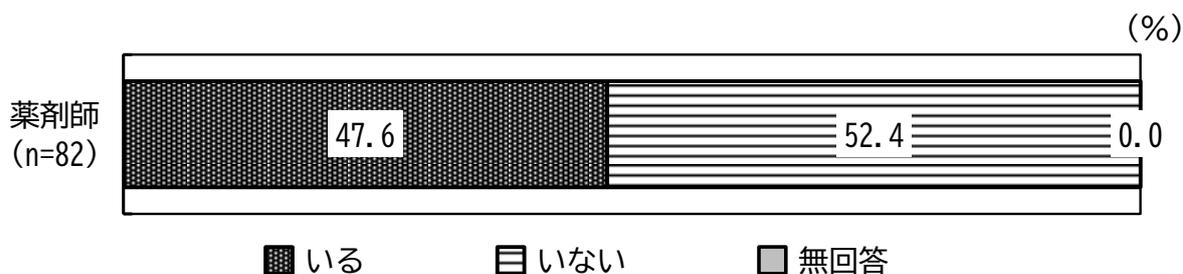
・「連携が必要な事例がない」が52.2%、「連携の方法が分からない」が34.3%、「必要と思わない」が7.5%となっている。



**(5) 薬局（薬剤師の方）について**

**問 23 あなたの薬局を利用されている方の中に、現在、在宅患者訪問薬剤管理指導（居宅療養管理指導）を利用している府中市民はいますか。（1つに○）**

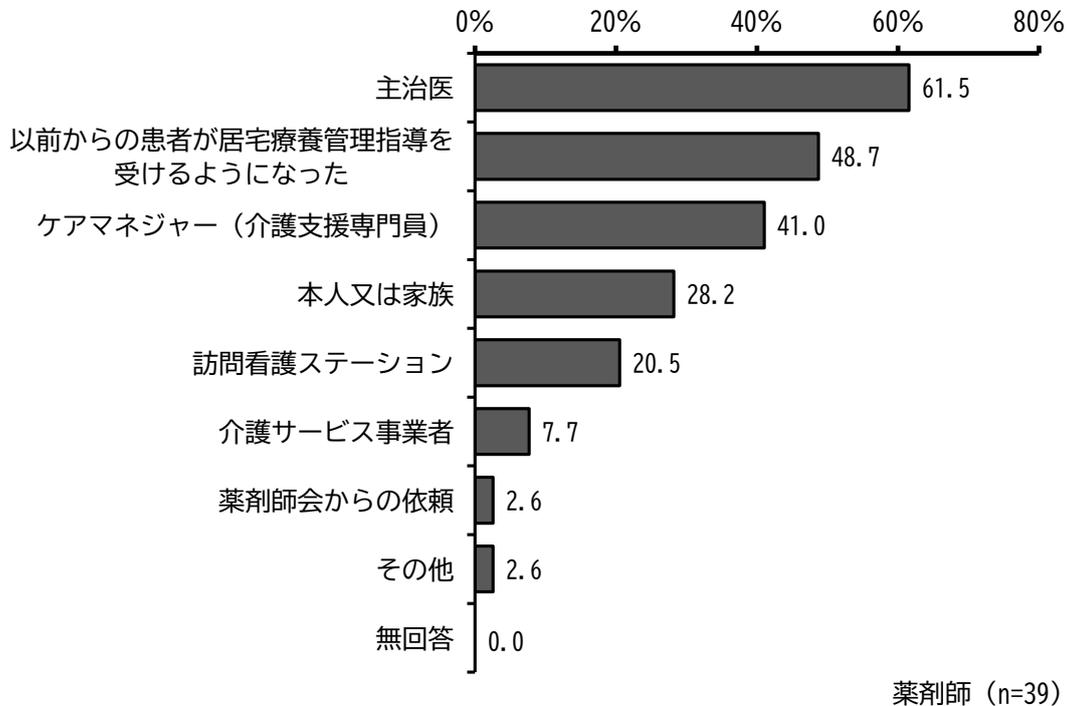
・「いる」が47.6%、「いない」が52.4%となっている。



「問 23 で「1」とお答えの方におたずねします」

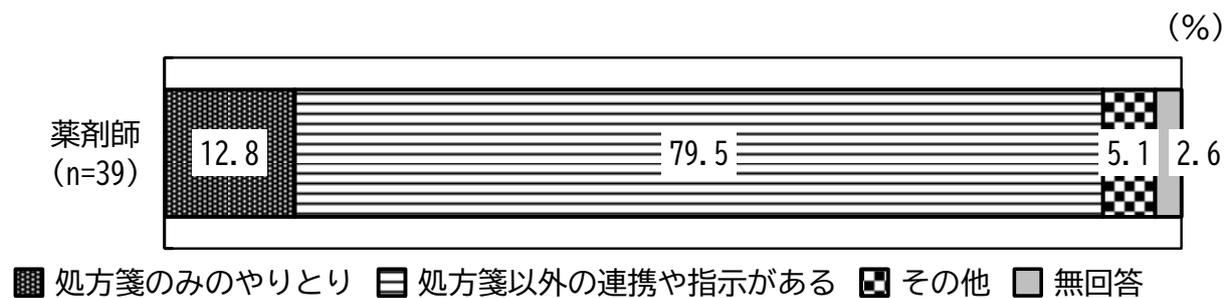
問 23-1 居宅療養管理指導の依頼元はどこですか。(いくつでも○)

- ・「主治医」(61.5%)が最も多く、次いで「以前からの患者が居宅療養管理指導を受けるようになった」(48.7%)、「ケアマネジャー(介護支援専門員)」(41.0%)と続いている。



問 23-2 あなたは、医師との連携をどのようにしていますか。(1つに○)

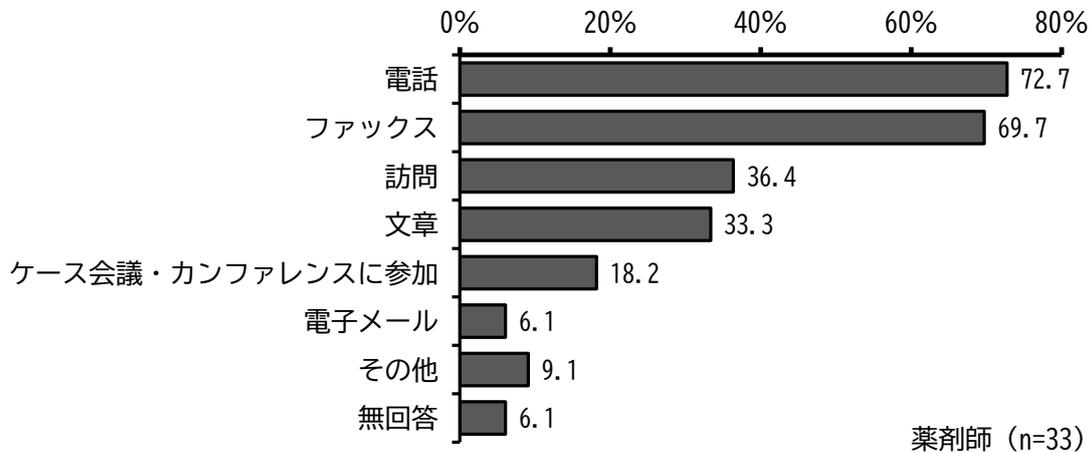
- ・「処方箋のみのやりとり」が 12.8%、「処方箋以外の連携や指示がある」が 79.5%となっている。



「問 23-2 で「2」又は「3」とお答えの方におたずねします」

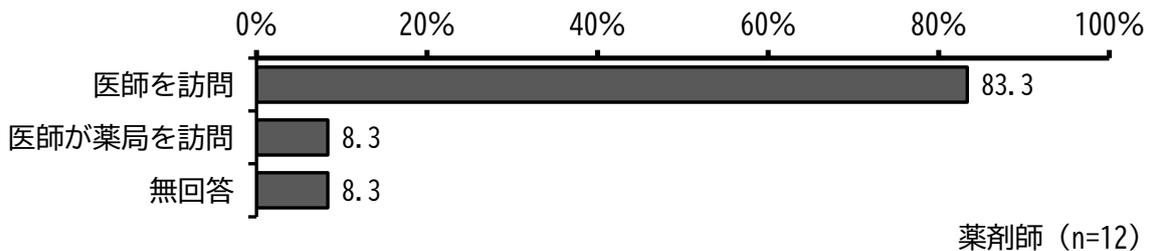
問 23-3 具体的にどのような手段が用いられていますか。(いくつでも○)

- ・「電話」(72.7%)が最も多く、次いで「ファックス」(69.7%)、「訪問」(36.4%)、「文章」(33.3%)と続いている。



【訪問】の方法

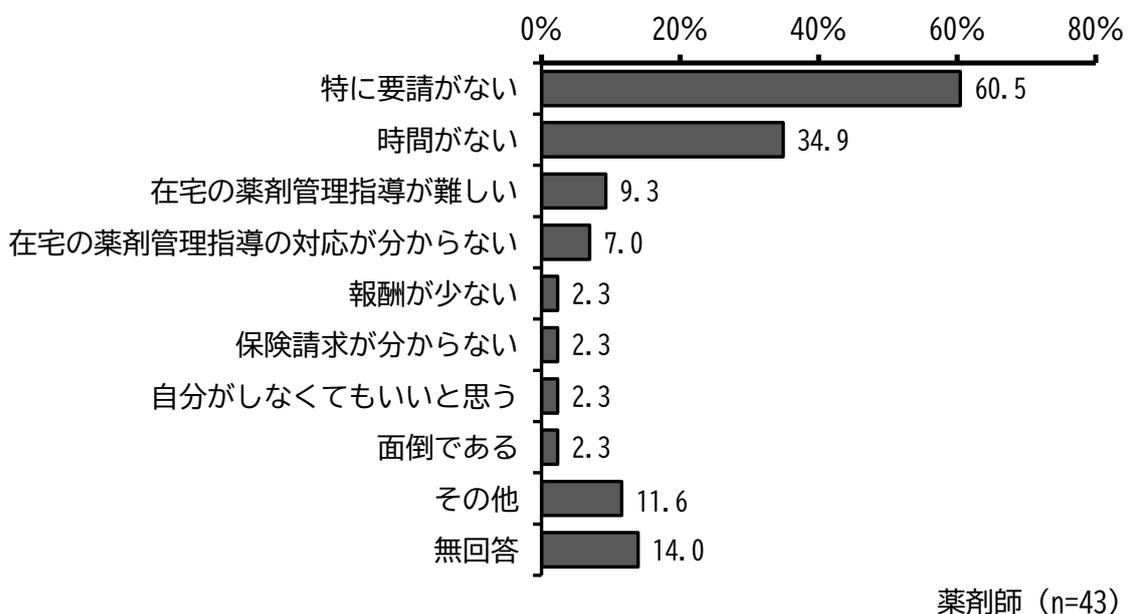
- ・「医師を訪問」が 83.3%、「医師が薬局を訪問」が 8.3%となっている。



「問 23 で「2」とお答えの方におたずねします」

問 23-4 いない理由は次のどれですか。(いくつでも○)

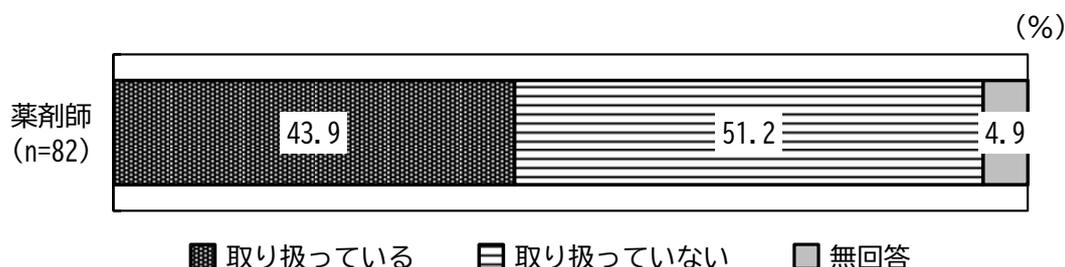
- ・「特に要請がない」(60.5%)が最も多く、次いで「時間がない」(34.9%)、「在宅の薬剤管理指導が難しい」(9.3%)、「在宅の薬剤管理指導の対応が分からない」(7.0%)と続いている。



問 24 あなたは、府中市内で訪問診療を行う在宅療養支援診療所の処方箋を取り扱っていますか。

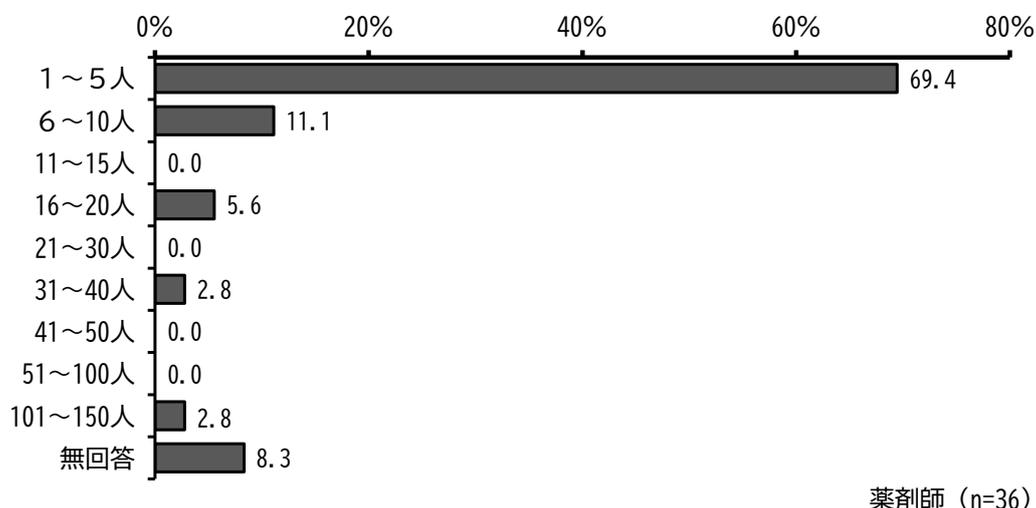
(1つに○)

・「取り扱っている」が43.9%、「取り扱っていない」が51.2%となっている。



【「取り扱っている」1か月平均の人数】

・「1～5人」(69.4%)が最も多く、次いで「6～10人」(11.1%)、「16～20人」(5.6%)、「31～40人」「101～150人」(ともに2.8%)と続いている。

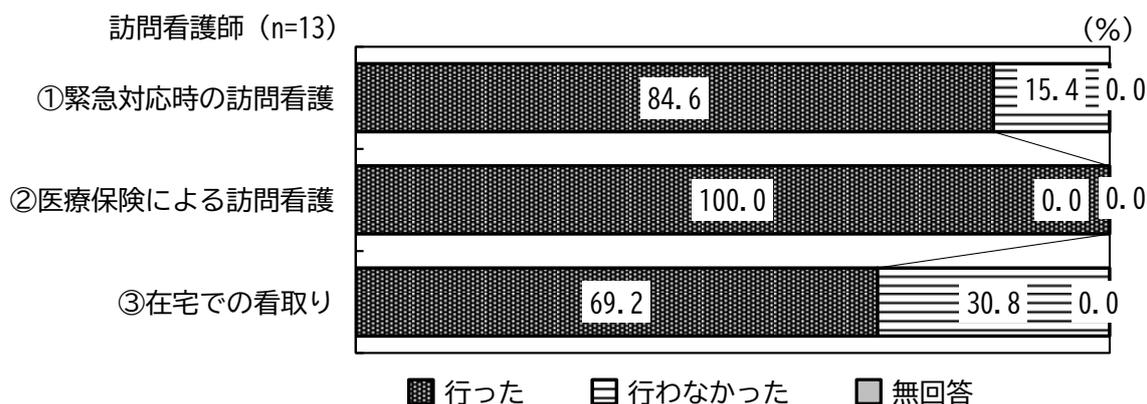


(6) 訪問看護ステーション（訪問看護師の方）について

問 25 あなたの訪問看護ステーションでの、令和元年9月中の活動状況をお答えください。

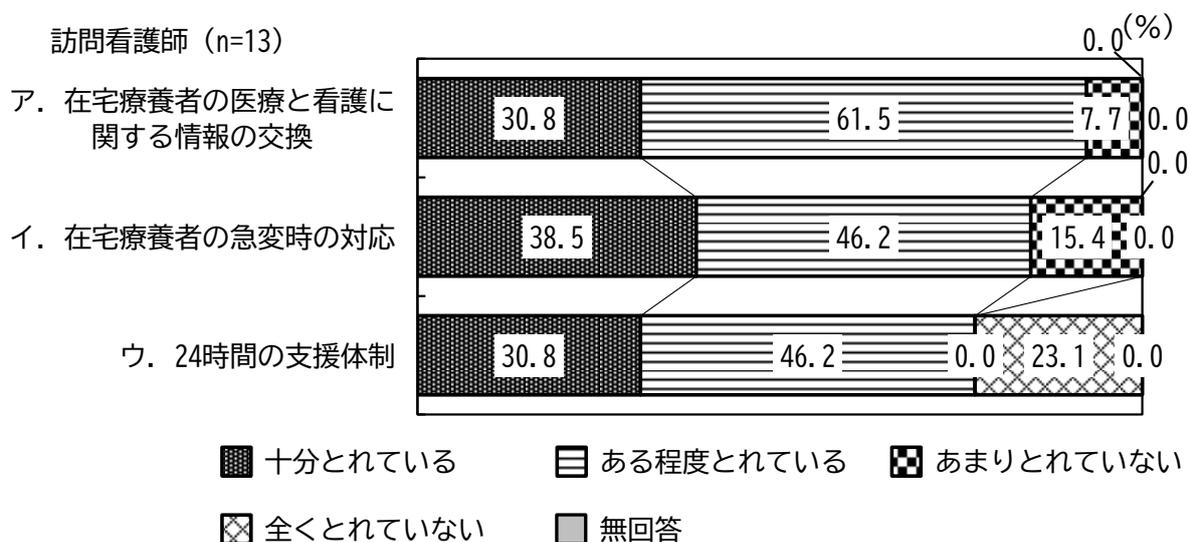
(①～③それぞれ1つに○)

・「行った」割合は、『①緊急対応時の訪問看護』が84.6%、『②医療保険による訪問看護』が100.0%、『③在宅での看取り』が69.2%となっている。



**問 26 あなたの訪問看護ステーションでは、在宅医療を実施している医療機関とどのような連携をとっていますか。(ア～ウそれぞれ1つに○)**

- ・『ア. 在宅療養者の医療と看護に関する情報の交換』は、「十分とれている」(30.8%)、「ある程度とれている」(61.5%)を合わせた割合は92.3%となっている。一方、「あまりとれていない」(7.7%)、「全くとれていない」(0.0%)を合わせた割合は7.7%となっている。
- ・『イ. 在宅療養者の急変時の対応』は、「十分とれている」(38.5%)、「ある程度とれている」(46.2%)を合わせた割合は84.7%となっている。一方、「あまりとれていない」(15.4%)、「全くとれていない」(0.0%)を合わせた割合は15.4%となっている。
- ・『ウ. 24時間の支援体制』は、「十分とれている」(30.8%)、「ある程度とれている」(46.2%)を合わせた割合は77.0%となっている。一方、「あまりとれていない」(0.0%)、「全くとれていない」(23.1%)を合わせた割合は23.1%となっている。



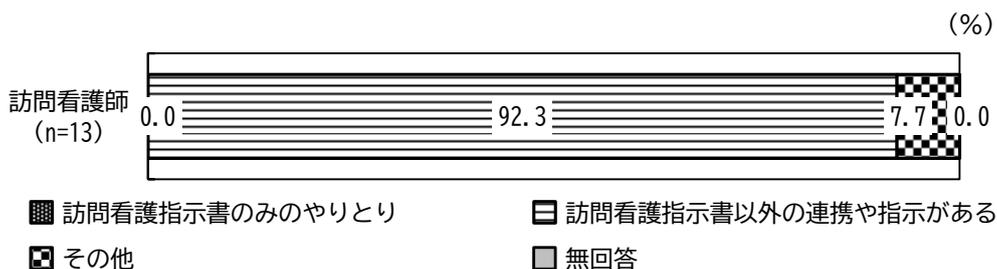
「問 26 で、1つでも「3」又は「4」とお答えの方におたずねします」

**問 26-1 在宅医療を実施している医療機関との連携がとれていない理由として特筆すべきことがございましたら、ご自由にお書きください。**

※集計中

**問 27 あなたは、医師との連携をどのようにとっていますか。(1つに○)**

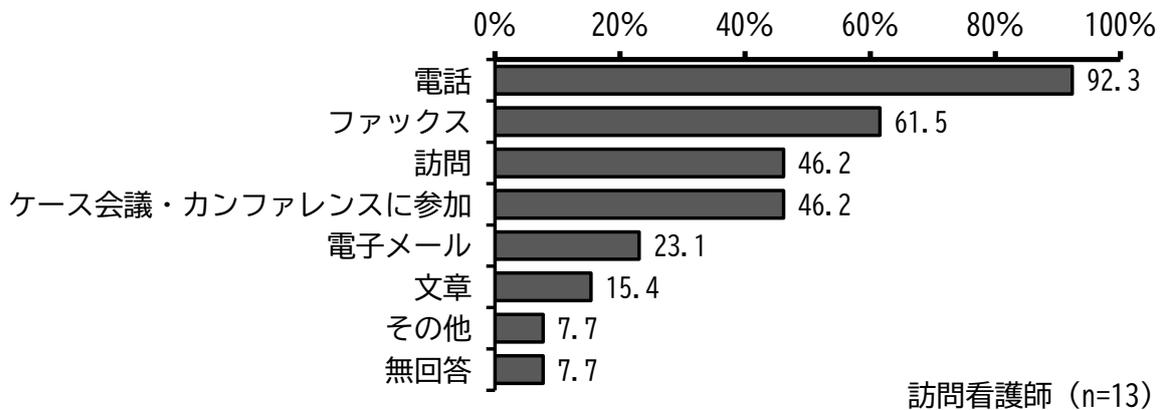
- ・「訪問看護指示書以外の連携や指示がある」が92.3%となっている。



「問 27 で「2」又は「3」とお答えの方におたずねします」

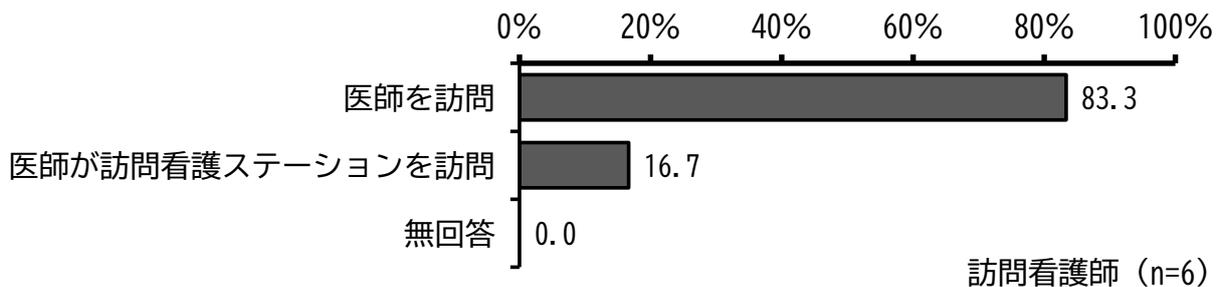
問 27-1 具体的にどのような手段が用いられていますか。(いくつでも○)

- ・「電話」(92.3%)が最も多く、次いで「ファックス」(61.5%)、「訪問」「ケース会議・カンファレンスに参加」(ともに 46.2%)、「電子メール」(23.1%)と続いている。



【訪問】の方法

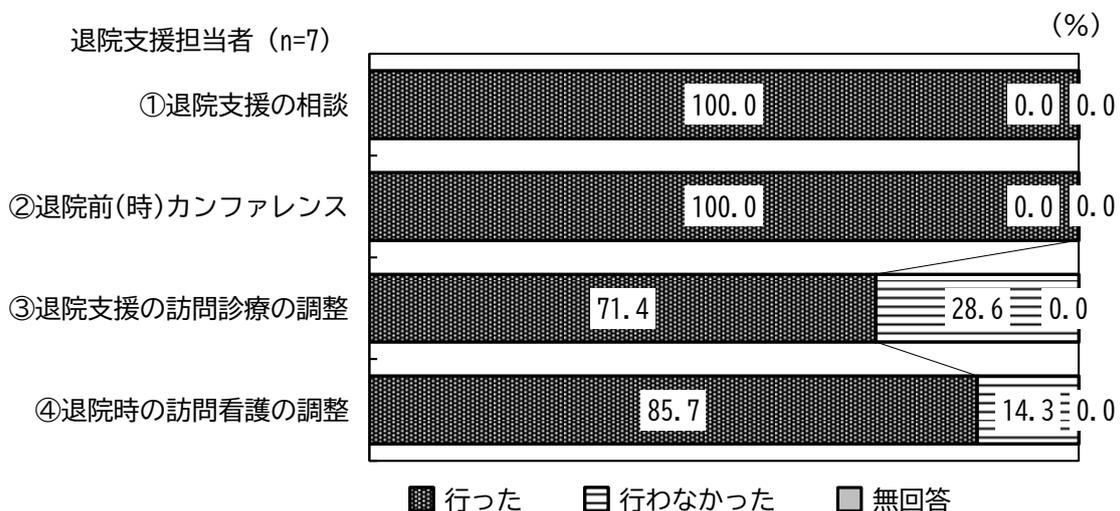
- ・「医師を訪問」が 83.3%、「医師が訪問看護ステーションを訪問」が 16.7%となっている。



(7) 病院の退院支援担当医者(医療ソーシャルワーカー、看護師)について

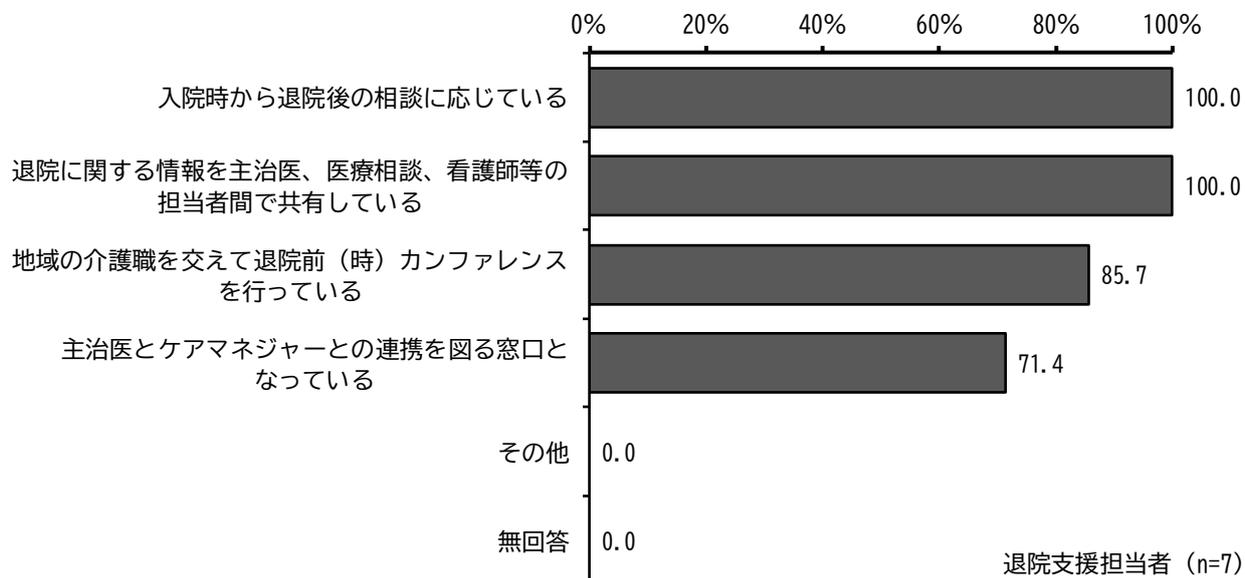
問 28 貴医院における令和元年9月中の活動状況をお答えください。(①~④それぞれ1つに○)

- ・「行った」割合は、『①退院支援の相談』『②退院前(時)カンファレンス』がともに 100.0%、『③退院支援の訪問診療の調整』が 71.4%、『④退院時の訪問看護の調整』が 85.7%となっている。



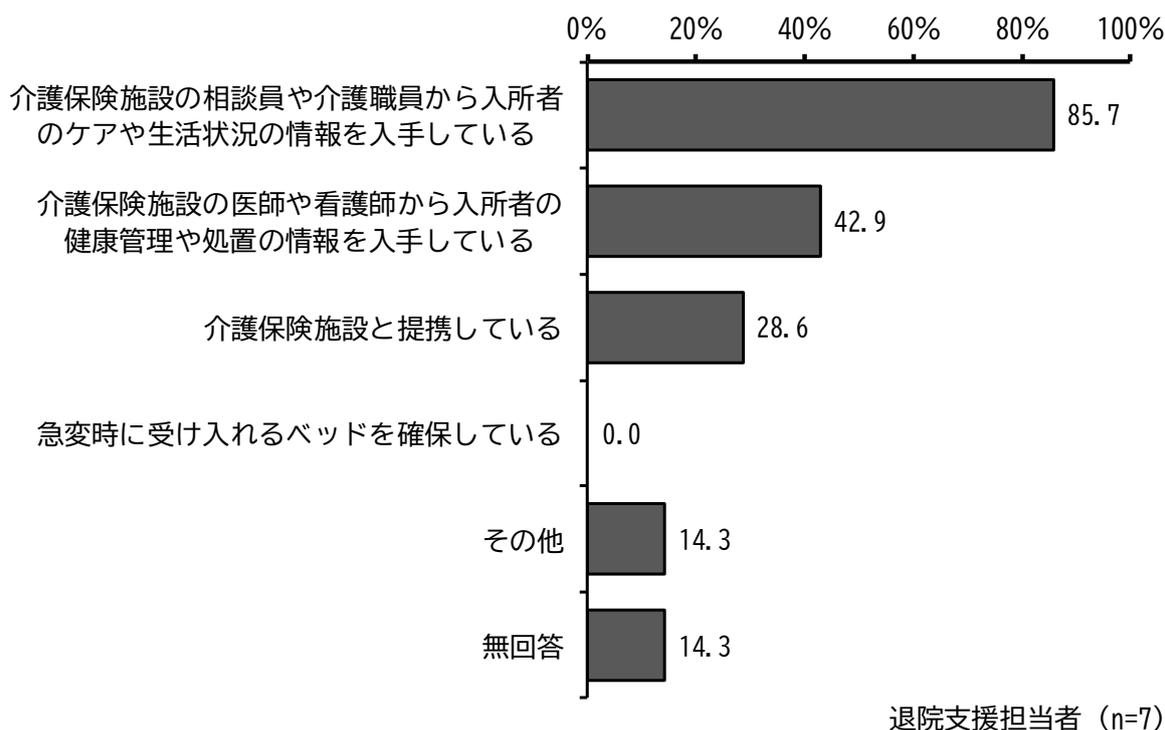
## 問 29 貴医院では、どのような地域連携活動を行っていますか。(いくつでも○)

- ・「入院時から退院後の相談に応じている」と「退院に関する情報を主治医、医療相談、看護師等の担当者間で共有している」(ともに 100.0%)が最も多く、次いで「地域の介護職を交えて退院前(時)カンファレンスを行っている」(85.7%)、「主治医とケアマネジャー(介護支援専門員)との連携を図る窓口となっている」(71.4%)と続いている。



## 問 30 あなたは、介護保険施設とどのように連携していますか。(いくつでも○)

- ・「介護保険施設の相談員や介護職員から入所者のケアや生活状況の情報を入手している」(85.7%)が最も多く、次いで「介護保険施設の医師や看護師から入所者の健康管理や処置の情報を入手している」(42.9%)、「介護保険施設と提携している」(28.6%)と続いている。



## (8) 地域包括ケアシステムの構築に向けた医療と介護の連携について

「ここからは、すべての方がお答えください」

問 31 あなたは、医療と介護の連携で、どんなことに苦労していますか。具体的にお書きください。

※集計中

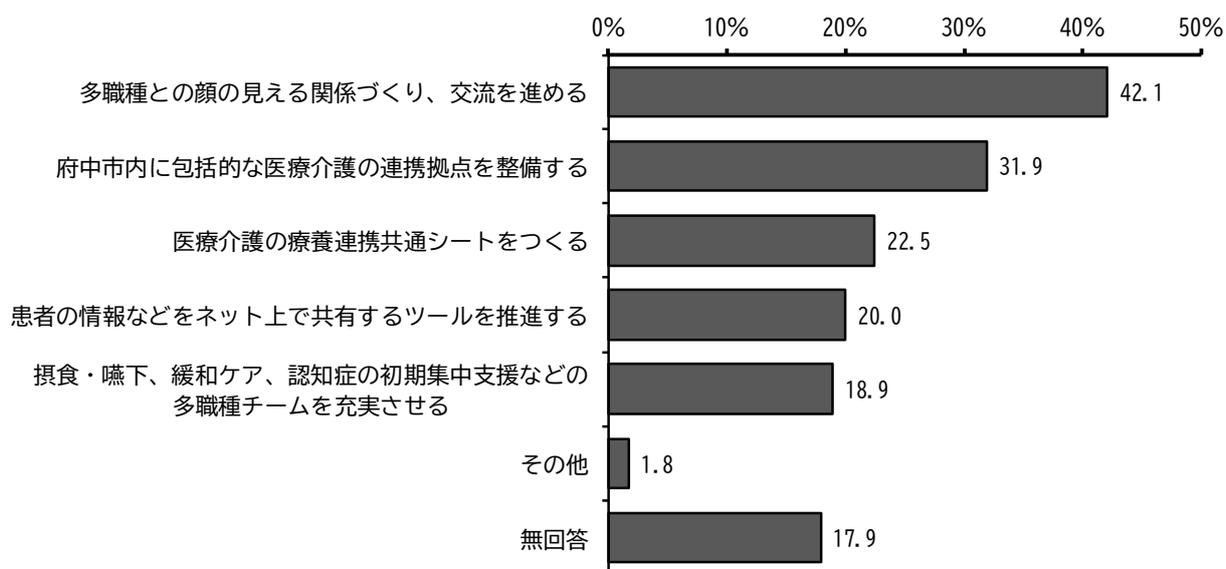
問 32 あなたは、ケアマネジャー（介護支援専門員）、訪問看護師、福祉施設介護員、福祉施設生活相談員、ホームヘルパー（訪問介護員）、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士にどのようなことを期待しますか。それぞれ具体的にお書きください。

※集計中

問 33 2025 年に向けて地域包括ケアシステムの構築が求められています。その中で医療と介護の連携は最重要課題であるといわれています。あなたは、これから府中市で医療と介護の連携が進むために、どのようなことが必要だとお考えですか。

### ①連携の仕組みづくり（2つまでに○）

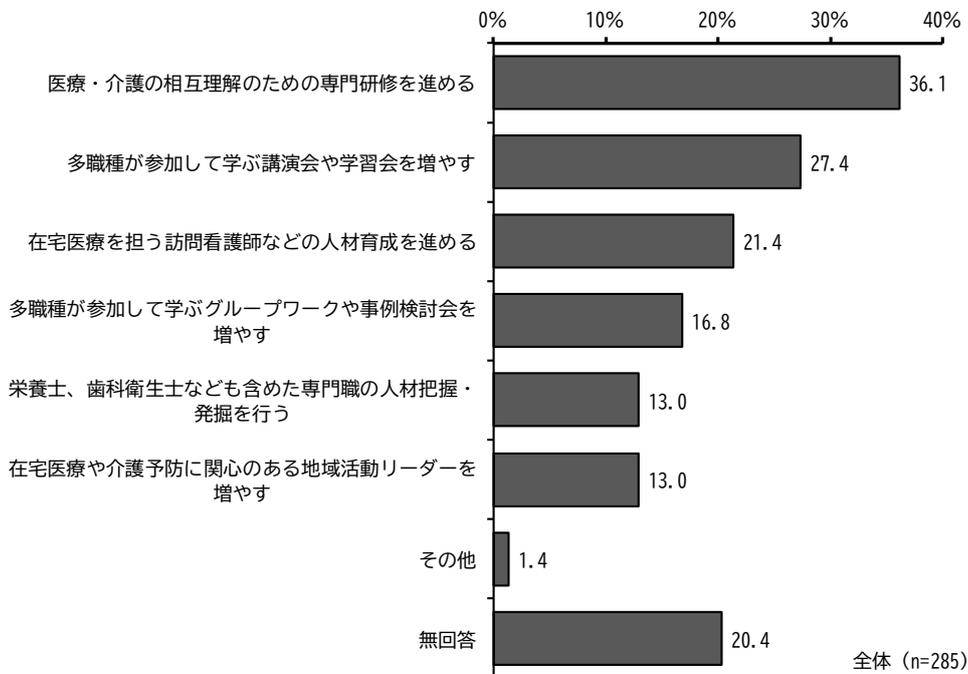
- ・「多職種との顔の見える関係づくり、交流を進める」(42.1%)が最も多く、次いで「府中市内に包括的な医療介護の連携拠点を整備する」(31.9%)、「医療介護の療養連携共通シートをつくる」(22.5%)、「患者の情報などをネット上で共有するツールを推進する」(20.0%)、「摂食・嚥下、緩和ケア、認知症の初期集中支援などの多職種チームを充実させる」(18.9%)と続いている。



全体 (n=285)

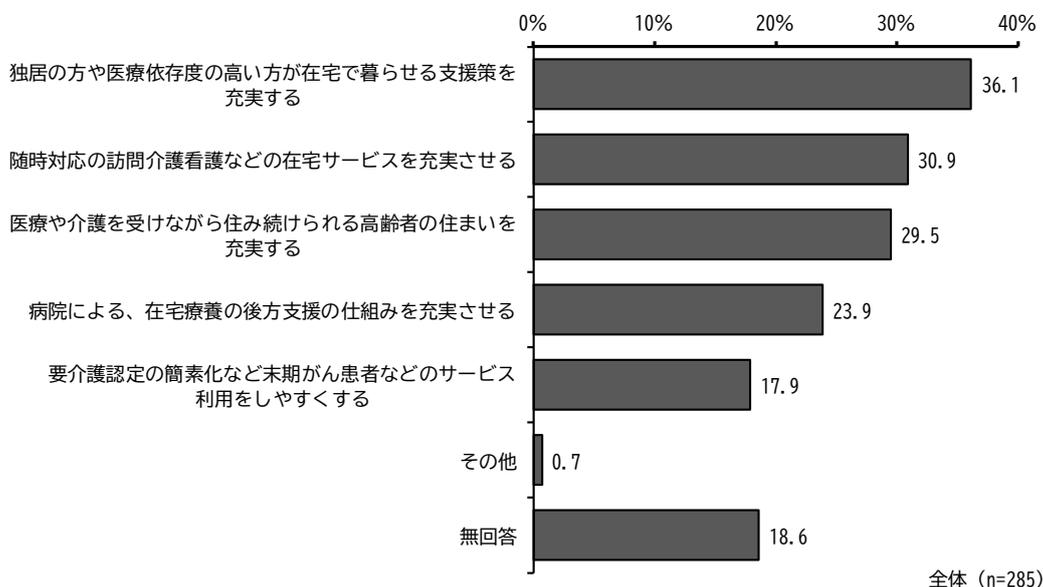
## ②地域の人材育成（2つまでに○）

- ・「医療・介護の相互理解のための専門研修を進める」(36.1%)が最も多く、次いで「多職種が参加して学ぶ講演会や学習会を増やす」(27.4%)、「在宅医療を担う訪問看護師などの人材育成を進める」(21.4%)、「多職種が参加して学ぶグループワークや事例検討会を増やす」(16.8%)、「栄養士、歯科衛生士なども含めた専門職の人材把握・発掘を行う」と「在宅医療や介護予防に関心のある地域活動リーダーを増やす」(ともに13.0%)と続いている。



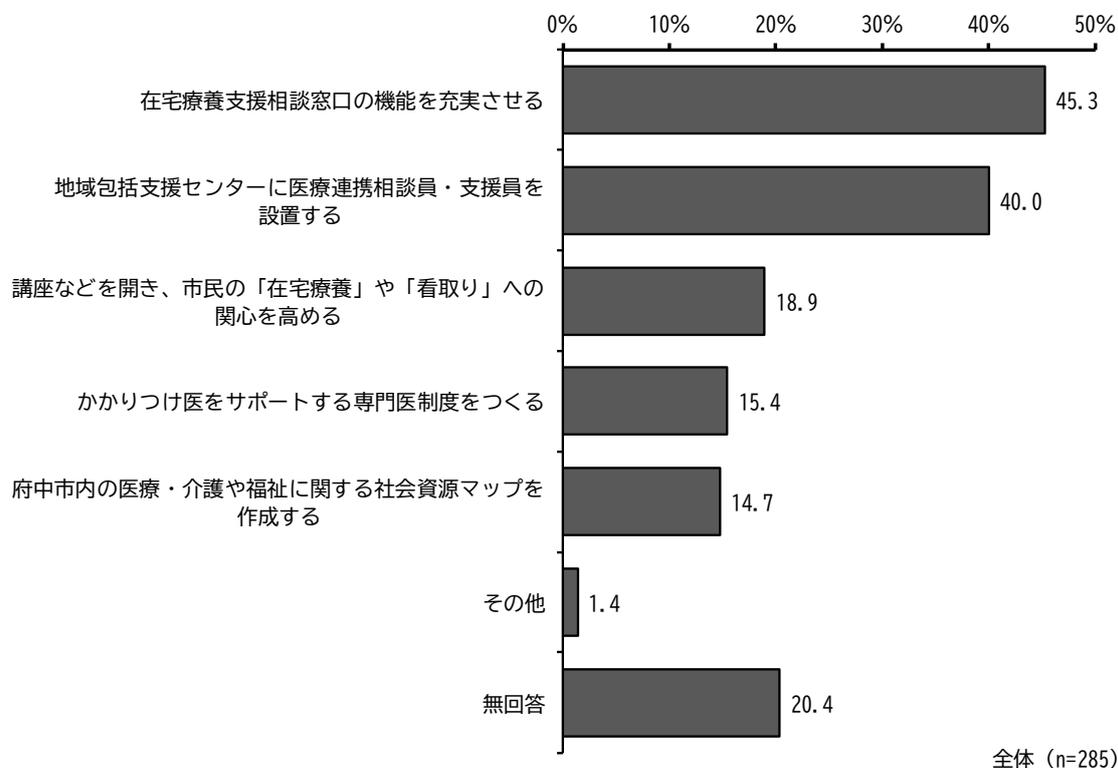
## ③サービス・基盤整備（2つまでに○）

- ・「独居の方や医療依存度の高い方が在宅で暮らせる支援策を充実する」(36.1%)が最も多く、次いで「随時対応の訪問介護看護などの在宅サービスを充実させる」(30.9%)、「医療や介護を受けながら住み続けられる高齢者の住まいを充実する」(29.5%)、「病院による、在宅療養の後方支援の仕組みを充実させる」(23.9%)、「要介護認定の簡素化など末期がん患者などのサービス利用をしやすいとする」(17.9%)と続いている。



#### ④情報提供・相談支援の充実（2つまでに○）

- ・「在宅療養支援相談窓口の機能を充実させる」(45.3%)が最も多く、次いで「地域包括支援センターに医療連携相談員・支援員を設置する」(40.0%)、「講座などを開き、市民の「在宅療養」や「看取り」への関心を高める」(18.9%)、「かかりつけ医をサポートする専門医制度をつくる」(15.4%)、「府中市内の医療・介護や福祉に関する社会資源マップを作成する」(14.7%)と続いている。



問 34 最後に、在宅療養者に対する医療や介護サービスのあり方、介護保険制度、医療保険制度等を含め、医療と介護の連携についてのご意見・ご要望等がございましたら、ご自由にお書きください。

※集計中

## 調査⑥在宅介護実態調査結果（速報版）

### ①調査の目的

要介護者の在宅生活の継続や介護者の就労継続に有効なサービスのあり方を検討する。

### ②調査対象

・市内の在宅で生活している要支援・要介護認定者のうち、令和元年6月以降に更新申請・区分変更申請に伴う認定調査を受けた者

### ③調査方法

・認定調査員による聞き取り調査

### ④調査時期

・令和元年6月1日～12月27日

### ⑤回収結果

・675票

## ⑥調査項目

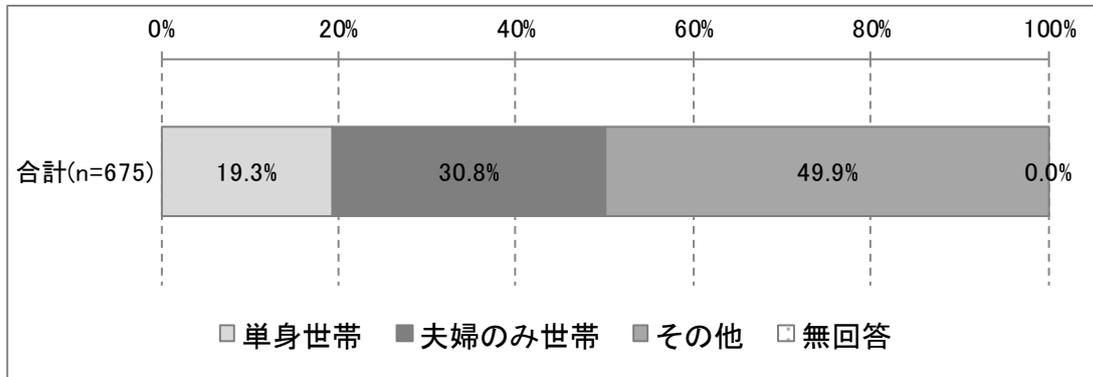
- 1 基本調査項目（A票） [P.3]
  - 世帯類型 [P.3]
  - 家族等による介護の頻度 [P.3]
  - 主な介護者の本人との関係 [P.4]
  - 主な介護者の性別 [P.4]
  - 主な介護者の年齢 [P.5]
  - 主な介護者が行っている介護 [P.5]
  - 介護のための離職の有無 [P.6]
  - 保険外の支援・サービスの利用状況 [P.6]
  - 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス [P.7]
  - 施設等検討の状況 [P.7]
  - 本人が抱えている傷病 [P.8]
  - 訪問診療の利用の有無 [P.9]
  - 介護保険サービスの利用の有無 [P.9]
  - 介護保険サービス未利用の理由 [P.10]
  
- 2 主な介護者様用の調査項目（B票） [P.11]
  - 主な介護者の勤務形態 [P.11]
  - 主な介護者の方の働き方の調整の状況 [P.11]
  - 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援 [P.12]
  - 主な介護者の就労継続の可否に係る意識 [P.13]
  - 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護 [P.13]
  
- 3 要介護認定データ [P.14]
  - 年齢 [P.14]
  - 性別 [P.14]
  - 二次判定結果（要介護度） [P.15]
  - サービス利用の組み合わせ [P.15]
  - 訪問系サービスの合計利用回数 [P.16]
  - 通所系サービスの合計利用回数 [P.16]
  - 短期系サービスの合計利用回数 [P.17]
  - 障害高齢者の日常生活自立度 [P.17]
  - 認知症高齢者の日常生活自立度 [P.18]

※図表タイトルの「★」は、オプション調査項目であることを示しています。

# 1 基本調査項目（A票）

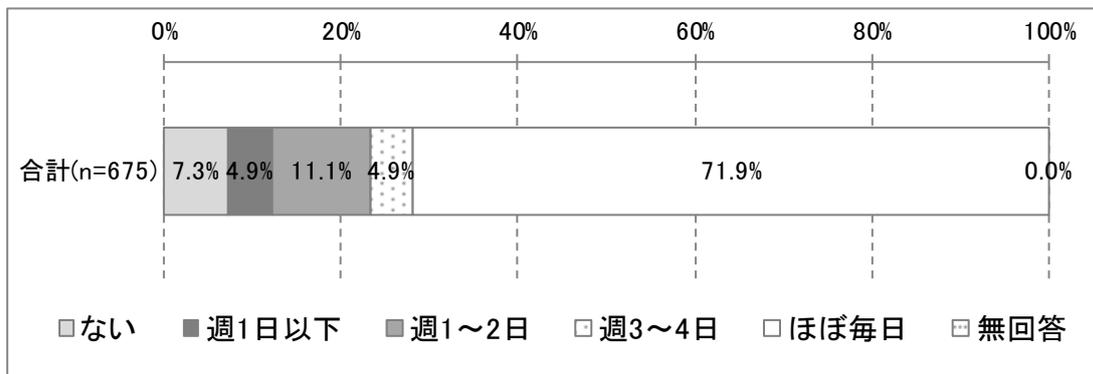
## 世帯類型

図表 1-1 世帯類型（単数回答）



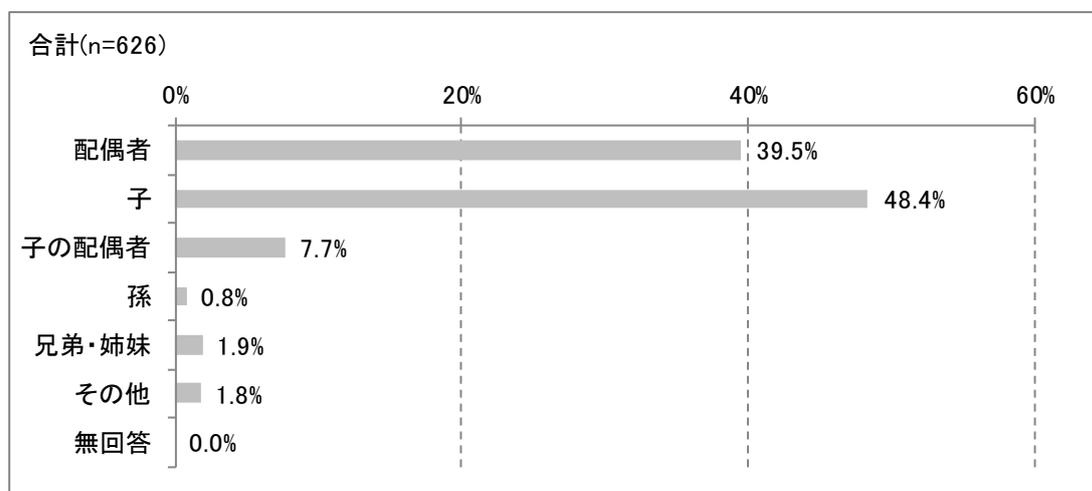
## 家族等による介護の頻度

図表 1-2 家族等による介護の頻度（単数回答）



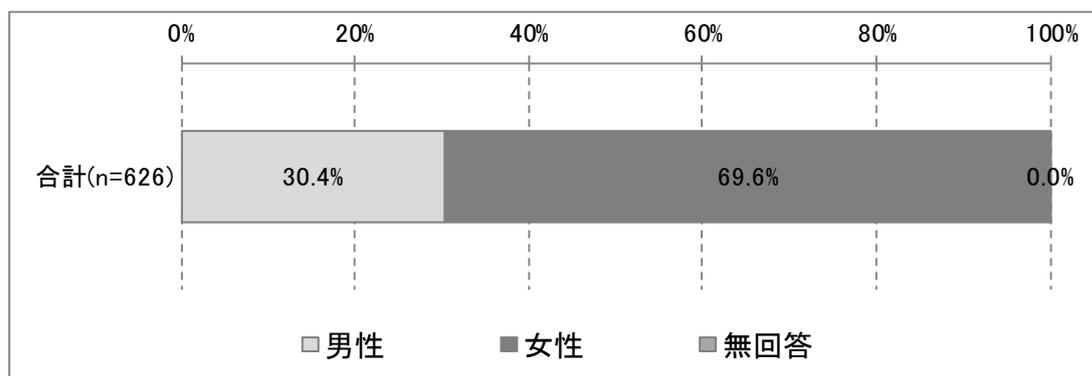
## 主な介護者の本人との関係

図表 1-3 ★主な介護者の本人との関係（単数回答）



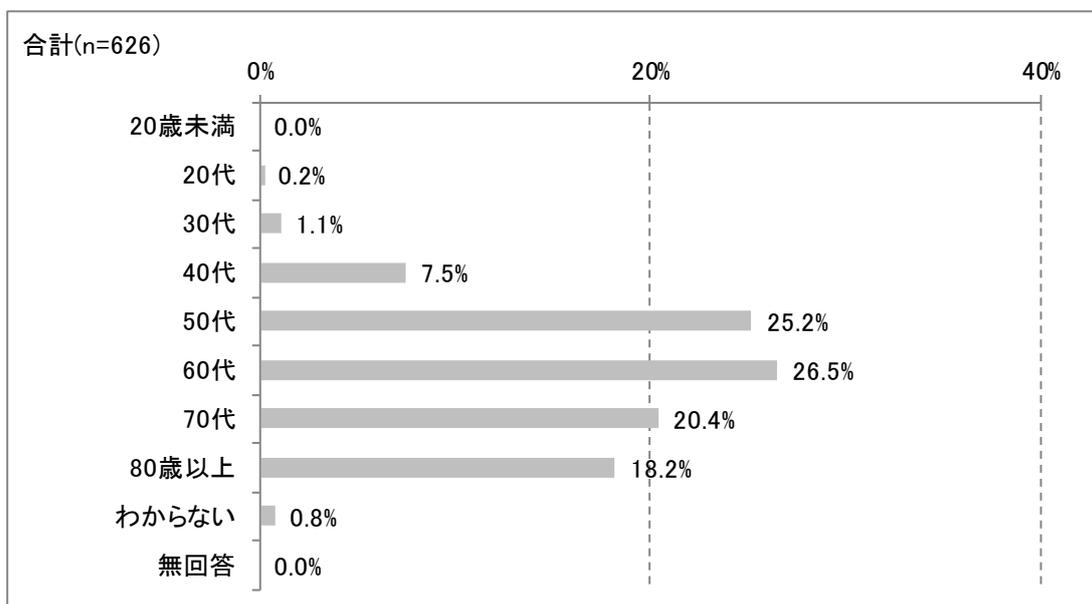
## 主な介護者の性別

図表 1-4 ★主な介護者の性別（単数回答）



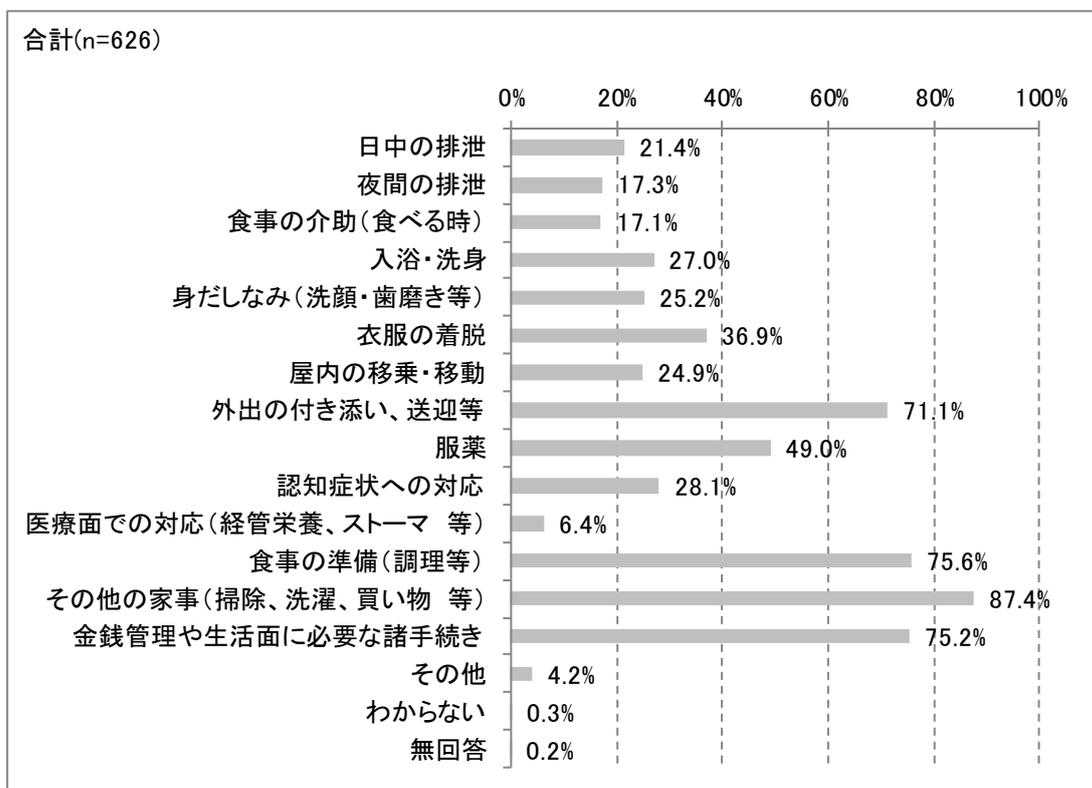
## 主な介護者の年齢

図表 1-5 主な介護者の年齢（単数回答）



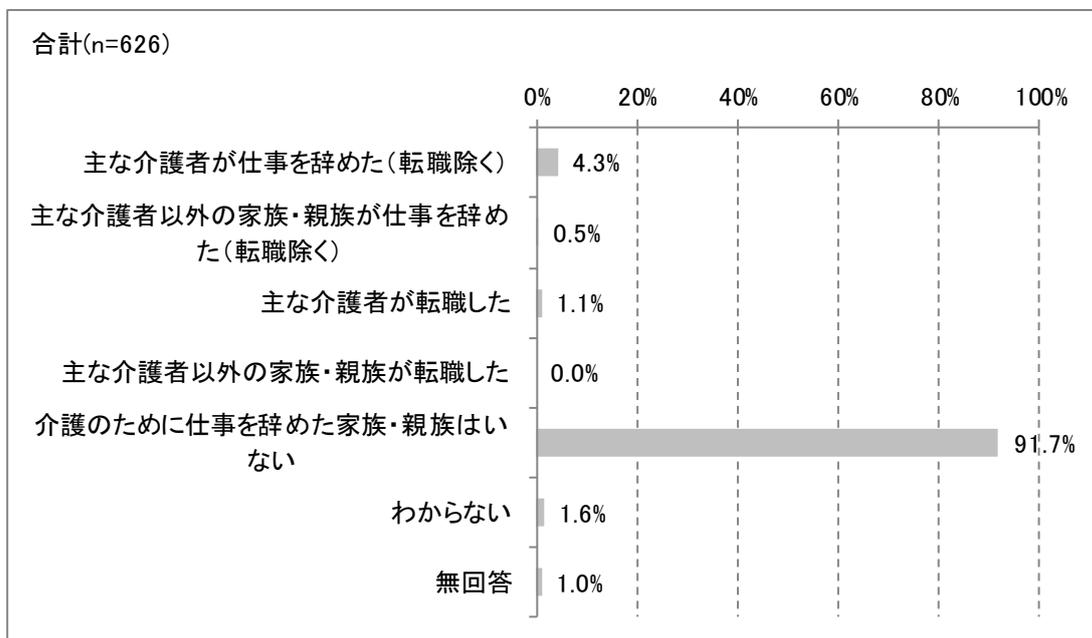
## 主な介護者が行っている介護

図表 1-6 ★主な介護者が行っている介護（複数回答）



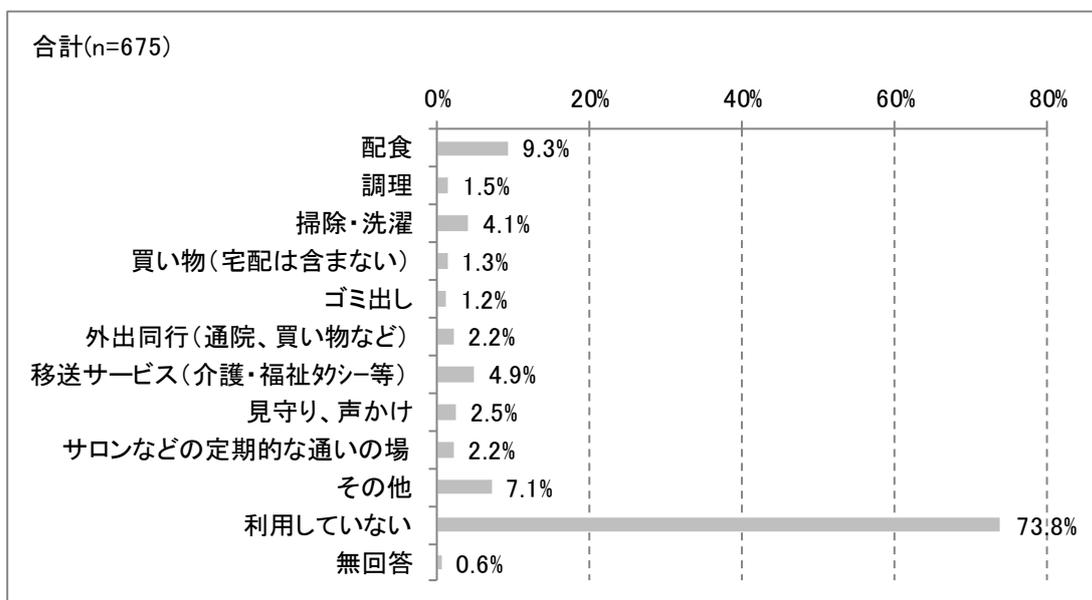
介護のための離職の有無

図表 1-7 介護のための離職の有無（複数回答）



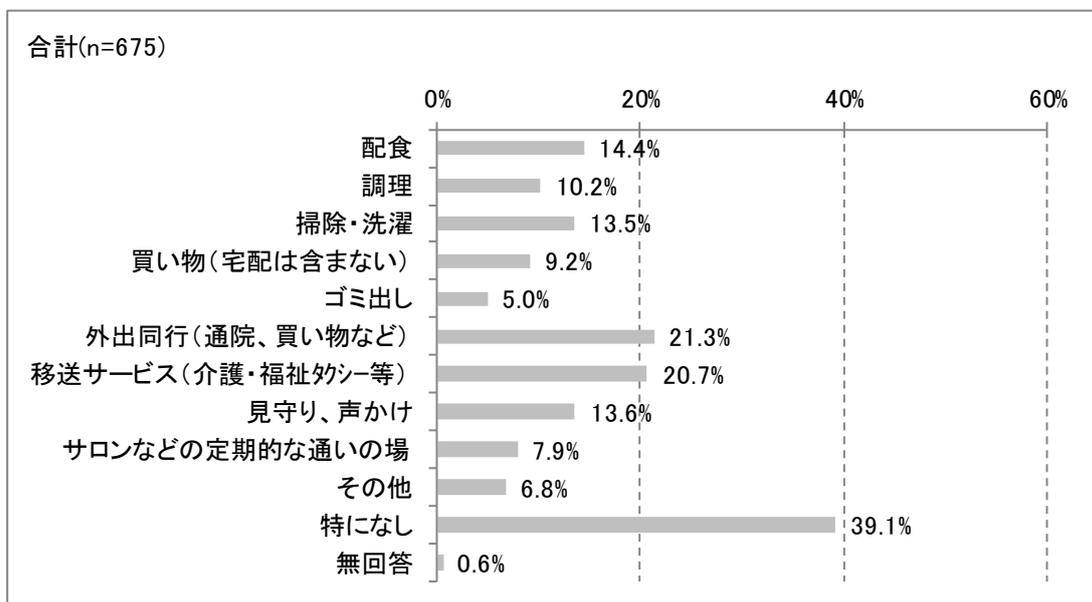
保険外の支援・サービスの利用状況

図表 1-8 ★保険外の支援・サービスの利用状況（複数回答）



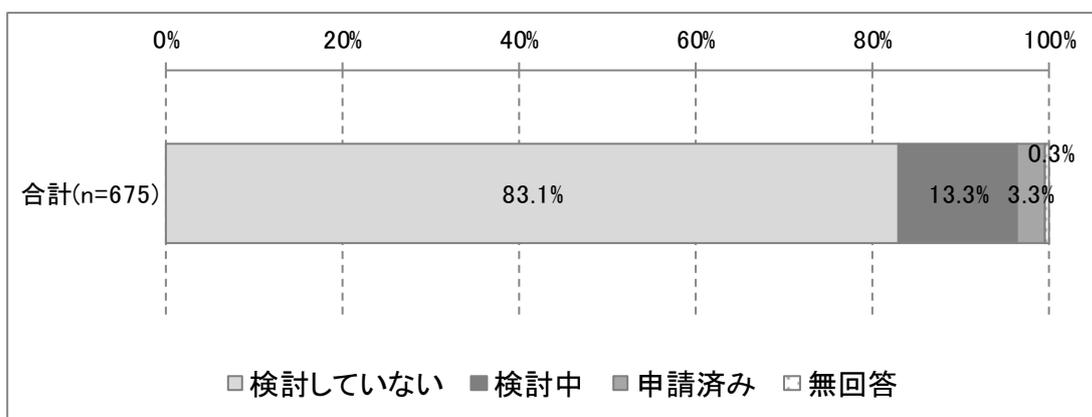
## 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

図表 1-9 ★在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）



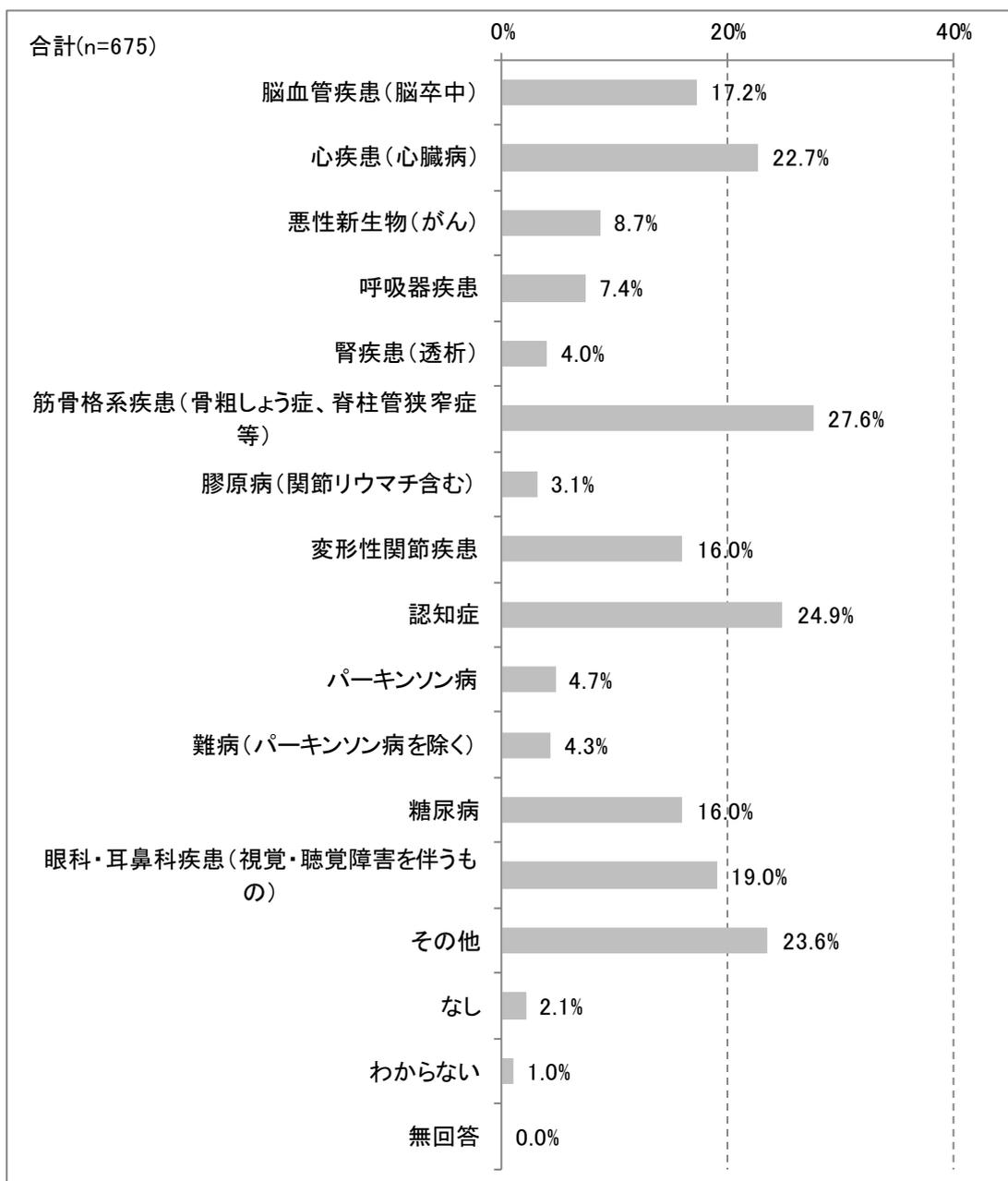
## 施設等検討の状況

図表 1-10 施設等検討の状況（単数回答）



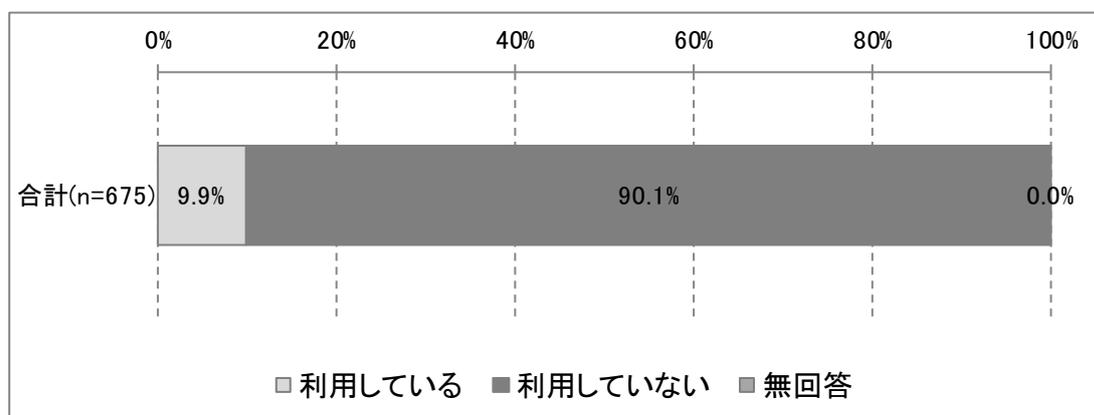
本人が抱えている傷病

図表 1-11 ★本人が抱えている傷病（複数回答）



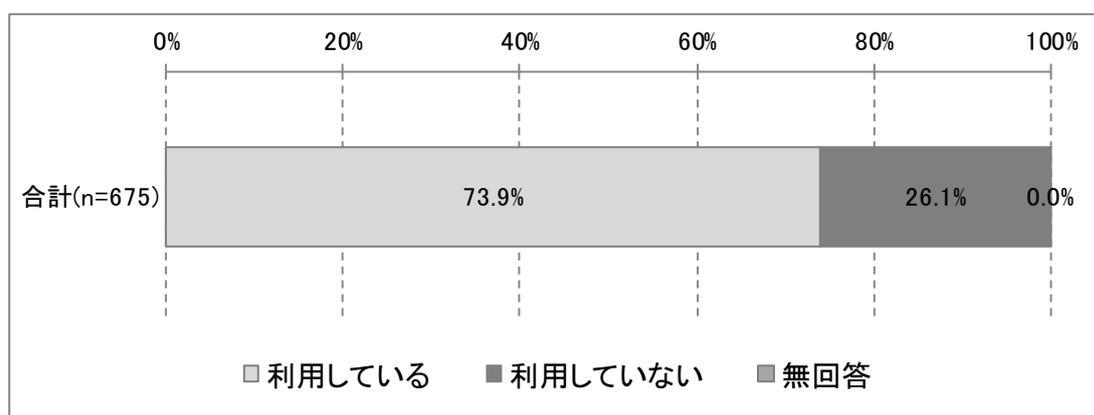
## 訪問診療の利用の有無

図表 1-12 ★訪問診療の利用の有無（単数回答）



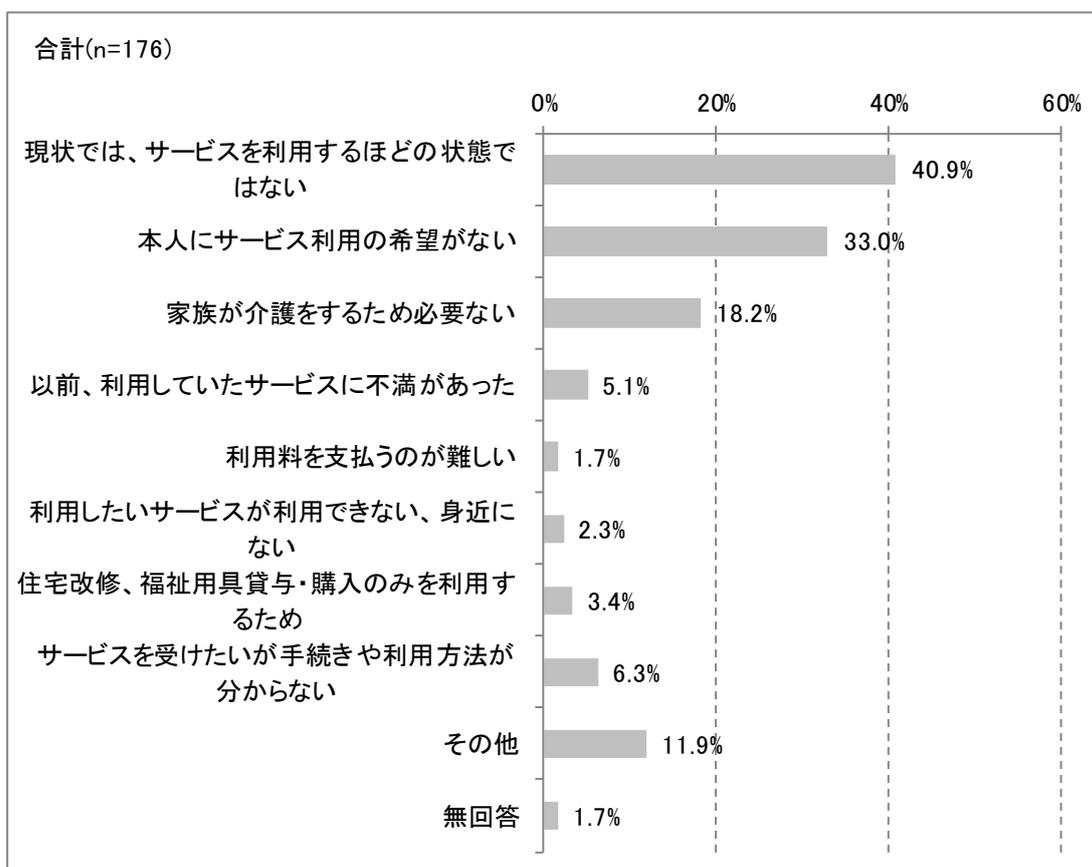
## 介護保険サービスの利用の有無

図表 1-13 ★介護保険サービスの利用の有無（単数回答）



## 介護保険サービス未利用の理由

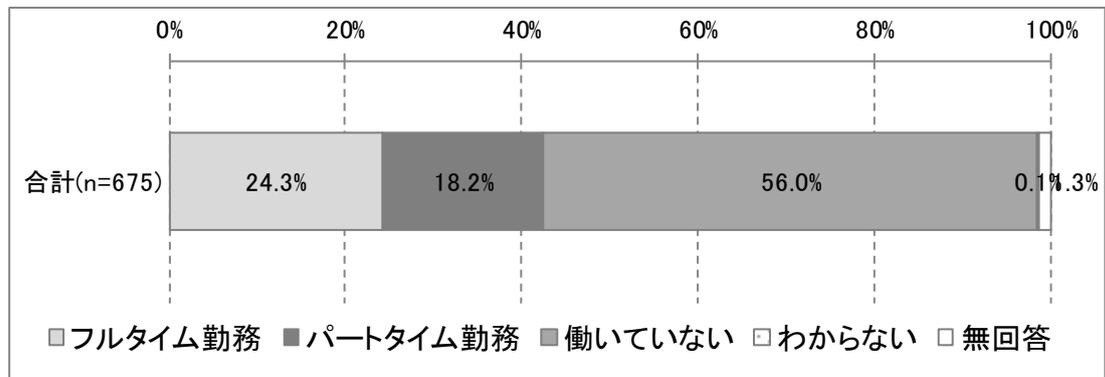
図表 1-14 ★介護保険サービスの未利用の理由（複数回答）



## 2 主な介護者様用の調査項目（B票）

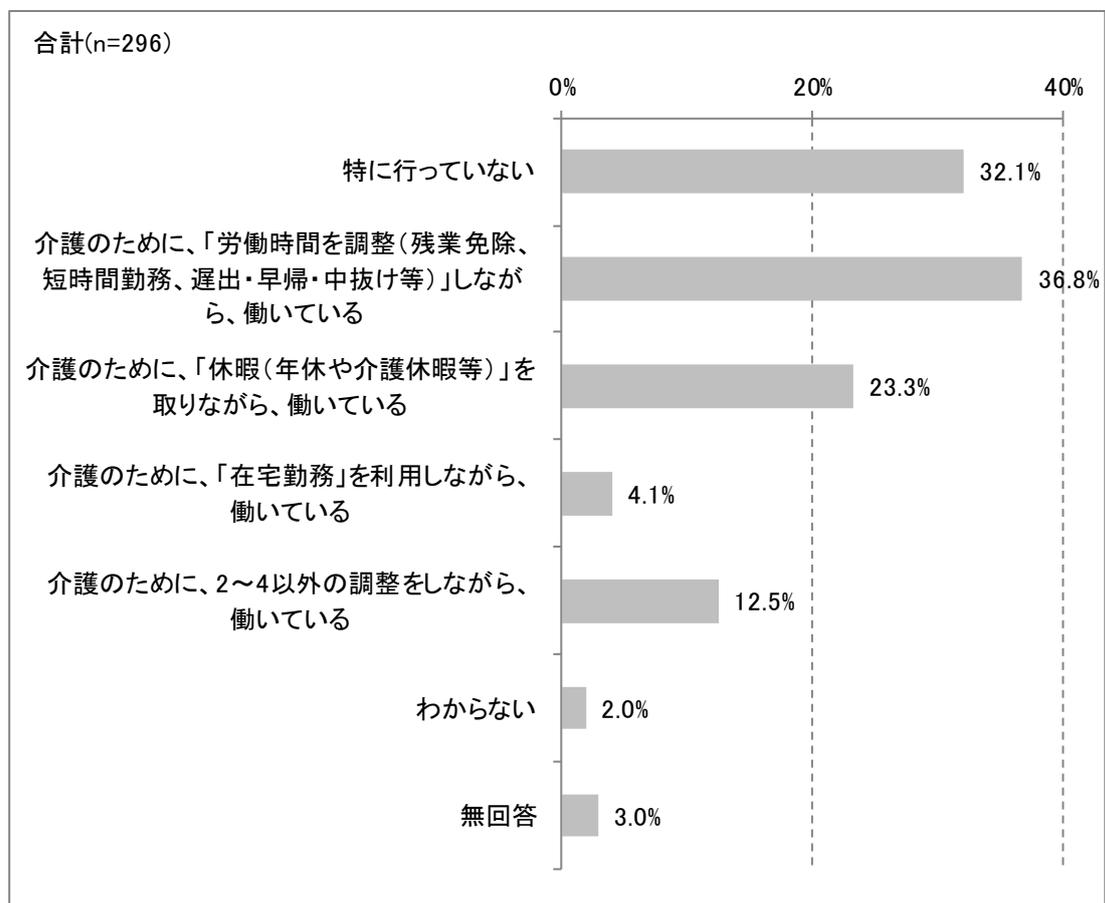
### 主な介護者の勤務形態

図表 2-1 主な介護者の勤務形態（単数回答）



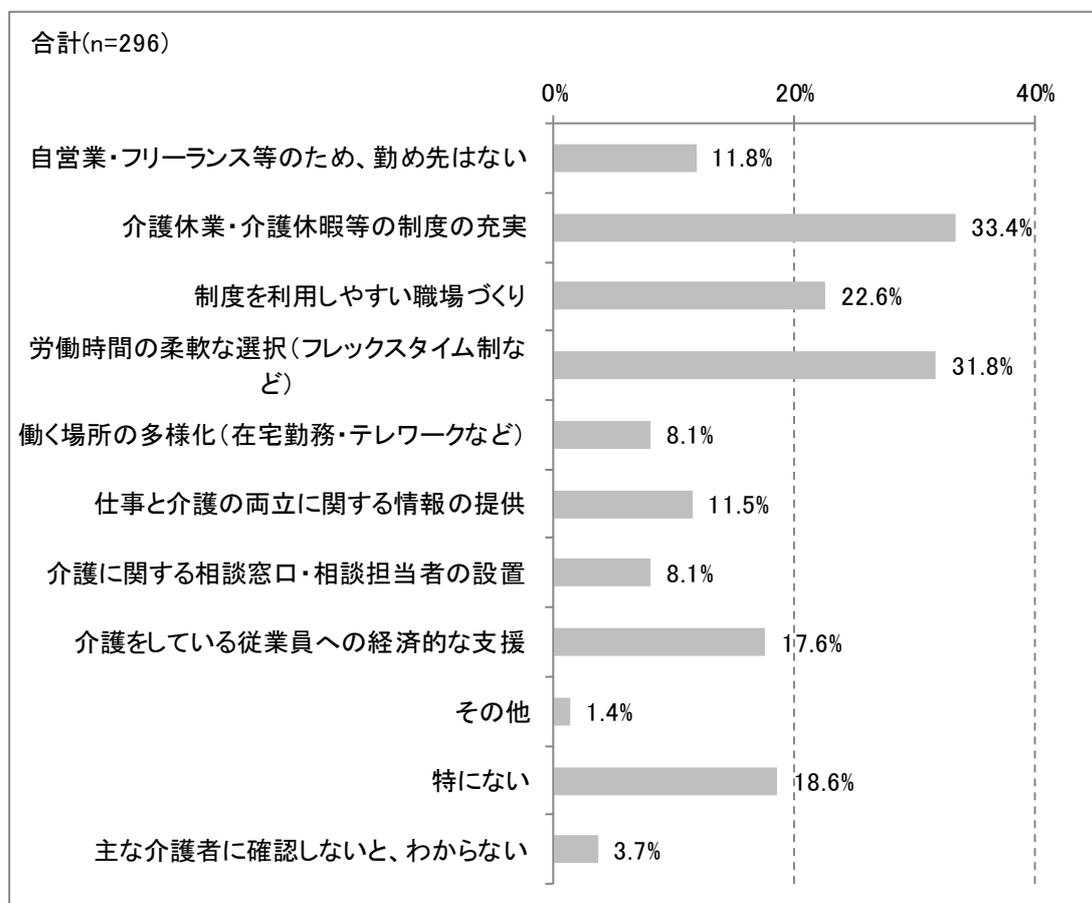
### 主な介護者の方の働き方の調整の状況

図表 2-2 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）



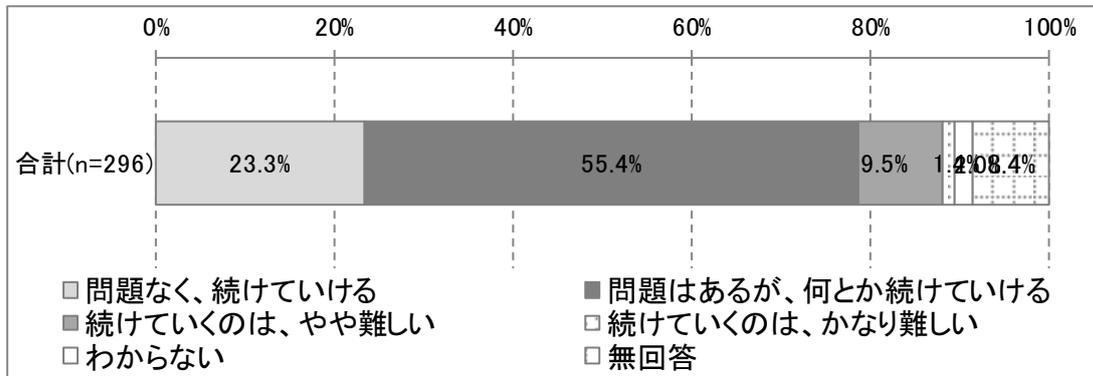
## 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

図表 2-3 ★就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援（複数回答）



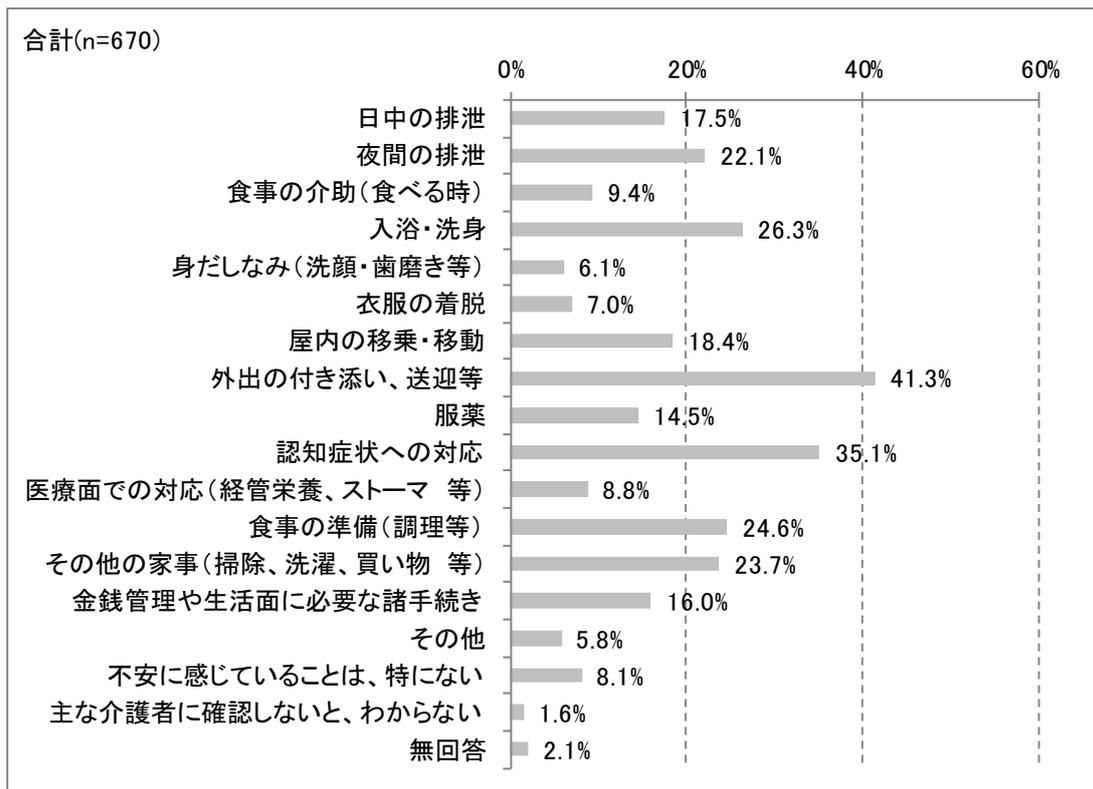
主な介護者の就労継続の可否に係る意識

図表 2-4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識（単数回答）



今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安を感じる介護

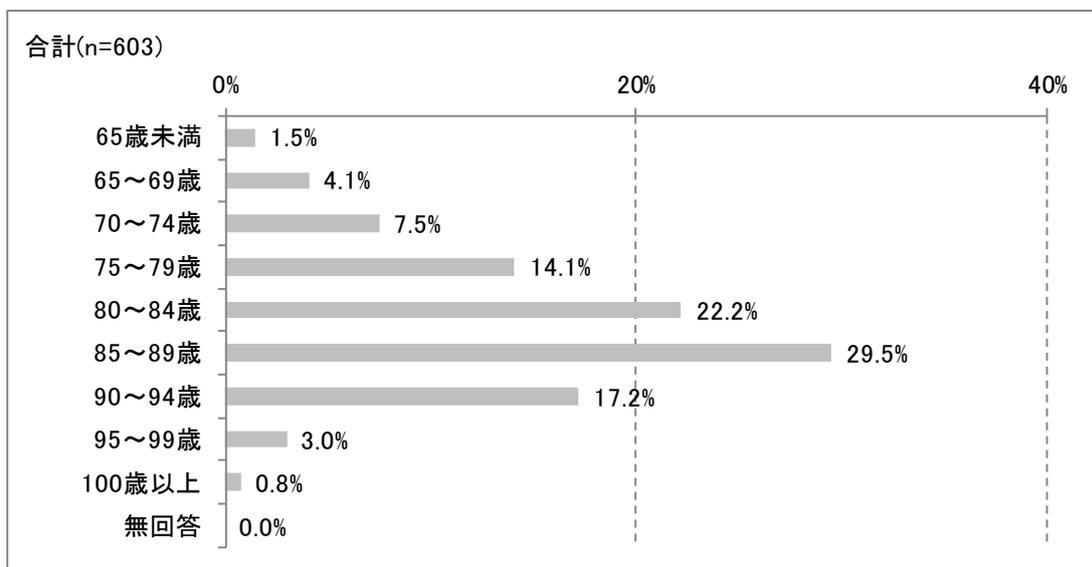
図表 2-5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安を感じる介護（複数回答）



### 3 要介護認定データ

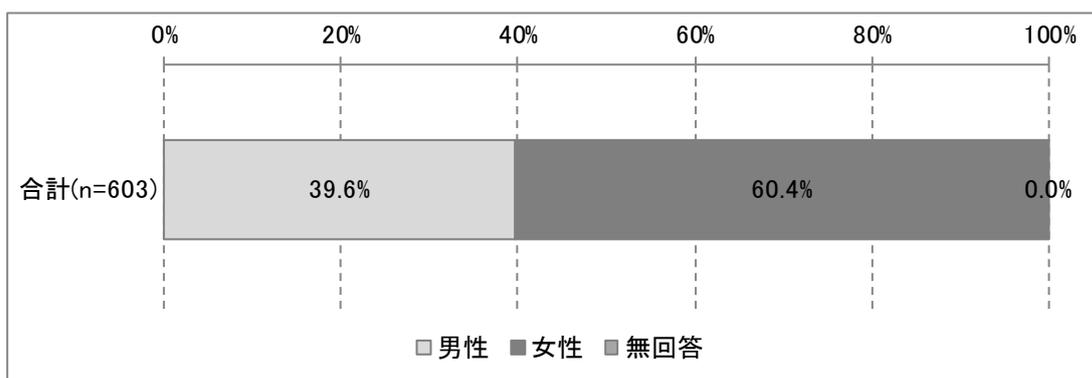
#### 年齢

図表 3-1 年齢



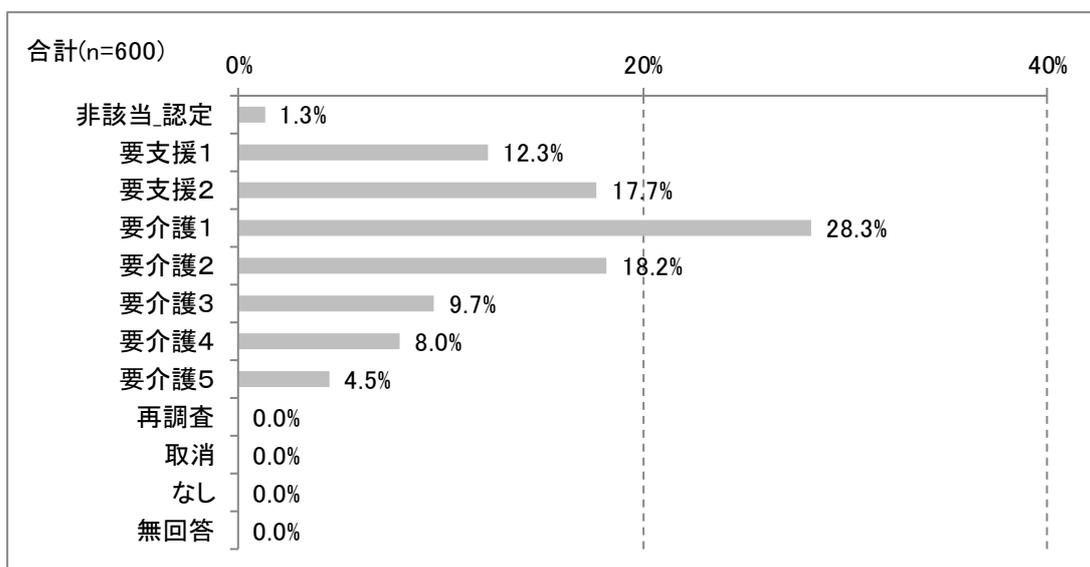
#### 性別

図表 3-2 性別



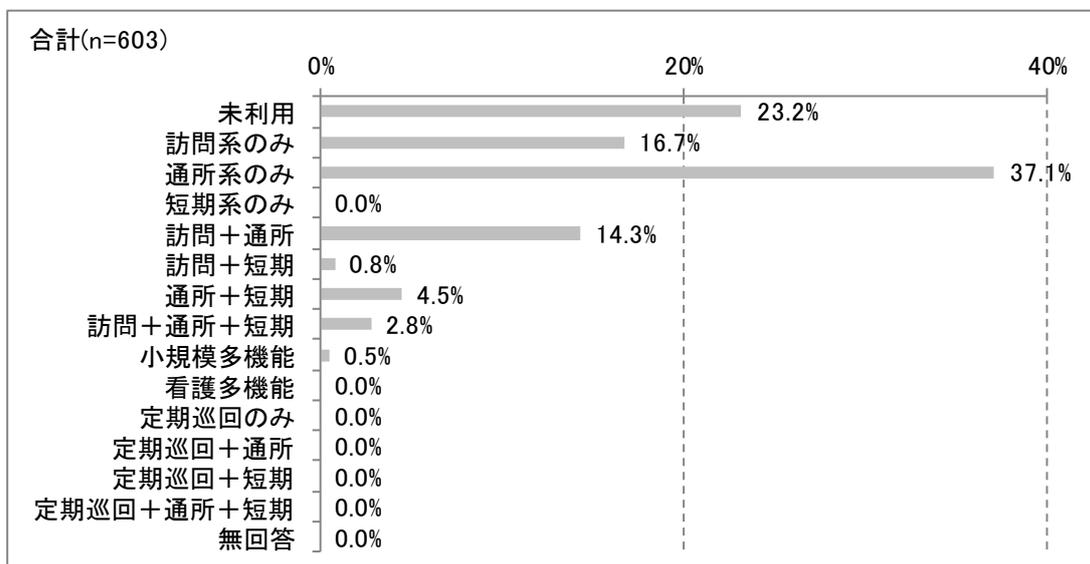
## 二次判定結果（要介護度）

図表 3-3 二次判定結果



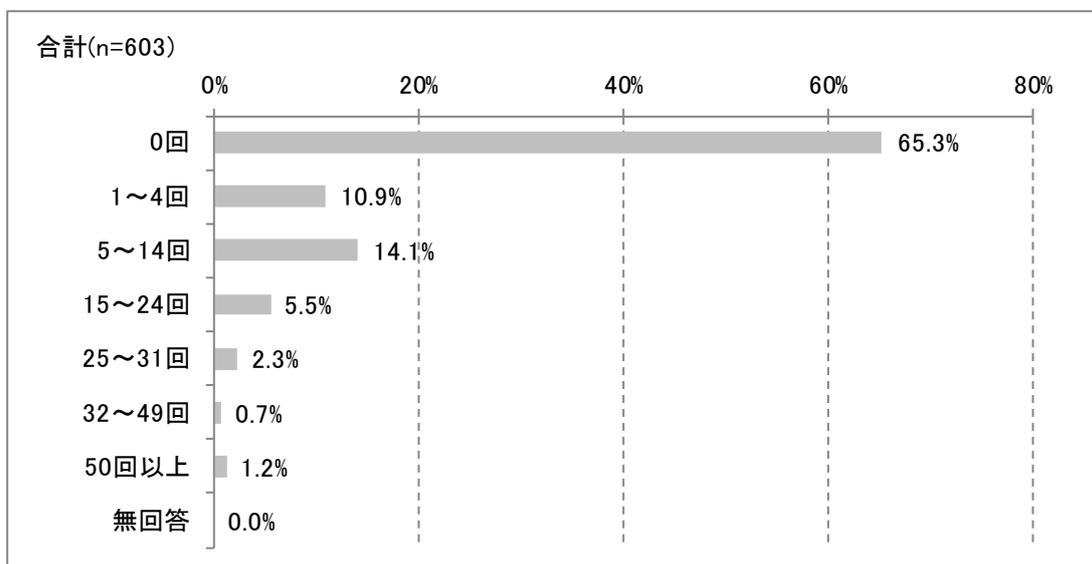
## サービス利用の組み合わせ

図表 3-4 サービス利用の組み合わせ



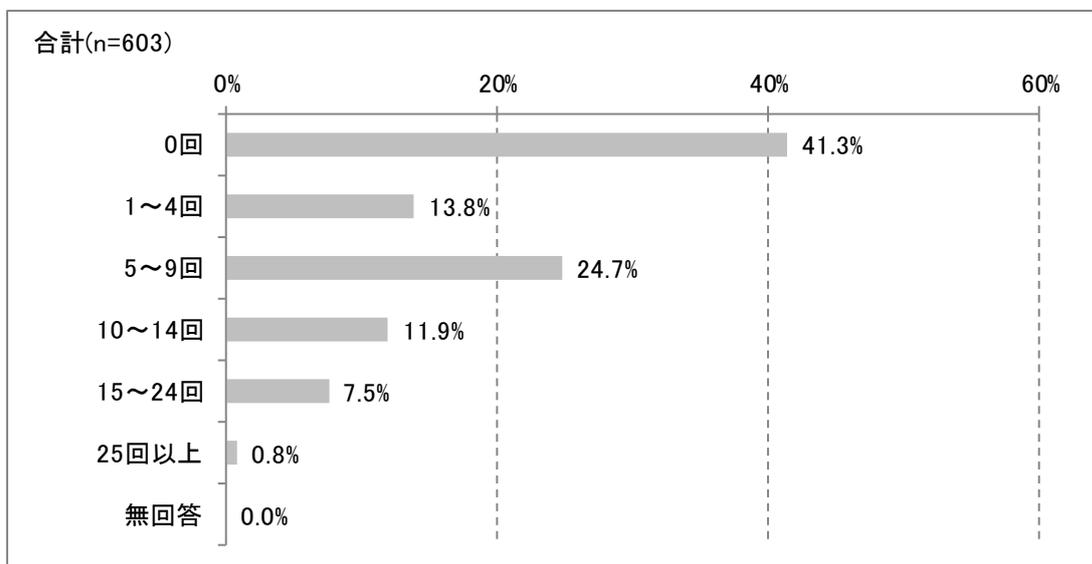
## 訪問系サービスの合計利用回数

図表 3-5 サービスの利用回数（訪問系）



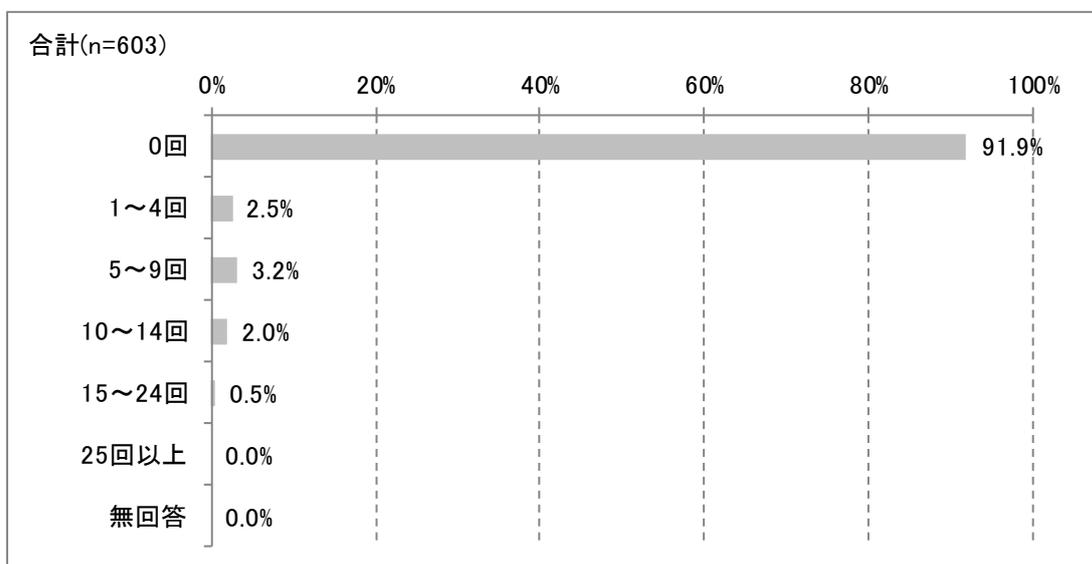
## 通所系サービスの合計利用回数

図表 3-6 サービスの利用回数（通所系）



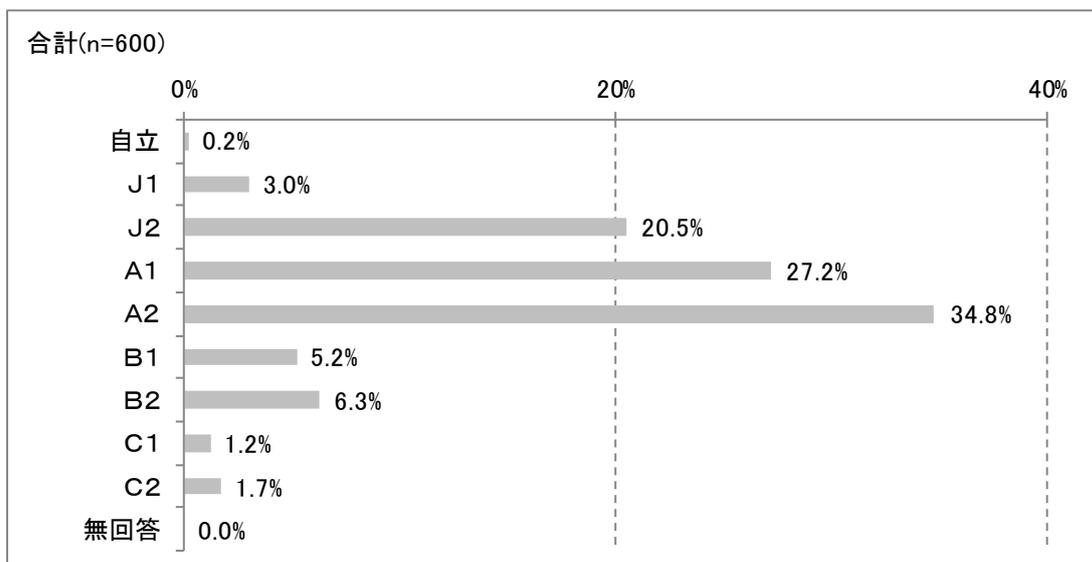
## 短期系サービスの合計利用回数

図表 3-7 サービスの利用回数（短期系）



## 障害高齢者の日常生活自立度

図表 3-8 障害高齢者の日常生活自立度



# 認知症高齢者の日常生活自立度

図表 3-9 認知症高齢者の日常生活自立度

